富山経済同友会まちなか活性化プロジェクト

まちなかスタジアム構想

コンパクトシティ施策に資する
多機能複合型大規模集客施設の整備による
持続可能なまちづくりの提言

富山経済同友会 地域活性化委員会

2015 年 4 月

目　　次

序章　まえがき ····· **1**
第１章　まちなかスタジアム ····· **2**
１．まちなかスタジアムの特徴 ····· 2
２．国内スタジアム整備の動向 ····· 4
３．欧州スタジアム整備の動向 ····· 6
４．富山のスタジアムの現状 ····· 8
第２章　富山経済同友会の取組み ····· **10**
１．講演会及び勉強会の開催 ····· 10
２．国内スタジアムの視察 ····· 14
３．欧州スタジアムの視察 ····· 16
４．カターレ富山応援とアンケートの実施 ····· 18
第３章　富山まちなかスタジアム構想 ····· **23**
１．地方都市富山の活性化に貢献するまちなかスタジアム ····· 23
２．スタジアム整備効果が発揮されやすい地域 ····· 25
３．富山まちなかスタジアム基本構想（案） ····· 28
４．富山まちなかスタジアムによる地域活性化について ····· 40
５．整備による経済波及効果の試算 ····· 46
６．実現可能な事業スキームの検討 ····· 55
７．今後の課題 ····· 58
８．まちなかスタジアム構想の提言 ····· 59

巻末資料１：まちなかスタジアム検討案 ····· 資―1
巻末資料２：地域活性化委員会　委員名簿 ····· 資―5

序章　まえがき

「この後、祝勝会できればいいんだけどね・・・」
これは 3 年前のある日、富山経済同友会地域活性化委員会メンバーで、カターレ富山戦を富山県総合運動公園で観戦し、劇的な勝利に酔いしれた後に、ある委員から出た発言です。
「まちなかにスタジアムがあればこのまま飲みに行けて盛り上がるよね・・・」

そんなふとした思いがきっかけとなり、25・26 年度地域活性化委員会のテーマは「まちなかスタジアム構想の提言」となりました。最初は観戦後の飲食があれば、観客も増えるし、まちも潤うという程度の考えで事例調査を開始しましたが、調査をしていく過程で様々なことが解り始めました。それは「スタジアムはまちづくり」である、ということです。
Ｊリーグが「まちなかスタジアム」を推奨していることや、ヨーロッパのスタジアムは最初からまちの機能の一つとして、場合によっては中心的な機能を果たすように整備されていること、人々がスタジアムを誇りに思い、そこでプレーする地域のチームを自然に応援するようになっていること、さらにはそのことが地域のアイデンティティに繋がっていること。そして、この日本の各地でも様々なスタジアム構想があること。例えば大阪、広島、横浜、北九州、松本、相模原、平塚、岡山・・・。
決してサッカーチームを応援するためだけではなく、折角あるプロスポーツという地域資源を活用し、スタジアムという媒体を通じてまちづくり、地域活性化につなげる・・・・。メンバー一人のつぶやき、「祝勝会が・・・」から始まった構想が実はこれからの地域経済・社会にとってとても重要な構想なのだということに我々メンバーは徐々に気づいていったのです。

さて、そんな 2 年間の活動を経て、様々な方々のご協力、委員会メンバーの努力を経て、ここに提言書を発刊できることになりました。一方で我々は普通の経済人の集まりであり、まちづくりの専門家ではありません。提言するだけなら誰でもできるかもしれません。また提言内容もまだまだ内容不足、検討不足の感も否めません。目を通していただく皆様にはどうかご容赦いただければ幸いです。

されど物事は、一歩踏み出さないと何も始まりません。きっかけが無いと始まりません。誰かが言わないと始まりません。我々地域活性化委員会の活動は、まさにその「一歩」「きっかけ」「誰か」そのものだと考えています。この提言書に目を通されて、少しでもそのことに気づかれた方がいるとすれば、どうか我々とともに、大いなる「第一歩」を踏み出す勇気を共に持とうではありませんか。我々の古里、富山の輝かしい未来、そして子供たちに明るい日本を託すために。

末筆ではございますが、ご協力いただきました関係者の皆様、講師の先生、地域活性化委員会の皆様には心より御礼申し上げ、序章の言葉に代えさせていただきます。

平成 25･26 年度　富山経済同友会　地域活性化委員会委員長　市森　友明

第１章　まちなかスタジアム

１．まちなかスタジアムの特徴

この提言書にて述べる「まちなかスタジアム」は多機能複合型のサッカー専用スタジアムである。

まちなかに整備することにより、公共交通利用促進、まちなか活性化、スポーツ文化醸成、シティセールスなど様々な効果が生まれ、より良いまちづくりを目指すものである。

（１）公共交通に近接し、高い利便性がある

利便性の高い公共交通に近接するまちなかスタジアムは、高齢者や子どもなどの車を使えない人や、県外からの来訪者にとって、自由にアクセスが可能となり、誰もが日常的に利用できる。

観客は試合前後には「観光客」となる。公共交通や徒歩を中心に移動する観客が、長く滞留する仕掛けがあれば、まちなかに大きな経済波及効果をもたらす。



まちなかを走る公共交通

（２）多機能複合型とすることで、商業・ビジネス等に年間を通じて活用できる

スタジアムを公式試合で使う日は、年間に数十日である。

ショッピング、レストラン、カフェ、ホテル、会議室、ライブ・イベント会場、スポーツジム等、まちなかスタジアムに様々な機能を複合化することで、年間を通して市民生活との接点をつくり、稼働率を向上することにより施設全体としての収益を上げ、整備効果を高めていく。

365 日、試合のない日でも人を呼ぶことにより、まちに賑わいを創出するとともに、周辺に立地する他施設との複合的な関係を持ち、機能を補いながら多様化を図ることもできる。



ＶＩＰラウンジが備えられたスタジアム
（ポーランド ヴロツワフ市立競技場）

（３）都市におけるスポーツ文化・観光・交流拠点となる

スポーツ観戦は地域間交流を促進する。

他の地域から自らのチームを応援するためにやってくる定期的な観光客（アウェイサポーター）は、毎週のように大きなコンベンションを開催するに等しい集客力があり、まちなかスタジアムは街の集客装置となる。

地域内でのスポーツ文化、交流拠点としてだけでなく、県外との繋がりを促進する観光・交流拠点にもなり得るのがまちなかスタジアムである。



埼玉スタジアムへ向かう人々
（出典　インターネット HP）

（４）快適で臨場感のある観戦環境を創出する

選手の息づかいが聞こえるような臨場感溢れる距離で、誰もが安心して快適に観戦できる環境は、試合観戦への満足度を高め、スポーツ文化をより一層醸成する。

ピッチとの距離が近く、屋根で覆われて雨天時でも快適に観戦でき、また自らの声援が屋根により反響することで、観戦環境は自然と盛り上がっていく。

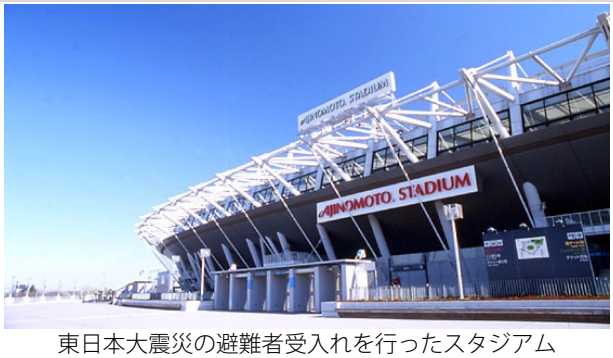


客席全体を覆う屋根がある球技専用スタジアム
（仙台市　ユアテックスタジアム仙台）

（５）災害発生時には防災拠点となる

高度な情報通信機器を持ち、トイレや更衣室、厨房施設等を備えるまちなかスタジアムは、いざというときの防災拠点としても機能する。

太陽光発電設備等の自家発電設備があれば、エネルギーの供給が可能であり、物資の備蓄拠点としても活躍が期待できる。広いピッチや屋根付きのスタンドを活かし、一時的な帰宅困難者の受け入れ場所としての役割も想定できる。



東日本大震災の避難者受入れを行ったスタジアム
東京都 味の素スタジアム（ＦＣ東京本拠地）

（６）市民の愛着、誇りを醸成できる

ホームスタジアムがまちの中心にあることにより、隔週単位で数千人から数万人が、その地域はもとより、県外等の他地域からも訪れ、まちなかに多くの人が集まることとなる。

また、スタジアムはまちのシンボルとして、県民･市民にとってまちの誇りとなり、地域への愛着を醸成することとなる。



スタジアムに集まるサポーターのイメージ
（出典：ギラヴァンツ北九州スタジアム整備図）

（７）まちのシンボルとしてシティセールスを担う

まちのシンボルとして、スタジアムが整備されることにより、まちを代表する看板スポットとして、シティセールスを担うこととなる。



周辺のまちづくりのシンボルとなっているスタジアム
（英国　スタンフォードブリッジ）

２．国内スタジアム整備の動向

国内各地の Ｊリーグのホームタウンを中心とするいくつかの地域では、公共交通に隣接するなど交通アクセスに配慮した適正規模（収容規模 15,000～20,000 人前後）のサッカー専用（若しくはラグビー等兼用）スタジアムを整備し、スポーツ文化、交流・活性化拠点を目指す計画が公表されている。

スポーツジム、ショッピングモール、レストラン、ホテル、会議室や幼老施設等を組み合わせた複合型施設の計画がトレンドとなっており、非日常的施設のスタジアムに日常の施設を組み合わせることで、スタジアム未利用時の活用を促進し、収益性の高い施設作りを計画している事例が見られる。

以下に、国内でのスタジアム事例について整理する。

（１）広島市における事例　　（Ｊ１　サンフレッチェ広島）

・サンフレッチェ広島の本拠地として、広島市へのサッカー専用スタジアム整備を構想中。
・既存スタジアムの構造上の問題や、交通アクセスの課題を解決するため、利便性の高い市街地への立地を検討している。検討にあたって県・市・商工会議所・サッカー協会からなる協議会が設置され、具体的な議論が行われている。
・建設地の選定が大きな課題となっており、旧広島市民球場跡地活用、広島みなと公園の 2 案で議論が分かれている。



広島のスタジアム整備イメージ
（出典：サンフレッチェ広島 HP）

（２）吹田市における事例　　（Ｊ１　ガンバ大阪）

・ガンバ大阪の本拠地として、40,000 人収容のサッカー専用スタジアムを建設中。
・日本初である、法人・個人の寄付金を中心とした資金スキームによって整備。140 億円の目標額に対し、約 135 億円が集まり、2015 年秋の完成を目指して、建設が進んでいる。
・ＶＩＰルームの会議室利用やコンコース利用の展示会開催等イベントでの活用が検討されている。



ガンバ大阪スタジアム整備イメージ
（出典：ガンバ大阪 HP）

（３）北九州市における事例　　（Ｊ２　ギラヴァンツ北九州）

・ＪＲ小倉駅北口に、Ｊ１基準である 15,000～20,000 人収容のサッカー専用スタジアムを建設予定。
・小倉駅から 7～800mの距離にあり、また新幹線口地区の拠点性を活かし、周辺施設との連携に配慮した施設配置による地域全体の回遊性向上を狙う。
・整備当初はスタジアム基準最低限の規模におさえ、将来の客席拡張の余地を残した計画を検討。
・基礎調査、事業計画策定、公共事業評価を終え、ＰＦＩ事業民間事業者の公募を実施。（九電工グループで事業実施決定）



図　北九州市のスタジアム事業計画
（出典：北九州市ＨＰ）

北九州市　スタジアムの検討経緯

H13 年 4 月	ニューウェーブ北九州の誕生 （九州リーグへの参戦）
H19 年 4 月	北九州体育協会を通じ、北九州市サッカー協会、ラグビー協会からの要望
H20 年 3 月	スポーツ振興審議会から体育施設のあり方について提言
H21 年 11 月	ニューウェーブ北九州のＪリーグ昇格 （「ギラヴァンツ北九州」の誕生）
H22 年 11 月	「新球技場の基本方針」の公表（市長会見）
H23 年 8 月	市民説明の状況について（中間報告）
H23 年 10 月 ～ H24 年 2 月	1 回目の公共事業評価の実施（全 5 回） 「具体的な事業計画を示すため基本設計等を行うことについて異存なし」とのまとめ
H24 年 3 月	公共事業評価結果等に対するパブリックコメントの実施
H24 年 7 月	「新球技場の整備方針（案）」の策定
H25 年 2 月 ～4 月	2 回目の公共事業評価の実施 ・道路移設を伴う陸上部案（1.5 万人規模の拡張可能型、事業費約 89 億円） ・事業実施することについて、すべての構成員が「異論なし」の意見
H25 年 4 月	公共事業評価結果等に対するパブリックコメントの実施
H25 年 6 月	整備着手表明（市長定例記者会見）
H25 年 8 月	「新球技場について」のタウンミーティング開催 参加人数：280 人
H25 年 9 月	H25 年 9 月議会補正予算（新球技場整備事業、債務負担行為約 96 億円）
H26 年	事業計画発表・ＰＦＩ事業公募









スタジアム整備イメージ
（出典：北九州市ＨＰ）

３．欧州スタジアム整備の動向

（以下 J．LEAGUE　NEWS 特別版「スタジアムの未来」より図版、本文を引用して構成）

欧州のスタジアムにおいては、まちづくりやコンパクトシティの中核を担う交流空間として、スポーツ機能以外に「多機能複合型」「まちなか立地」「収益力向上」等の要素を加味したものが主流となっており、周辺のエリアマネジメントを含め、持続可能な交流施設整備が行われている。これからのスタジアム整備に参考となる事例を以下に示す。

（１）多機能複合型スタジアムが主流である

多機能複合により、サッカーの試合開催日以外の稼働率を高め、継続的に収益を上げられるように施設整備されている。「これからはさまざまな機能がないと、サッカーだけでは運営できない」。バーゼルのスタジアム経営者であるクリスティアン・ケルン社長は断言している。ホームの公式試合は 1 シーズンで 30 日弱。多機能複合型として、年間を通して稼働率を高めて施設全体の収益を上げている。

［スタジアムに含まれる複合機能の例］
・ショッピングセンター、レストラン、ホテル、オフィス、ホームセンター、介護付き高齢者用集合住宅、教育センター、職業専門学校、フィットネスクラブ、見本市など



試合のない日もスタジアムのレストランで
食事ができる（英国のボルトン）



スタジアムに併設したコンベンションホール
（アムステルダム　リコーアリーナ）

（２）スタジアムが社交の場として活用されている。

最近のスタジアムには「ともに食べる」ことを楽しむ社交ラウンジが増えている。

ベルンには、チャンピオンズラウンジの壁に「名刺ボックス」が用意される。クラブのスポンサー同士という関係を生かしたビジネスマッチングに効果的となっている。年間契約した企業には、10 人前後を収容できる個室スカイボックスに独自のインテリア装飾を施し、試合のない日も商談や会合に自由に利用できる施設が提供される。



ビジネスチャンスが広がる
名刺ボックス（ベルン）



個室スカイボックス。契約企業は独自にインテリア
をデザインできる（ともにヴォルフスブルグ）

（３）街の集客装置として機能している

欧州のサッカースタジアムもアメリカのボールパークも今、まちなかに回帰している。年間を通して週末ごとに、多いときには万人単位の巨大集客装置となる。千人単位のアウェイファン・サポーターも、試合の前後は「観光客」となる。スタジアムへのアクセスは徒歩が中心となり、観客が長く滞留する街の仕掛けがあれば、中心市街地に大きな経済波及効果をもたらす。



市街地内に立地するスタジアム
（ドレスデン）



ショッピングモールと併設したスタジアム
（アムステルダム・アレナ）

（４）スタンドとピッチが近く、臨場感が高められている

スポーツが文化として認められる舞台は、競技の専門性と感動を最大限に引き出す「劇場」スタイルでなければならない。専用スタジアムはどの位置、角度からも選手と観客の距離が近く、一体感が生まれる設計となっている。

スコットランドリーグで毎シーズン「最も雰囲気の良いスタジアム」の表彰でエジンバラのタインキャッスルスタジアムが 2 年連続で受賞しているが、スタンドとピッチの距離の近さが大きな理由である。



ピッチと客席の距離が近いスタジアム

（５）快適な観戦環境が確保されている

性別、年齢、ハンディを超えて、誰もが安心して楽しめる空間、観戦環境を整えることでコミュニティができる。

競技者のスポーツ環境と同じく、観客やメディアの環境も快適でなければならない。シーズンチケットを購入し、毎試合ホームゲームの応援に、あるいは遠くアウェイのスタジアムまで足を運ぶ動機には、スタジアムの環境の良さ（交通アクセスの良さ、屋根がある観客席、バリアフリーへの配慮、独立した個席等）が大きく影響する。



車椅子用の専用リフト設置（マクデブルク）



四方が屋根で覆われたスタジアム（スイス）

（６）環境へ高い配慮がされている

スタジアムに環境に配慮した工夫を施し、経済成長と環境政策の両立を実現する。

［スタジアムにおける環境配慮の例］
・効率的で持続可能な土地利用の視点から、集まりやすいまちなかに立地、雨水の活用、多くの緑に囲まれた環境づくり、屋根に太陽光発電、ごみの削減やリサイクル



スタジアムの屋根に設置されたソーラーパネル（ベルン）

４．富山のスタジアムの現状

現状の富山県総合運動公園陸上競技場はＪリーグの基準を概ね満たしているものの、観戦環境においては不十分な点もあり、改善が必要な施設である。また、郊外部に位置するため、プロスポーツの地域活性化への寄与度が高いとは言えないと考えられる。以下に現状を整理する。

（１）スタジアムに関する主要基準

① 収容人数（席数）

国内におけるスタジアム整備基準は「Ｊリーグクラブライセンス交付規則」と「スタジアム標準」の２種が存在し、収容人数等基準が一部異なっている。Ｊリーグへの参加のみであれば、「Ｊリーグクラブライセンス交付規則」が適用される。

【クラブライセンス交付規則による入場可能数基準　（Ｊリーグが策定）】

カテゴリ	入場可能数
Ｊ１基準	15,000 人以上
Ｊ２基準	10,000 人以上
共通	イス席で 10,000 席以上 （ベンチシートは 一人あたり 45cm 幅）

【富山県総合運動公園陸上競技場】（カターレ富山本拠地）
・収容人数 18,471 人（芝生席は除く　公称：25,251 人）
⇒Ｊ１基準
※ただし、屋根面積が１／３に満たないためＢ基準に未達
（ライセンスは交付されるが条件付の状況）

※入場可能数：発券可能な席数（芝生席は発券不可）、常設 VIP 席等、車いす席数　の合計
※「Ｊリーグクラブライセンス交付規則」は毎年改定されており、要件が変動する可能性もある。

【スタジアム標準による収容人数でのクラス分類　（日本サッカー協会が策定）】

クラス	収容人数	対象大会
クラスＳ	60,000 人以上	ＦＩＦＡ Ｗ杯（ワールドカップ）
	40,000 人以上	ＦＩＦＡクラブＷ杯、ＡＦＣチャンピオンズリーグ決勝Ｔ、日本代表（Ａ代表）公式戦・親善試合等
クラス１ （Ｊ１標準）	20,000～40,000 人	ＡＦＣチャンピオンズリーグ、日本代表（五輪代表・Ｕ２０等）公式戦、Ｊ１等
クラス２ （Ｊ２標準）	15,000～20,000 人	日本代表（Ｕ２０等）公式戦、Ｊ２等
クラス３	5,000～15,000 人	ＪＦＬ等
クラス４	～5,000 人	地域リーグ等

② その他主要なスタジアム整備基準

【スタジアム標準、クラブライセンス交付規則より抜粋】

項目	内容
屋根	・新設の場合は原則として全ての観客席を覆うこと
ピッチ	・105m×68mの天然芝 ・予備エリア全周で 5m以上（サッカー専用の場合）
入場	・観戦エリアに応じた入場口を用意し、ホーム用、ビジター用に分けて待機列が設けられる十分な広さを用意すること
方位	・南北方向にゴール　西側にメインスタンドの設置（推奨項目） ※競技中及びメインスタンドからの観戦、中継時の西日の影響考慮
その他 主要な機能	・どこの席からも観覧しやすい観客席、傾斜角 ・VIP 席や記者席等各種座席と動線計画　・運営、選手関連諸室 ・場内放送、映像システム　・充分な数のトイレ ・メディア向け各種設備、機能　・飲食、グッズ等販売所 ・適切な広さ、明るさのコンコース、通路、階段

（２）富山県総合運動公園陸上競技場の現状

① 収容人数

・スタジアム公称：25,251 人
・Ｊリーグ規定値：18,471 人（※規定において芝生席の収容人数分はカウントされない）

② サッカースタジアムとしての状況

・公共交通での移動が困難（試合開催日は臨時バスの運行）
・JR 富山駅から約９ｋｍ
・富山駅からバスで約 30～36 分であるが、平日は 1 時間に 1 本程度の運行
・屋根面積が小さい　⇒ライセンス交付基準　Ｂ等級基準に未充足
・陸上トラックがあるため客席とピッチの距離が非常に遠く、臨場感に欠ける
・芝生席は収容人数にカウントされないため発券（販売）できない
・ピッチ芝生の維持管理に課題

（３）カターレ富山のクラブライセンス交付状況（2014 年 9 月 29 日発表）

・交付ライセンス：Ｊ１ライセンス
・Ｂ等級基準の充足状況：未充足
※特にスタジアムの屋根の大きさが１／３以上のＢ基準で未達成。
・是正通達：個別通知にてクラブ経営強化に関する要望有り
※同様のチーム例：サガン鳥栖、栃木ＳＣ、東京ヴェルディ、松本山雅ＦＣ

（４）カターレ富山の現況　2014 年シーズン結果

・成績：試合　５勝８分け 29 敗　22 位（22 チーム中、Ｊ３降格）
・入場者数：2014 シーズン平均 4,266 人（2013 シーズン平均 4,474 人）
・最多入場者数：8,018 人（2014 年第 14 節 ジュビロ磐田戦）
（※これまでの最多入場者数：13,639 人　2013 年第 10 節 ガンバ大阪戦）



大部分のエリアで屋根の無い観客席
（県総合運動公園陸上競技場）



陸上トラックが間にありピッチと離れた観客席
（県総合運動公園陸上競技場）

第２章　富山経済同友会の取組み

１．講演会及び勉強会の開催

地域活性化委員会ではこれまで、各地の視察や有識者の講演会を通じて、まちなかスタジアム構想に参考となる知見を収集し、委員会における検討につなげてきた。

【地域活性化委員会の活動（平成 25～26 年度）】

日　程		活動内容・テーマ	講師／その他
平成二十五年度の活動	6 月 12 日	**第 1 回正副専門委員会** ・委員会の活動方針、計画について	
	6 月 23 日	**同友会の日** 「富山サンダーバーズ」戦観戦	約 100 名参加
	7 月 16 日	**第 1 回地域活性化委員会　講演会** 「道州制と新幹線開業後の財政運営」	富山県経営管理部長 新田　一郎氏
	8 月 31 日 ～9 月 1 日	**第 2 回地域活性化委員会　県外視察** 「愛媛経済同友会との交流（松山）」	愛媛経済同友会訪問 カターレ富山対愛媛ＦＣ戦観戦
	9 月 3 日	**第 2 回正副専門委員会** ・まちなかスタジアム構想について	
	10 月 1 日	**第 3 回拡大委員会・正副専門委員会　講演会** 「まちなかスタジアムが富山を変える」	Ｊリーグ理事 ㈱コンシスト取締役常務 執行役員　傍士　銑太氏
	10 月 19 日	**同友会の日** 「富山グラウジーズ」戦観戦	約 70 名参加
	11 月 11 日	**第 4 回正副専門委員会** ・岡山視察の詳細検討	
	11 月 16 日 ～17 日	**第 4 回地域活性化委員会　県外視察** 「岡山県視察」	岡山経済同友会との交流 ﾌｧｼﾞｱｰﾉ岡山との意見交換　他
	12 月 18 日	**第 5 回正副専門委員会　講演会** 「スポーツを核とした街づくりを担う『スマートベニュー』について」	㈱日本政策投資銀行 地域企画部参事役　市川 豊英氏 地域企画部調査役　桂田 隆行氏
	2 月 4 日	**第 6 回正副専門委員会** ・平成 25 年度の活動実績と平成 26 年度の活動計画について	
	2 月 12 日 ～13 日	**第 7 回正副専門委員会　県外視察** 「北九州視察（新スタジアム計画）」 「フクダ電子アリーナ視察」	北九州市役所 ギラヴァンツ北九州
	3 月 5 日	**第 5 回地域活性化委員会　意見交換会** 「まちなかスタジアム構想と今年度の活動実績」	委員長、各副委員長が報告
平成二十六年度の活動①	5 月 7 日	**第 6 回地域活性化委員会　講演会** 「まちなかスタジアムを地域活性化に結びつけるために」	公立大学法人北九州市立大学 都市政策研究所 准教授　南　博氏
	6 月 22 日	**同友会の日** 「富山サンダーバーズ」戦観戦	約 110 名参加
	7 月 1 日	**第 8 回正副専門委員会** ・7 月定例会対応他	
	7 月 29 日	**第 9 回正副専門委員会** 「愛媛経済同友会との交流会」 ・愛媛経済同友会スポーツ振興委員会が来県	愛媛経済同友会 スポーツ振興委員会 佐伯教義委員長他 6 名来県
	7 月 30 日	**同友会の日** 「カターレ富山」戦観戦	約 400 名参加

日　程		活動内容・テーマ	講師／その他
平成二十六年度の活動②	7 月 31 日	**会員定例会**	
		講演会 「夢があるから強くなる」	公益財団法人日本サッカー協会 最高顧問 川淵 三郎氏
		パネルディスカッション 「北陸新幹線開業とスポーツ振興 による地域活性化」	川淵 三郎氏 森 雅志氏（富山市長） 中尾哲雄氏（当会特別顧問）
	10 月 9 日	**第 10 回正副専門委員会** ・まちなかでまちなかスタジアムを語る会	グランドプラザにて
	11 月 19 日	**第 11 回正副専門委員会** ・まちなかスタジアム構想提言案の検討	
	11 月 27 日	**第 7 回地域活性化委員会** ・まちなかスタジアム構想提言案の検討	
	12 月 21 日	**同友会の日** 「富山グラウジーズ」戦観戦	約 130 名参加
	1 月 16 日	**第 12 回正副専門委員会** 「広島経済同友会との交流」 ・広島経済同友会都市機能委員会が来県	広島経済同友会 都市機能委員会 田村興造委員長他 11 名来県
	1 月 29 日	**第 13 回正副専門委員会** ・まちなかスタジアム構想提言案の検討	
	3 月 16 日	**第 8 回地域活性化委員会** ・まちなかスタジアム構想提言案の最終確認	

（1）第 1 回委員会（平成 25 年 7 月 16 日）　44 名参加

○「道州制と新幹線開業後の財政運営」

講師：富山県経営管理部長　新田 一郎 氏

【県の財政運営の実情と道州制動向】

第一回目の委員会では、冒頭に市森委員長により今期の活動方針の説明があり、新幹線開業を踏まえた地域活性化策の検討、「同友会の日」設定によるプロスポーツ応援に加え、**今期活動の中心としてまちなかスタジアム構想による地域活性化の検討を掲げた。その中で委員長は、国内外ではまちなかスタジアムが潮流であり、地域活性化に資するものとして提言を検討していくと抱負を語った。**

その後、富山県経営管理部長の新田一郎氏に「道州制と新幹線開業後の財政運営」と題して講演いただいた。新田氏は講演の中で道州制賛否双方の主張を紹介し、世論は反対派も多く、導入にあたっては国民的議論が必要だと語った。**また県の財政運営について、国からの地方交付税交付金の削減も予想され、舵取りが難しいと説明があった。**

富山県からは新田部長のほか、観光地域振興局から日吉敏幸局長ら幹部３名に懇親会に参加いただき、富山県の地域活性化を語りあった。





第 1 回委員会の風景

（２）第３回拡大委員会（平成 25 年 10 月１日）　124 名参加

○「まちなかスタジアムが富山を変える」

講師：Ｊリーグ理事　㈱コンシスト取締役常務執行役員　傍士 銑太 氏

【まちなかスタジアムは今後のまちづくりに必要】

第３回の委員会は全会員を対象とした拡大委員会として開催し、Ｊリーグ理事、日本サッカー協会国際委員の傍士銑太氏に「まちなかスタジアムが富山を変える」と題して講演いただいた。

富山県の日吉敏幸観光･地域振興局長、上田順子監査委員事務局長や富山市の神田昌幸副市長、京田憲明都市整備部長はじめ富山商工会議所青年部、富山青年会議所、まちづくり富山の各団体から多くの方に出席いただいた。また、愛媛経済同友会からも重松宗孝スポーツ振興委員長にお越しいただいた。



講師の傍士銑太氏

講演では、**高齢化や人口減少という日本の将来を見据え、人間中心の街づくりの必要性を強調し、そこにまちなかスタジアムをつなげる考え方**を示した。また、**まちなか回帰を強める世界のスタジアム事例を紹介、日本でもスタジアムをまちづくりの原動力、人を集める求心力**にすることができないかと語った。

さらに、スタジアムを建設するにあたって考えるべき八つの策（国際大会が可能な仕様確保、競技専用、経済性と社会性など）を丁寧に解説。まちなかスタジアムを作るために大事なこととして、**『地元愛』の醸成、地元市民の気持ちの共有の必要性**を説き講演を締めくくった。

（３）第６回委員会（平成 26 年５月７日）　45 名参加

○「まちなかスタジアムを地域活性化に結びつけるために」

講師：公立大学法人北九州市立大学都市政策研究所准教授　南 博 氏

【まちなかスタジアムは地域活性化に重要な施設】

第６回の委員会は、講師に北九州市立大学都市政策研究所の南博准教授をお招きした。

南氏は冒頭、「カターレのボランティアや社員のスタッフの皆様の対応が素晴らしいこと、スタジアムグルメの内容、サポーターの明るい雰囲気などが非常に印象に残った」と語る一方で、スタジアムのハードについては、**ピッチと観客席の距離や交通アクセス等の面で、物足りない面がある**と指摘した。



講師の南博氏

その後、2017 年の供用開始を目指している北九州市の新スタジアム事業について詳細に解説。新幹線停車駅から徒歩約７分で繁華街にも近い新スタジアムの建設による市街地活性化や公共交通機関の利用拡大などの効果について語った。南氏は、まちなかスタジアム構想には**「地域の活性化にとって重要な役割を果たす施設を作る」という理念が大切**であり、**地域内外からお金を獲得し地域内で循環させることによる地域経済の活性化や、人口流出（特に若者）の抑制**という大きな目標に対して重要な役割を果たす可能性があることを力説して講演を締めくくった。また、講演の中でギラヴァンツ北九州の横手敏夫社長から当会に向けた激励の動画メッセージも紹介された。

（４）７月会員定例会（平成 26 年７月 31 日）　約 190 名参加

○「夢があるから強くなる」

講師：公益財団法人日本サッカー協会最高顧問　川淵 三郎 氏

○「北陸新幹線開業とスポーツ振興による地域活性化」

パネリスト：川淵 三郎 氏
森　 雅志 氏（富山市長）
中尾 哲雄 氏（当会特別顧問、㈱インテック最高顧問）

【Ｊリーグにおける地域活性化との関連性】
【スポーツ振興による地域活性化への助言】

７月の会員定例会を地域活性化委員会の主管で開催、講演会とパネルディスカッションの２部構成で進行した。

また、この日は公益財団法人日本サッカー協会の川淵三郎最高顧問（キャプテン）を講師にお招きしたことや、スポーツと地域活性化の関連をテーマとした討論をすることから、来賓には富山市の森雅志市長をはじめ、公益社団法人富山県サッカー協会の並川宏英専務理事、公益財団法人富山市体育協会の田中一郎会長、佐藤誠主査、富山第一高等学校の大塚一朗サッカー部監督など多くの皆様をお招きした。

第１部の講演会は、川淵キャプテンが「夢があるから強くなる」と題して講演。Ｊリーグクラブの運営や強化策、スポーツと地域活性化との関連などについて、これまでのご自身の豊富な経験談を交えて詳しく解説いただいた。


川淵 三郎氏

続いて、第２部のパネルディスカッションでは、川淵キャプテン、森市長、中尾哲雄当会特別顧問の３人がパネリストとなり、市森委員長がコーディネーターを務め、「北陸新幹線開業とスポーツ振興による地域活性化」をテーマに討論した。


森 雅志氏

３人のパネリストから、北陸新幹線の開業効果とスポーツ振興との関連や、当会の地域活性化委員会が中心となって検討を進めている**「まちなかスタジアム構想」に対する考え方などについて、それぞれ意見を伺った**。

川淵キャプテンからは、**市民のムーブメントを作ることの重要性**や長い目で考えることの大事さなどについてアドバイスを頂いた。また、森市長は新幹線の開業効果などについて説明、中尾特別顧問は経済人の立場で、**スポーツ振興に対する企業の支援の必要性**を訴えるなど、それぞれの立場からの貴重な意見・助言があり、会員は討論に聞き入った。


中尾 哲雄氏

２．国内スタジアムの視察

（１）「県外視察：愛媛県（松山市）訪問」

訪問先：愛媛経済同友会（森一哉代表幹事、スポーツ振興委員会の皆さま）
（第２回委員会（平成 25 年 8 月 31 日～9 月 1 日）　6 名参加）



ニンジニアスタジアム外観


観戦風景

第２回委員会は、当会と同様に「同友会の日」を設け、地元プロスポーツを応援する取り組みを行っている愛媛経済同友会スポーツ振興委員会の皆さまよりサッカーを通じた交流をしたいとの提案があり、愛媛県松山市を訪れた。

１日目は懇親会を開催し、愛媛経済同友会の森代表幹事、スポーツ振興委員会の皆さまと交流した。

愛媛の重松宗孝スポーツ振興委員長より歓迎の挨拶を頂いた後、当会の市森友明委員長が代表して挨拶。**「松山は路面電車、コンパクトシティ政策など富山との共通点が多い」**と松山の印象を語り、**「まちなかにサッカースタジアムがあれば、観戦後まちなかに繰り出す人も増え、中心市街地が活性化していくという理念のもと、まちなかスタジアム構想を提言する活動をスタートさせた」**と委員会の活動を紹介した。

その後、森代表幹事の乾杯の発声により懇親会が開催され、「まちなかスタジアム構想」を話題に会は大変盛り上がった。

２日目は、「カターレ富山×愛媛ＦＣ」観戦のためニンジニアスタジアムに向かった。**スタジアムまでタクシーで 30 分ほどかかり、富山と同様、中心市街地からの遠さが実感された。**

観戦前には愛媛経済同友会の薬師神代表幹事、愛媛ＦＣスポンサー企業の㈱えひめ飲料の高原社長らと面談した。

試合は愛媛経済同友会、愛媛ＦＣのご配慮によりＶＩＰ席で観戦させていただくことができた。

なお、当日は愛媛経済同友会の「同友会の日」だったが、試合結果は０対０の引き分けとなった。

（２）「県外視察：岡山県（岡山市）訪問」

訪問先：岡山経済同友会（萩原邦章代表幹事、地域振興委員会の皆さま）
（第４回委員会（平成 25 年 11 月 16～17 日）　6 名参加）


岡山経済同友会との意見交換

第４回の委員会は、「まちなかスタジアム」の**先進事例調査として駅から歩いて２０分の場所にスタジアムがある**岡山県を訪問。岡山経済同友会と交流し、萩原邦章代表幹事をはじめ地域振興委員会の方々と交流した。

１日目はファジアーノ岡山の木村正明社長を訪問し、岡山経済同友会の皆さまも交え「まちなかスタジアム」をテーマにした意見交換会を開催し、まちなかスタジアムの必要性やこれまでの委員会活動について報告した。

木村社長は、「街中にスタジアムがあることで、近隣住民は試合当日のスタジアムの盛り上がりやユニフォームを着た多くのサポーターを目の当たりにし、クラブを身近に感じる。また、**試合後もユニフォーム姿のサポーターがあちこちで飲食しており、観戦がまちなかを回遊するきっかけとなっているのは間違いない**」と語り、スタジアムが地域活性化につながっているとの見解を示した。

また岡山経済同友会の梶谷俊介地域振興委員長からは「ファジアーノ岡山は５６０社を超える企業がスポンサーとして支援している。また、ファジアーノ募金箱を飲食店に設置して県民が資金的にも応援している」などの説明があった。意見交換会終了後は懇親会を開催し交流を深めた。

２日目はカターレ富山対ファジアーノ岡山戦を観戦。**岡山駅からkanko スタジアムまで実際に徒歩で移動し、まちなかスタジアムの利便性を体感した**。沿道には数多くのファジアーノ岡山の幟が並べられ、多くのサポーターの姿が見られた。

なお、試合は３－１でカターレ富山が勝利した。



観戦風景

（３）「県外視察：福岡県（北九州市）訪問」

訪問先：㈱ギラヴァンツ北九州（二村弘志常務取締役）
　　北九州市役所市民文化スポーツ局
（第７回正副専門委員会（平成 26 年２月 12～13 日）４名参加）

北九州市が小倉駅から徒歩７分程度のまちなかにサッカースタジアム建設を決定したことを受け、今後の提言作成の参考とすべく正副委員長ら４人で北九州市を訪問し、サッカースタジアム建設計画について実地調査した。

まずはＪ２リーグギラヴァンツ北九州の運営会社「㈱ギラヴァンツ北九州」を訪問し、同社の二村常務取締役にスタジアム建設後のクラブ運営等についてお話を伺った。



北九州市ヒアリング

二村常務は「**ホームゲームで使用している本城陸上競技場は中心市街地から遠い。新スタジアムができることにより入場者数は２倍の８千人を見込んでいる**。北九州市は５０年前に５つの市が合併してできた市だが未だに一つにまとまっていない。市民が新スタジアムでギラヴァンツ北九州を応援することで心を一つになることを期待している」と語った。

次に、北九州市役所の市民スポーツ局スポーツ振興課を訪ね、担当課長より整備中の新スタジアムの概要をレクチャーいただいた。そのなかで、**設計・建築から維持管理・運営を一括で民間に任せる「ＰＦＩ事業」で行う**ことや、**設計・建築費用８９億円のうち３０億円を toto の助成金で賄い、残り５９億円は市債を発行する**こと、**年間の維持管理費用を１億として、ＰＦＩ事業者へ支出する**ことなどの説明を受けた、課長は「**試合終了後のまちなか回遊性により地域が活性化することを何より願っている**」と新スタジアム建設による地域活性化への期待を語った。

（４）「県外視察：千葉県（千葉市）訪問」

（第７回正副専門委員会（平成 26 年２月 12～13 日）　４名参加）

ジェフユナイテッド市原・千葉のホームゲームに使用されているサッカースタジアムのフクダ電子アリーナを見学。**ピッチと観客席がわずか８メートルしか離れてないスタジアムは非常に臨場感がある**と感じられた。



フクダ電子アリーナ見学

３．欧州スタジアムの視察

まちなかスタジアムの先進地である、ヨーロッパ、イギリス　ロンドンにおけるスタジアム（3 箇所）の視察を行った。

（1） エミレーツスタジアム

アーセナルＦＣ（イングランドプレミアリーグ所属）のホームスタジアム
（視察日：平成 25 年 9 月 21 日）

スタジアム収容人数：約 60,000 人
建設年月：2006 年 7 月
スタジアム併設施設：
・飲食しながら観戦可能なラウンジ
・アーセナルミュージアム
アクセス：
地下鉄アーセナル駅から徒歩約 3 分

スタジアムの特徴
・公共交通隣接、まちなか立地
・多機能複合型スタジアム
・サッカー専用スタジアム



エミレーツスタジアム外観と市森委員長


ピッチと距離が近いスタンド


スタンドが見えるラウンジ


併設されているスタジアムショップ


スタジアム周辺で進むマンション建設

（２）ブーリン･グラウンド（通称：アップトンパーク）

ウェストハム・ユナイテッド FC（イングランドプレミアリーグ所属）のホームスタジアム
（視察日：平成 25 年 9 月 21 日）

スタジアム収容人数：約 30,000 人
建設年：1904 年
アクセス：
地下鉄アプトンパーク駅から徒歩約６分

スタジアムの特徴
・公共交通隣接
・まちなか立地
・サッカー専用スタジアム


試合開催日で賑わうスタジアム周辺


ピッチとスタンドが近く臨場感あふれる


スタンド屋根で反響し歓声がこだまする

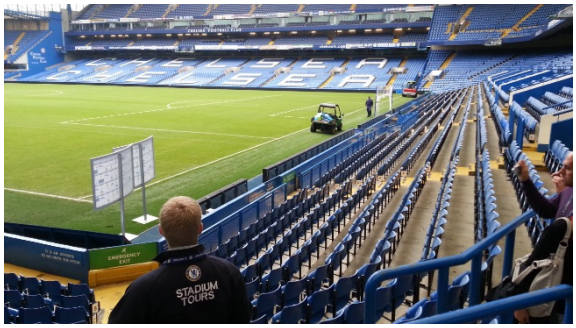
（３）スタンフォードブリッジ

チェルシーFC（イングランドプレミアリーグ所属）のホームスタジアム
（視察日：平成 25 年 9 月 22 日）

スタジアム収容人数：約 40,000 人
建設年：1877 年
アクセス：
地下鉄駅から徒歩約３分

スタジアムの特徴
・公共交通隣接、まちなか立地
・多機能複合型スタジアム（ショップ併設）
・サッカー専用スタジアム


スタジアム外観



ピッチとスタンドが近い



試合開催日でなくても楽しめるミュージアムツアー

４．カターレ富山応援とアンケートの実施

（１）カターレ富山応援（「同友会の日」）

当会では、プロスポーツの支援による地域の活性化を目指して、毎年「同友会の日」を設けて、カターレ富山をはじめとしたプロスポーツチームの試合を応援している。

平成 26 年度は、７月 30 日（水）にカターレ富山対愛媛ＦＣ戦を観戦・応援し、約 400 人が参加した。



同友会の日 カターレ富山応援　風景

（２）観戦者アンケート調査の概要

カターレ富山公式戦観戦者に対して、まちなかスタジアムの整備に関する意見を収集するため、以下の通りアンケート調査を行った。

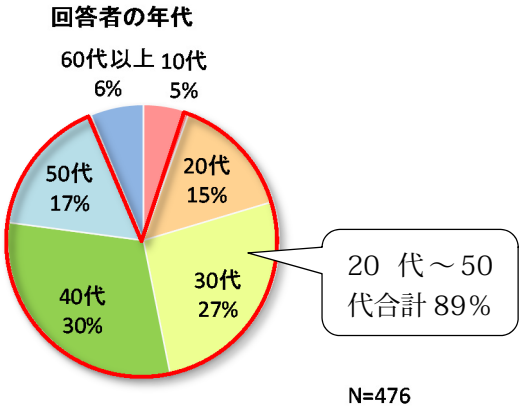
	Ｊリーグアンケート	「同友会の日」アンケート
調査対象	第 28 節　カターレ富山対ロアッソ熊本戦入場者を対象（3,371 人）	同友会の日「カターレ観戦者」を対象として実施
調査方法	スタンドにて調査表配布(配布数 494 票)、当日回収	同友会ブース、スタンドにて調査表配布、当日回収
調査日	平成 26 年 8 月 24 日（日）	平成 26 年 7 月 30 日（水）
回収数	488（回収率 98.8%）有効回答 486 票	181 人
調査内容	・現在の観戦前後の過ごし方 ・まちなかスタジアムを整備することについての意見 ・まちなかスタジアムができた場合の観戦回数の変化 ・まちなかスタジアムができた場合の観戦前後の過ごし方 ・市の中心部にスタジアムができた場合の交通手段 ・まちなかスタジアムに欲しい機能 ・自由意見	

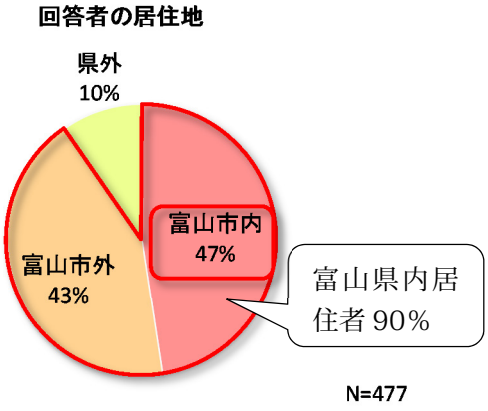
① 調査回答者の属性

アンケート回答者はいずれの調査においても、20～50 代が大半を占めている。

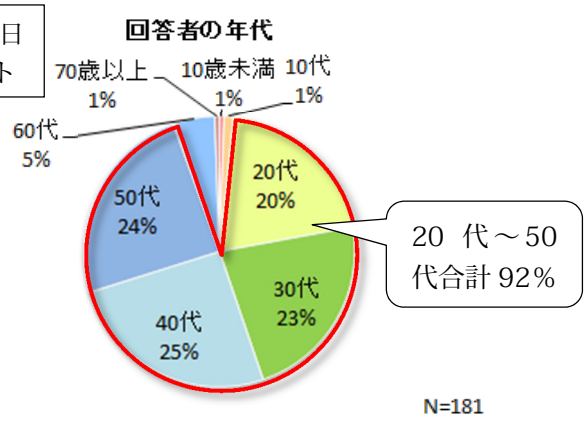
居住地は競技場のある富山市内が最も多く、富山県内からの観戦者が９割以上を占めている。

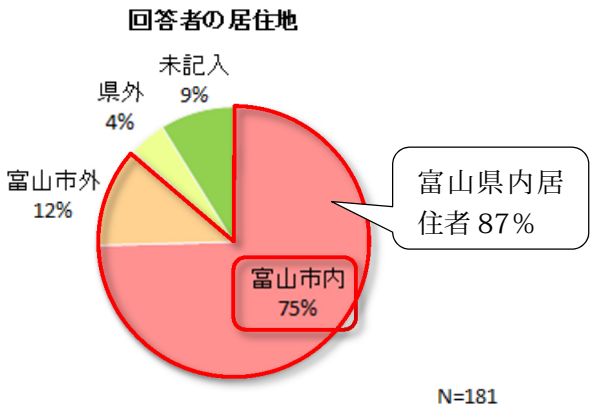
Ｊリーグアンケート





同友会の日
アンケート

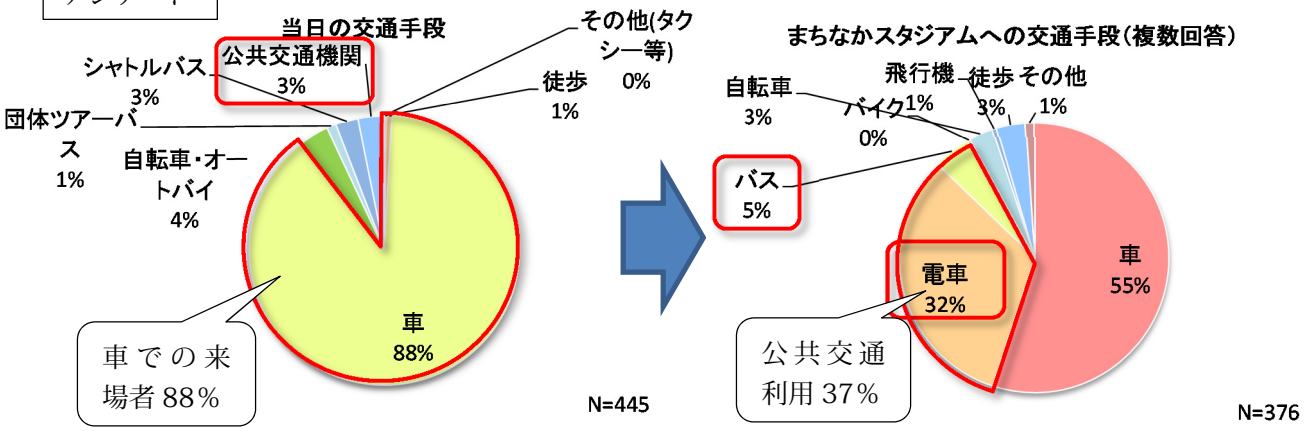




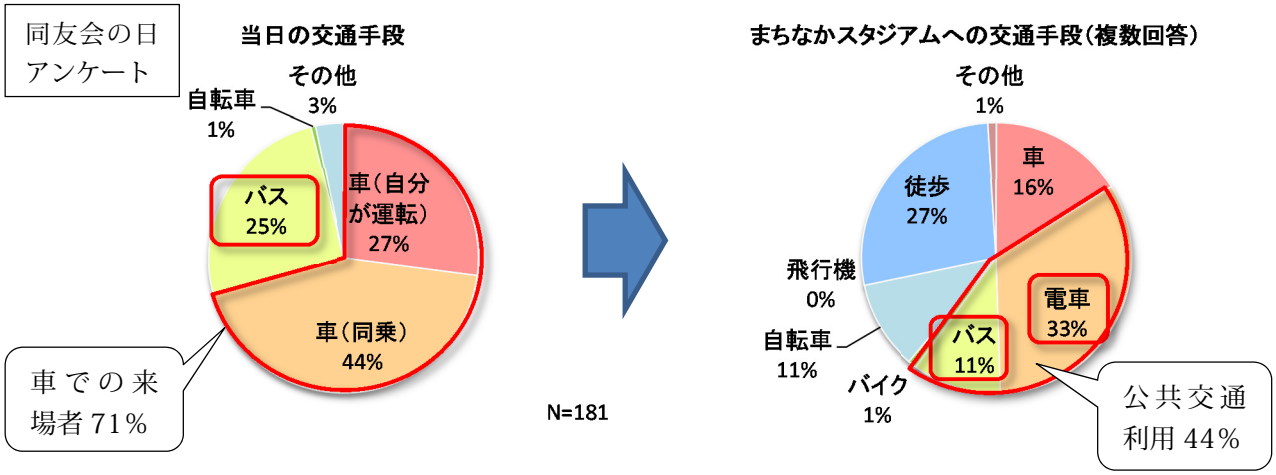
② まちなかスタジアム整備により、公共交通分担率が高まる

現在の交通手段は車が大半を占めており、公共交通利用はごくわずかであるが、まちなかスタジアムの整備後の交通手段では電車やバスの利用意向が高くなっており、公共交通利用が促進されることが伺える。

Ｊリーグ
アンケート



同友会の日
アンケート

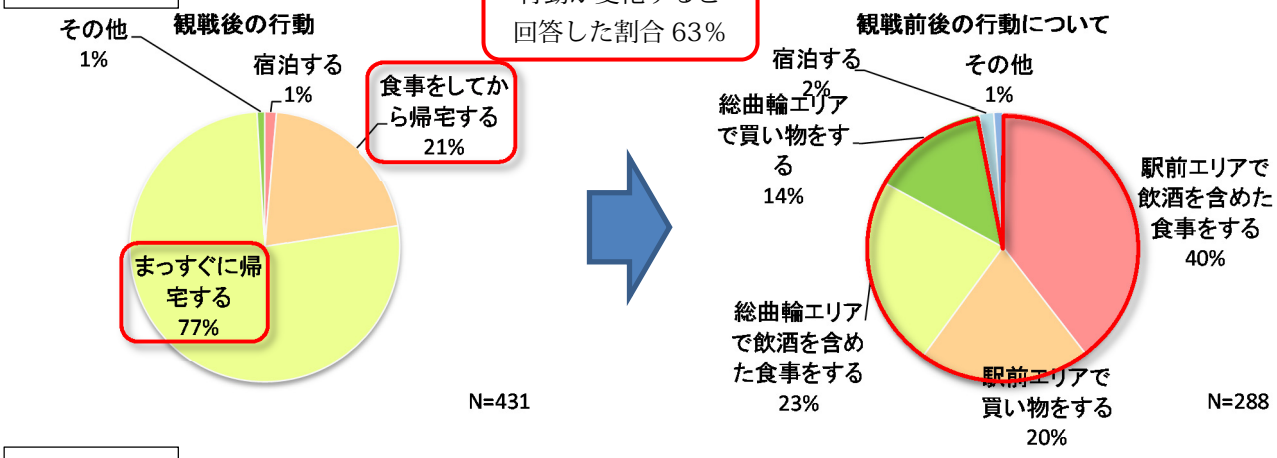


③ まちなかスタジアム整備により、サッカー観戦前後に飲食、買い物が誘発される

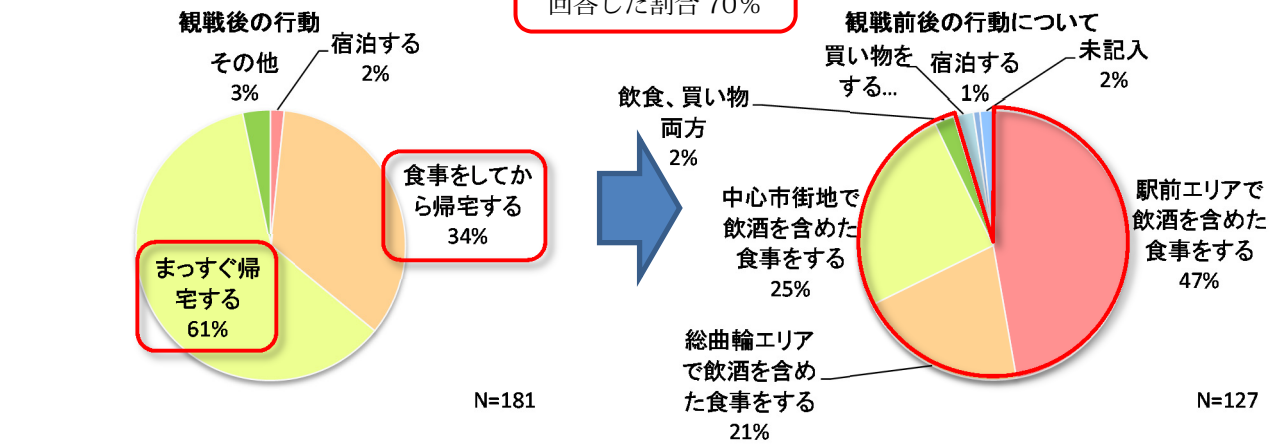
現状では、サッカー観戦前後に食事をすると回答した人は全体の 2～3 割程度であるが、まちなかスタジアム整備ができた場合には、全体の 6～7 割が「観戦前後の行動が変わる」としている。

具体的には、中心市街地（駅前、総曲輪等）で観戦前後に食事や買い物をするという意見が多く見られた。サッカー観戦に合わせ、まちなかでの飲食、買い物が誘発される効果が期待できる。

Ｊリーグ
アンケート



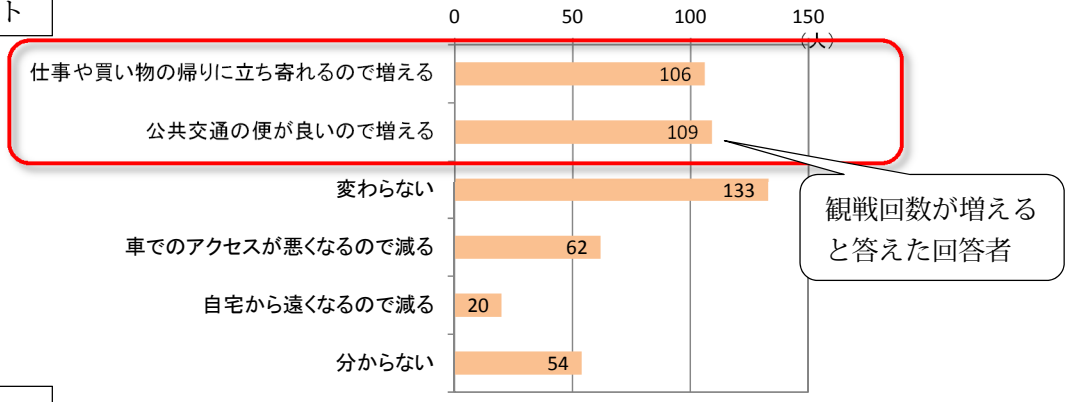
同友会の日
アンケート



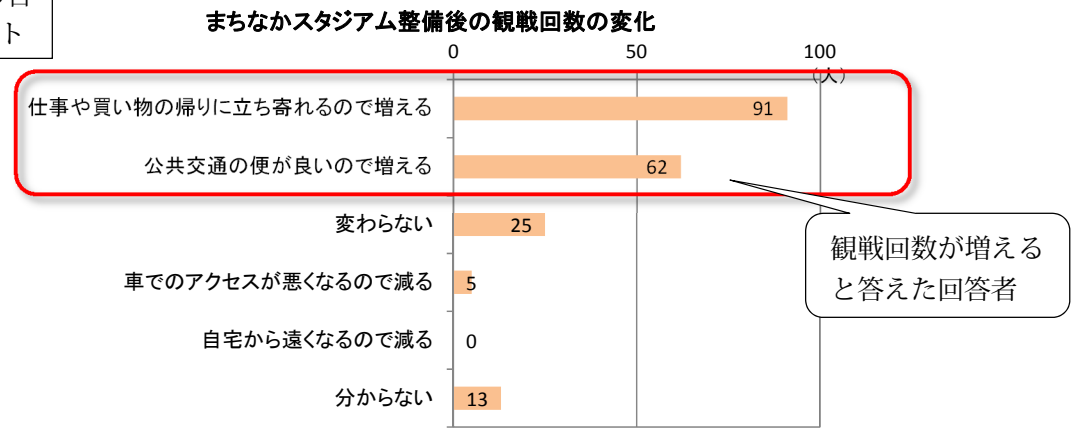
④ まちなかスタジアム整備により、観戦回数が増加する

まちなかスタジアムの整備による観戦回数の変化については、多くの人が増えると回答し、その理由としては仕事や買い物のついでの観戦、公共交通が便利なことによる観戦機会の増加を挙げている。

Ｊリーグ
アンケート



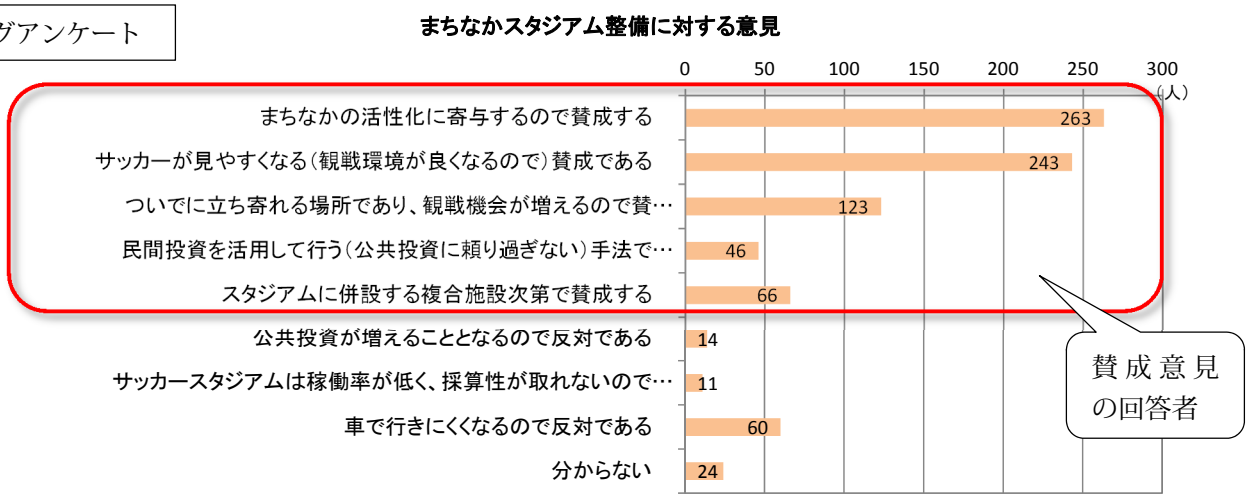
同友会の日
アンケート



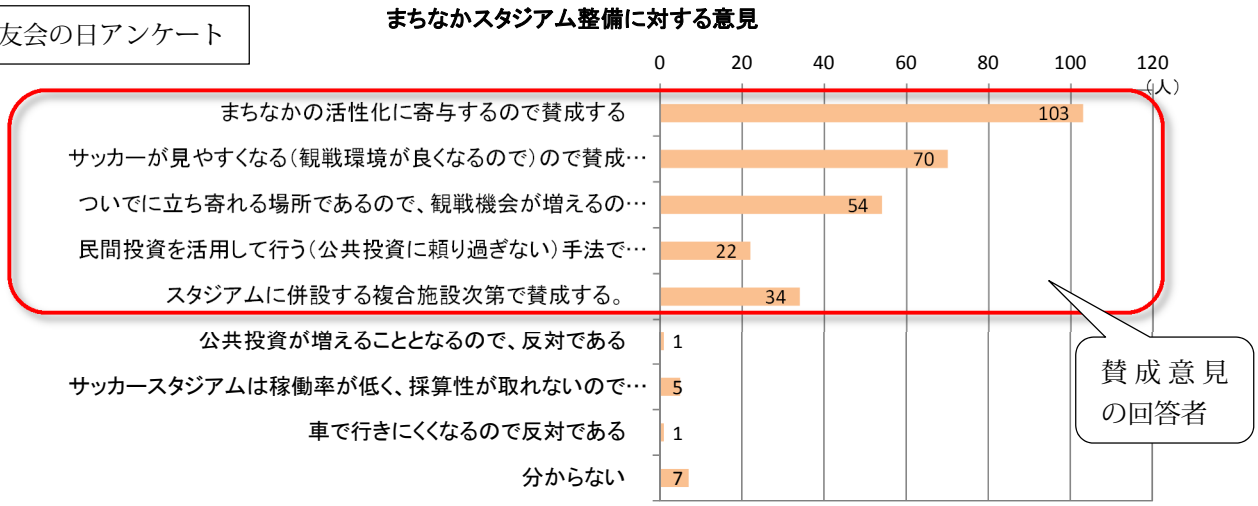
⑤ まちなかスタジアム整備に対しては賛成意見が多い

まちなかスタジアムの整備に対しては賛成意見が多く見られ、まちなか活性化への貢献、観戦環境の改善などが賛成の理由として多くみられる。

Ｊリーグアンケート



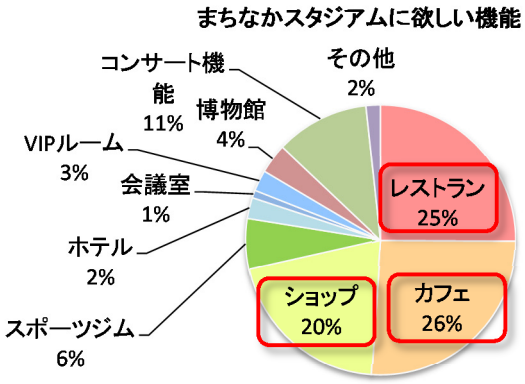
同友会の日アンケート



⑥ まちなかスタジアムに望む併設施設としてはレストラン、カフェ、ショップが望まれている

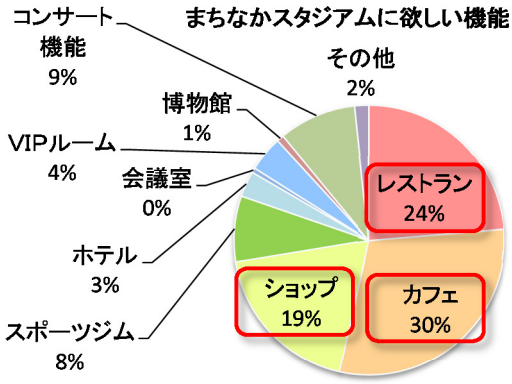
まちなかスタジアムの併設施設としては、レストラン、カフェやショップを望む意見が多くみられ、コンサート機能を望む意見も比較的多い。

Ｊリーグアンケート



N=409

同友会の日アンケート



N=153

【アンケートの総括】　まちなかスタジアムの整備効果

・公共交通利用が促進される
・観戦前後に、スタジアム周辺で飲食、買い物行動が誘発される。
・観戦回数が増加する。
・望まれる併設施設はレストラン、カフェ、ショップが挙げられる。

第３章　富山まちなかスタジアム構想

１．地方都市富山の活性化に貢献するまちなかスタジアム

地方都市富山が抱える課題（人口減少、中心市街地の衰退、スポーツ文化の脆弱性など）に対し、富山まちなかスタジアム整備が寄与できることについて、以下に述べる。

（１）大規模集客施設による中心市街地の活性化、公共交通の利用促進

富山の中心市街地の活力低下が課題とされる中、富山市では様々な取り組みが継続的に行われており、中心市街地への来街者増加を目指しているところである。

Ｊリーグの試合時には、数千人から数万人の観客がスタジアムを訪れる。この人数は富山市中心市街地で最も歩行者通行量の多い総曲輪通りにおける１日の通行量に匹敵するものであることから、**スタジアムのような大規模集客施設をまちなかに立地させることにより、中心市街地全体の集客力に寄与することが期待**できる。

観客の大規模な移動を支えるためには公共交通の利用が必要不可欠であり、観戦者アンケートからは、車から公共交通への利用転換も予測される。**公共交通の利用により、サッカー観戦前後の飲食や飲酒の楽しみが増進**でき、また利便性の高い電車やバス等の公共交通網が整備、運行されている**中心市街地において、さらなる公共交通利用促進も図られる**。

総曲輪通りの歩行者通行量実績

	通行量平均値
総曲輪通り合計	16,833 人
総曲輪フェリオ北西側	3,595 人
エルサカエ前	7,753 人
旧富山西武南側	5,485 人

※平成 25 年度 富山市、富山商工会議所調査結果より
5/19（日）、8/15（木）、8/18（日）、11/17（日）
3/16（日）の平均値（8：00～19：00）



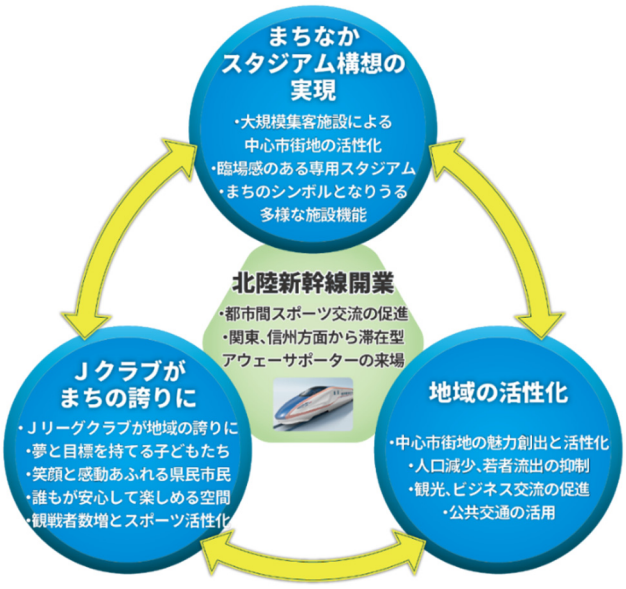
ワールドカップまちなかパブリックビューイングに
2,400 名が集結 H26.6.15（富山市グランドプラザ）

（２）まちの誇りの醸成

集客力のあるまちなかに臨場感溢れるスタジアムが整備されることで、その魅力に接した人々の観戦回数が増え、より身近な地元のチームとなる。

多くの県民･市民が観戦し応援する中で、チームがより強く育つ土壌が育まれ、**地域の誇りが芽生えていく。**地域が誇るチームの試合を観戦することが、**中心市街地の新たな魅力となり、さらに富山への愛着も醸成され、結果として人口減少、若者流出の抑制にも繋がっていく。**

これらのことが相乗的に効果を発揮することで、まちなかスタジアム整備を起点として「街の誇り」の醸成が図られる。



（３）地域内外からの消費流入による地域活性化

今後、人口減少が予想される中、地方都市においては、地域内外から消費流入を促していくことによる地域活性化が必要である。

サッカー観戦には、ホーム、アウェー問わず多くのサポーターが詰めかける。近年の観客動員実績からも、最低でも年間 20 回程度の試合開催により毎回数千人以上を集客可能と予想される。スタジアムがまちなかに立地することにより、サポーター達の試合前後の消費を促進し、まちなかへの経済波及効果が生まれ、地域活性化につなげることが可能である。

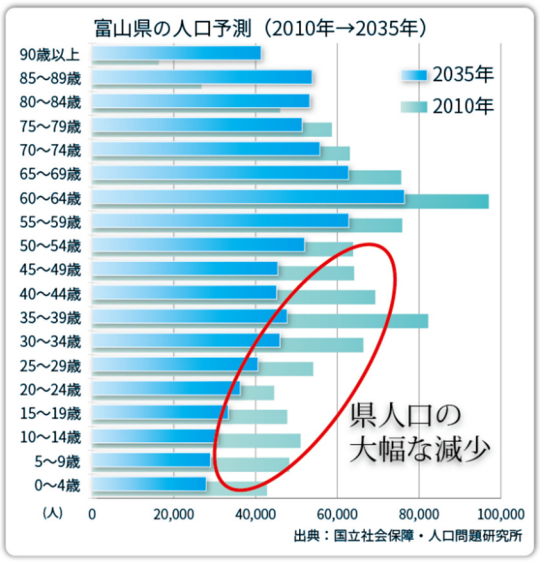
カターレ富山ホームゲーム観客動員実績

	平均観客数	最多動員	ホームゲーム数
2014 年	4,266 人	8,018 人	21
2013 年	4,474 人	13,639 人	21
2012 年	3,324 人	6,549 人	21
2011 年	3,275 人	8,663 人	19
2010 年	4,463 人	10,726 人	18
2009 年	3,740 人	5,520 人	25

（４）まちなかへの楽しみの場提供による若者の流出抑制

20 年後、富山県の人口は現在より約 20 万人の減少（特に 10～20 代では 6 万人の減少）が予想されている。若者の流出を抑制することが地方創生、地域活性化には不可欠である。

定住を促進するためには、住みやすい環境づくりだけではなく、生活の中の楽しみ享受、雇用環境の確保が欠かせない。身近なスタジアムの立地は日常の楽しみを増進する効果があり、またスポーツ関連の雇用創出を誘発できるため、**若者の流出を抑制することが可能である**。



（５）収益力の高い、観戦しやすいスタジアム整備

現在の富山県総合運動公園競技場は観客席に屋根が一部しかなく、富山では多い雨天等の悪天候時の観戦環境が良好とは言えない。また、陸上競技場との兼用スタジアムであるために客席とピッチが遠く、臨場感に欠ける。サッカー、陸上等スポーツの用途でしか利用されにくい施設であることから、稼働率も低い状況である。さらに立地も郊外に位置し、観戦の前後の周辺への経済波及効果に乏しい環境にある。

まちなかスタジアムは、**サッカー専用スタジアムとして臨場感あふれる施設であり、観戦環境の向上に寄与できる。**また、**複合施設を併設することにより、サッカー開催日だけでなく、平常時においても稼働率を高めることが可能**である。さらに観戦前後における周辺への波及効果も期待できる。





施設稼働率向上のための併設施設事例
左：スタジアム内レストラン（ノエビアスタジアム神戸）
右：文化施設（リコーアリーナ）

２．スタジアム整備効果が発揮されやすい地域

富山まちなかスタジアムの立地において、整備効果が発揮されやすい地域の整理を行う。

本提言で目指しているまちなかスタジアムは多くの県民･市民が集い、交流し、誇りとなる施設を目指したものであり、より多くの県民が集まれる環境、また県外からのサポーターがアクセスしやすい場所に立地することが望ましい。

（１）整備効果検討における視点

整備効果が発揮されやすい地域について、以下の視点で検討する。

視点①：「北陸新幹線の駅からのアクセス性」

・交流人口の増加に大きく寄与するアウェーサポーターが訪れやすい立地環境が望ましい。

視点②：「通勤通学等を踏まえた都市圏」

・まちなかスタジアムを基点としてまちの誇りの醸成を図る上で、日常の中に位置づけられる場所に整備することが望ましい。通勤通学等を踏まえた都市圏をベースとした場所選定が必要である。

視点③：「県内の中心」

・多くの県民がアクセスしやすいように、県内居住人口における中心地となる場所が望ましい。

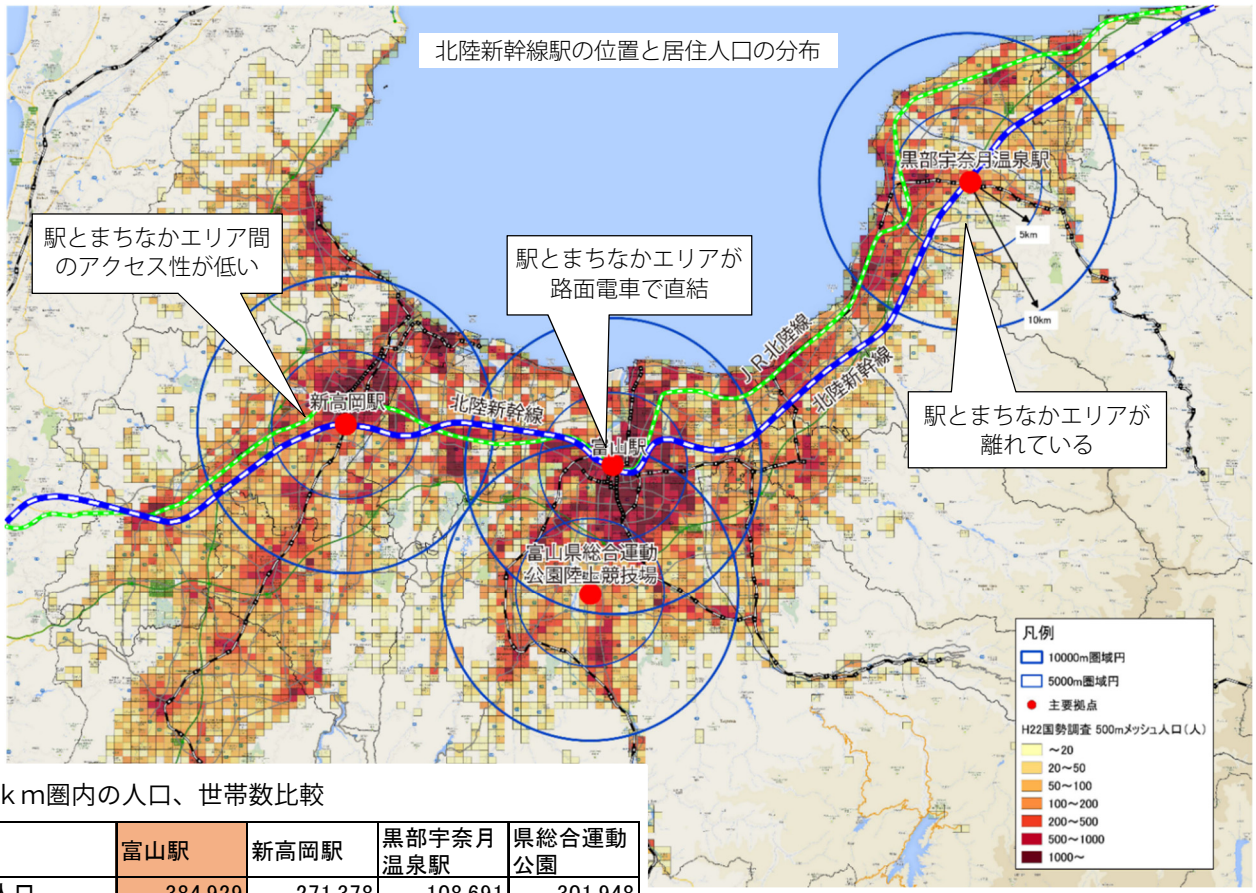
視点④：「まちなかエリア」

・まちなかスタジアムからの波及効果が得られるように、既成市街地に立地することが望ましい。

（２）都市圏人口とアクセス性による検討

広域交通結節点である新幹線駅周辺を整備位置と仮定し、10ｋｍ圏内の居住人口及び世帯数を、平成 22 年国勢調査 500ｍメッシュにより推計し、合わせてまちなかエリアとのアクセス性を検討した。

その結果、**富山駅周辺の人口が最も多く、またアクセス性も良いことから、富山駅周辺が整備効果の発揮されやすい地域と考える。**



10ｋｍ圏内の人口、世帯数比較

	富山駅	新高岡駅	黒部宇奈月温泉駅	県総合運動公園
人口	384,929	271,378	108,691	301,948
世帯	147,053	93,594	37,103	116,633

（３）通勤･通学等を踏まえた都市圏の検討

地域の中心的な自治体（中心都市）に、住民の一定割合以上が通勤通学している周辺自治体（郊外圏）を加えて設定される実態的な地域単位を「都市圏」として、富山県内の都市圏での人口を算出し、比較を行った。

その結果、**富山市を中心とする富山都市圏が最も居住人口が多く**、富山県全体の約６割を占めている。また通勤･通学者数も多く、**富山市への通勤通学者が他都市と比較しても多い状況**である。

富山県内の都市圏ごとの人口、通勤通学（各市町村への通勤通学者数）の状況

					人口総数（2010年国勢調査確報値）		15歳以上就業者･通学者計	
富山県			都市圏数	3			593,041	
	101 富山都市圏			4市2町1村	649,359	100.0%	364,011	61.4%
	1	A16201	富山市	とやまし	421,953	65.3%	255,324	70.1%
	2	A16204	魚津市	うおづし	44,959	7.0%	25,093	6.9%
	3	A16206	滑川市	なめりかわし	33,676	5.2%	16,118	4.4%
	4	A16211	射水市	いみずし	93,588	14.5%	46,937	12.9%
	5	A16321	舟橋村	ふなはしむら	2,967	0.5%	980	0.3%
	6	A16322	上市町	かみいちまち	21,965	3.4%	9,429	2.6%
	7	A16323	立山町	たてやままち	27,466	4.2%	10,130	2.8%
	102 高岡都市圏			5市	402,852	100.0%	205,445	34.6%
	1	A16202	高岡市	たかおかし	176,061	43.7%	96,580	47.0%
	2	A16205	氷見市	ひみし	51,726	12.8%	19,676	9.6%
	3	A16208	砺波市	となみし	49,410	12.3%	26,214	12.8%
	4	A16209	小矢部市	おやべし	32,067	8.0%	16,038	7.8%
	5	A16211	射水市	いみずし	93,588	23.2%	46,937	22.8%
	（副）		魚津都市圏	3市	120,487	100.0%	66,415	11.2%
	1	A16204	魚津市	うおづし	44,959	37.3%	25,093	37.8%
	2	A16206	滑川市	なめりかわし	33,676	27.9%	16,118	24.3%
	3	A16207	黒部市	くろべし	41,852	34.7%	25,204	37.9%
	（副）		黒部都市圏	2市2町	127,644	100.0%	66,935	11.3%
	1	A16207	黒部市	くろべし	41,852	32.8%	25,204	37.7%
	2	A16204	魚津市	うおづし	44,959	35.2%	25,093	37.5%
	3	A16342	入善町	にゅうぜんまち	27,182	21.3%	11,622	17.4%
	4	A16343	朝日町	あさひまち	13,651	10.7%	5,016	7.5%
	103 南砺都市圏			2市	104,134	100.0%	54,894	9.3%
	1	A16210	南砺市	なんとし	54,724	52.6%	28,680	52.2%
	2	A16208	砺波市	となみし	49,410	47.4%	26,214	47.8%

※都市圏　：地域の中心的な自治体（中心都市）に、住民の一定割合以上が通勤通学している周辺自治体（郊外圏）を加えて設定される実態的な地域単位をいう。国勢調査の「常住地により従業・通学市区町村別１５歳以上就学者数及び通学者数」に基づく 10%通勤･通学圏を「都市圏」とみなす。
副都市圏：ある都市圏の構成市を中心として形成された都市圏

・富山市を中心とする富山都市圏が最も居住人口が多く、富山県全体の約６割を占めている。また通勤･通学者数も多く、富山市への通勤通学者が他都市と比較しても多い状況である。

（４）結論

以上の検討より、北陸新幹線からまちなかへのアクセス性が高く、都市圏として居住人口、通勤通学者数が多く、日常的に人口が集中していることから、「富山市のまちなか」がスタジアム立地場所として最もポテンシャルが高い。

（５）富山駅周辺エリアにおける整備位置の検討

① 整備エリアの仮定

富山駅周辺における３タイプの整備エリアを仮定し、それぞれのエリアの特徴を以下に整理する。

タイプ１：文教地域型

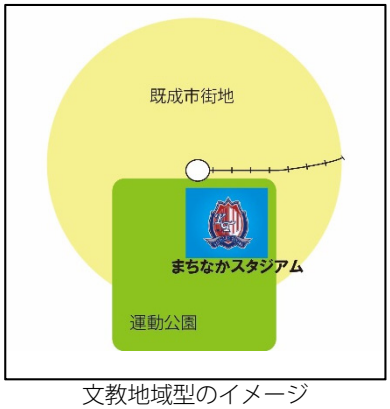
・公共鉄軌道終点駅周辺の既存スポーツ施設や教育施設に隣接し、スポーツ文化醸成の拠点を形成するタイプ。

タイプ２：中心市街地型

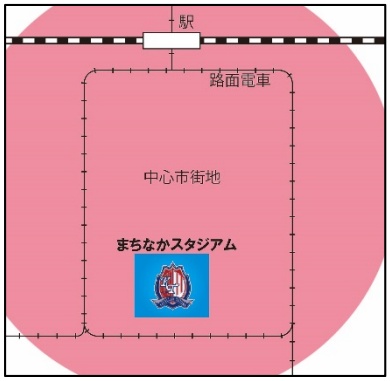
・公共鉄軌道エリア内の都心部に立地し、中心市街地への波及効果を高めるタイプ。

タイプ３：駅併設型

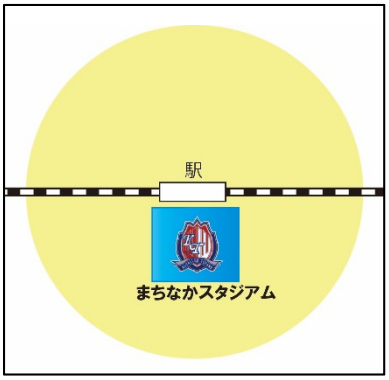
・富山駅に近いあいの風とやま鉄道駅または新駅に併設して立地し、公共交通による利便性を高めるタイプ。



文教地域型のイメージ



中心市街地型のイメージ



駅併設型のイメージ

② ３つのタイプの比較

	タイプ１：文教地域型	タイプ２：中心市街地型	タイプ３：駅併設型
まちなか活性化への貢献	△	○	△
	まちなかから離れているため効果が低い	まちなかに近接しており、波及効果が期待できる	まちなかから離れているため効果が低い
公共交通利用促進効果	△	○	○
	利用促進は期待できる	市内電車の利用促進効果が大きい	あいの風とやま鉄道の利用促進効果が大きい
まちの誇り・整備インパクト	△	○	△
	中心性は若干薄れる	まちのシンボル性が高い	中心性は若干薄れる
周辺地域の経済波及効果	○	◎	△
	中心部から離れているため効果は低い	中心市街地への波及効果が高い	中心部から離れているため効果は低い
比較総括	△	○	△
	スポーツ文化を醸成させる拠点形成について優れているが、中心市街地への波及効果は低いと考えられる。	まちなかへの経済波及効果が大きく見込まれるほか、まちのシンボル性が高いと考えられる。	公共交通の利用促進について大きく寄与できるが、まちなか活性化への波及効果は小さいものと考えられる。

比較結果より、「中心市街地型」が
スタジアム整備ポテンシャルの高い立地タイプとして考えられる。

３．富山まちなかスタジアム整備基本構想（案）

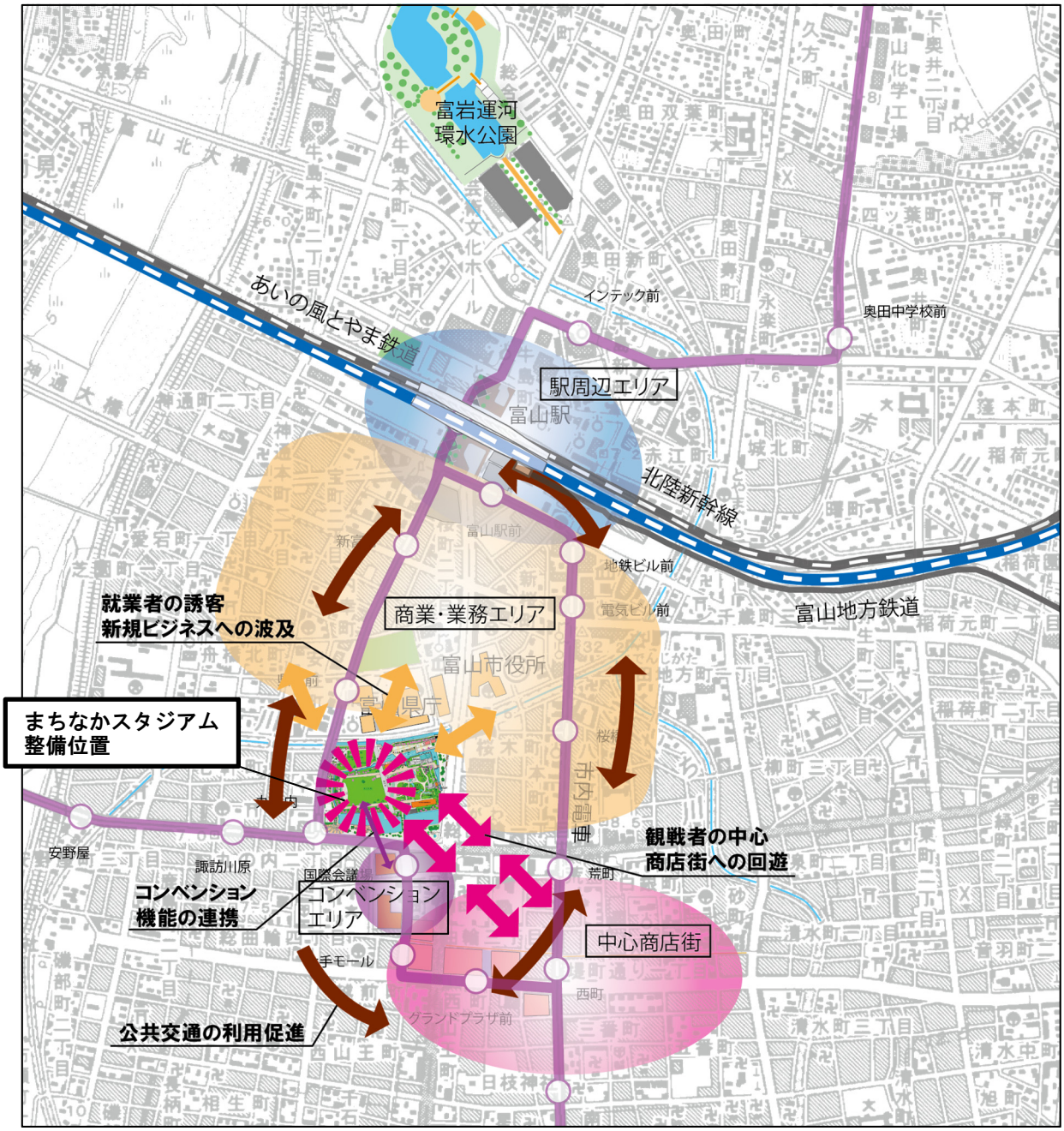
（１）候補地の仮定

これまでの検討内容を踏まえ、本提言書では、富山市中心市街地の立地について取り上げる。

整備候補地として富山城址公園内を仮定し、城址公園内での立地特性を下図に示す。

城址公園は駅周辺商業エリアと総曲輪中心商店街に隣接して立地しており、**公共交通の利便性もきわめて高い**。また、城址公園内への立地による集客で**駅周辺及び総曲輪商業エリアへの回遊性**も望め、高い経済波及効果が見込まれる。さらに富山国際会議場、ANA クラウンプラザホテル、県民会館のコンベンション施設に近接し、**コンベンション開催時の相互利用も可能**である。

このようなことから整備においてポテンシャルの高い地区であると言える。



まちなかスタジアム整備位置とコンパクトシティ推進の構想図

（２）城址公園内での整備コンセプト

富山城址公園はこれまで様々な整備が行われている。公園内には富山城や多くの史跡があり、市民から大変親しまれている空間である。一方で、これまでの整備によって観光客や市民に対して一定程度の機能やサービスが提供できているものの、まち中心部や象徴としての機能を充分に果たしているとは言い難いところである。

こうした現状を踏まえ、基本構想（案）では**城址である「過去」と、スタジアムという「未来」が共生することを目指した整備**を行い、さらに市民に親しまれる空間作りを検討する。

富山まちなかスタジアムの整備コンセプト

過去（城址）と未来（スタジアム）の共生
静（歴史）と動（プロスポーツ）の競演

まちなかスタジアムを整備する富山城址公園は富山の過去を蓄積してきた富山を象徴する場所である。**富山のアイデンティティを守りながら、新たな未来（スタジアム）を積み重ねる**ことにより、更なるシンボル性のある空間形成を図るものである。

まちなかスタジアムから周辺のまちなかへ波及する、賑わい･交流･雇用･経済効果を生み、新たなる未来を形成していく拠点として、これからも富山のシンボルとして多くの人が集まる場所として、発展していく場所を目指す。

富山の歴史を示す「静」と、スタジアムで躍動する、まちなかが躍動する「動」が競演するシンボリックな空間の形成を図り、富山の拠点であり続ける。



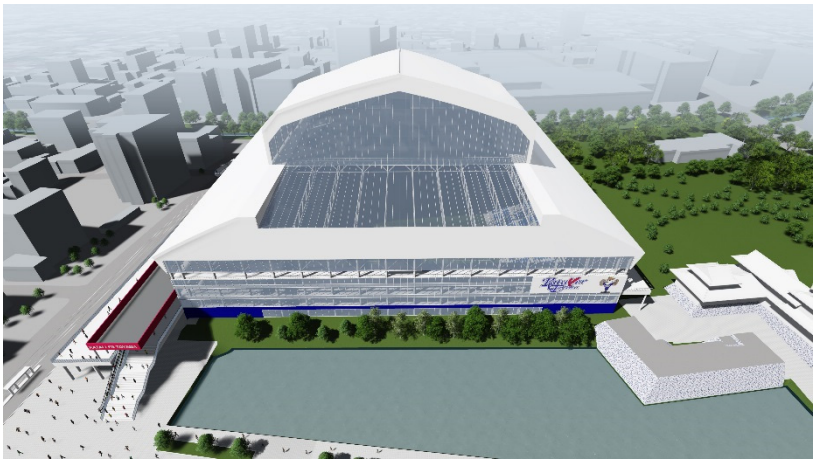
まちなかスタジアムの整備イメージ

（３）富山城址公園内におけるスタジアム整備の特徴

① 中心市街地の活性化

中心市街地商店街より徒歩 5 分と近接した立地であることから、**サッカーの試合の前後に観客の中心商店街への回遊が発生**し、まちなかの歩行者が増加することが見込まれる。

また**通勤通学の帰りに立ち寄れる場所**であるため、より身近なスタジアムとなり、魅力が高まる。

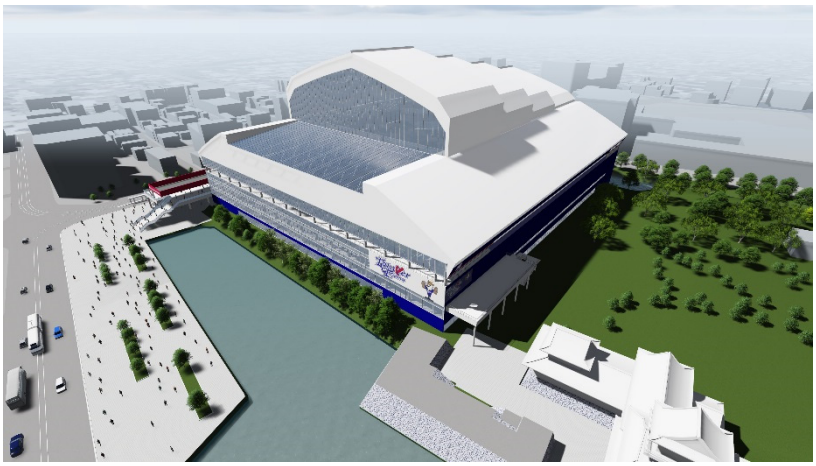


中心市街地への様々な波及効果が見込まれるまちなかスタジアム

② 公共交通の利用促進

市内電車の丸の内電停、国際会議場電停に隣接し、またバス停も近く、富山駅からも徒歩圏内にあるなど、**公共交通でアクセスしやすい立地環境**にある。

公共交通の利用促進が図られることは、持続可能な公共交通の形成に繋がり、富山市の推進する「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」をさらに推進する。



公共交通沿線に位置するまちなかスタジアム

③ まちのシンボル

富山城址公園は現在でも街を代表するスポットの 1 つに上げられる。

これまで積み重ねてきた歴史を象徴し、今後も富山市の中心地の象徴であり続ける場所に、未来を見据えた新たな魅力を加えることにより、**歴史と未来が融合する富山の新たなシンボルとなり**、愛着のもてるスポットとしてあり続けることができる。



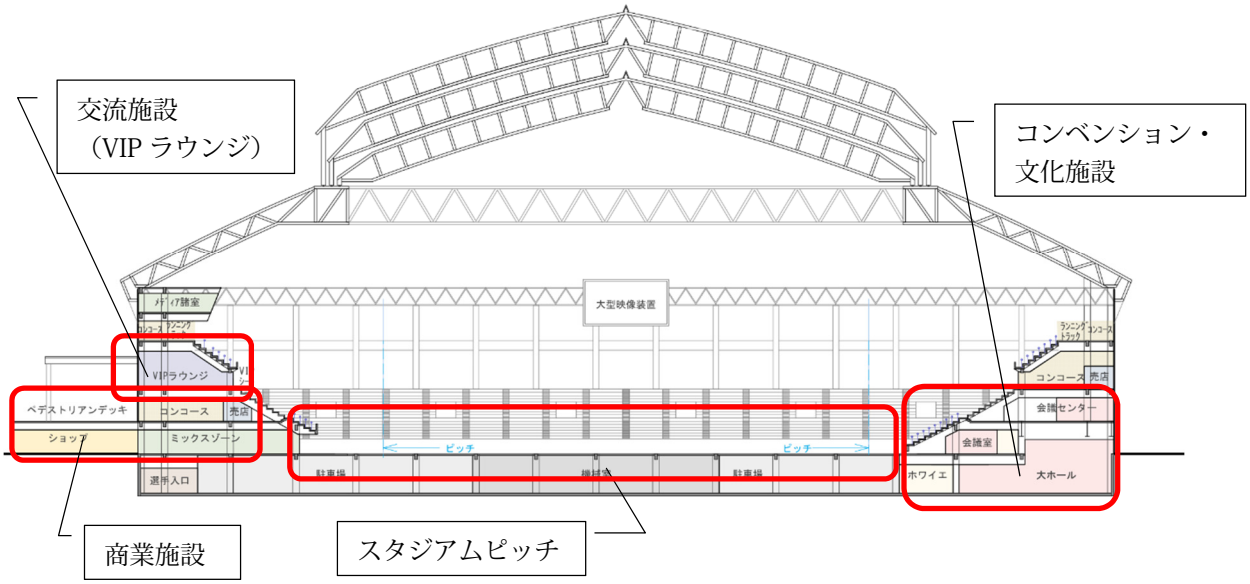
富山城址公園の歴史性に新たな未来を加えるまちなかスタジアム

（４）まちなかスタジアム整備プラン（案）

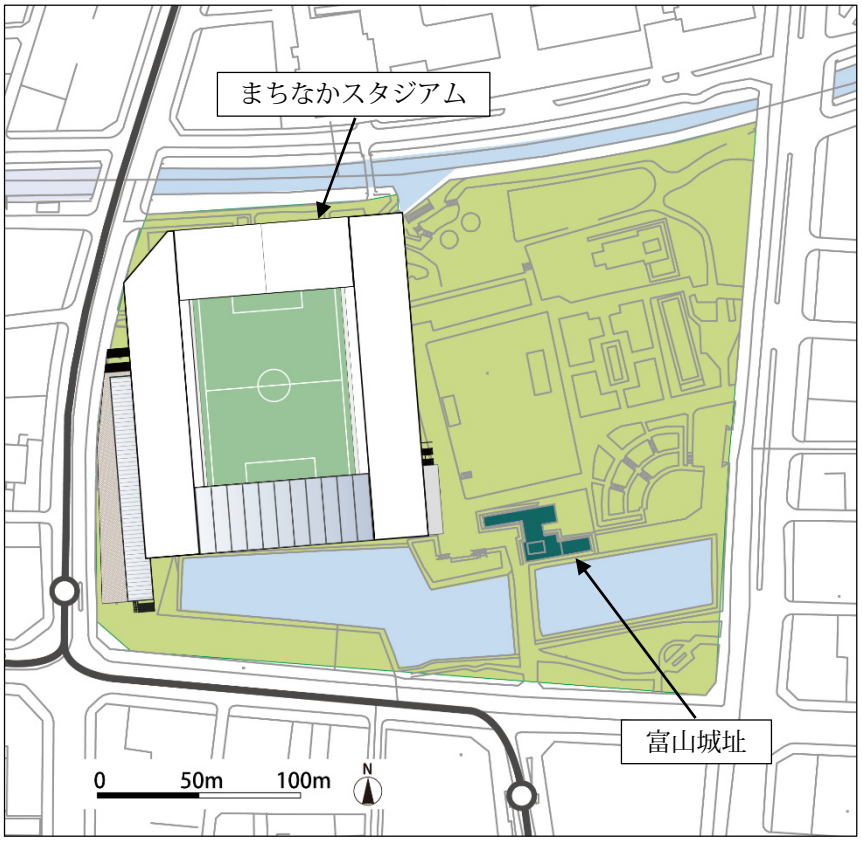
① 全天候対応多機能複合型スタジアム

サッカー専用スタジアムを中心として、商業施設やコンベンション･文化施設･交流施設を併設することにより、試合開催日だけでなく、日常的に利用が可能な施設整備を行う。

スタジアムには開閉式の屋根を設けることで全天候に対応し、試合やイベント等の安定的な開催と、快適な観戦環境を実現する。



全体施設構成概要（まちなかスタジアム　短手方向断面図）

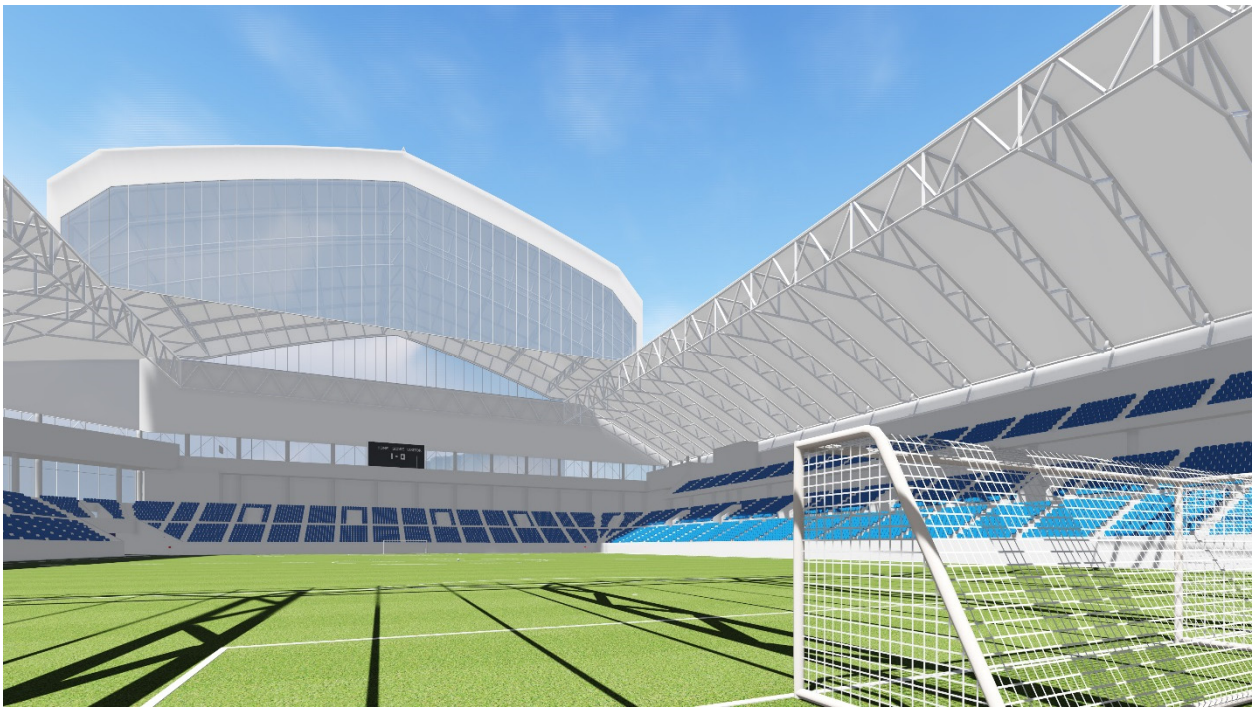


まちなかスタジアム　配置図

整備計画　諸元
- 建物階数：地上５階・地下１階
- 建築面積：約 25,500m²
- 延床面積：約 63,120m²
- 収容人数：約 15,000 人

- 主な機能：
  - サッカースタジアム
  - コンベンションホール
  - 会議室
  - レストラン
  - 商業産業観光振興
  - ショップ
  - ビジネスラウンジ
  - ランニングコース
  - 防災拠点
  - 関係者駐車場


TOYAMA STADIUM
KATALLER TOYAMA





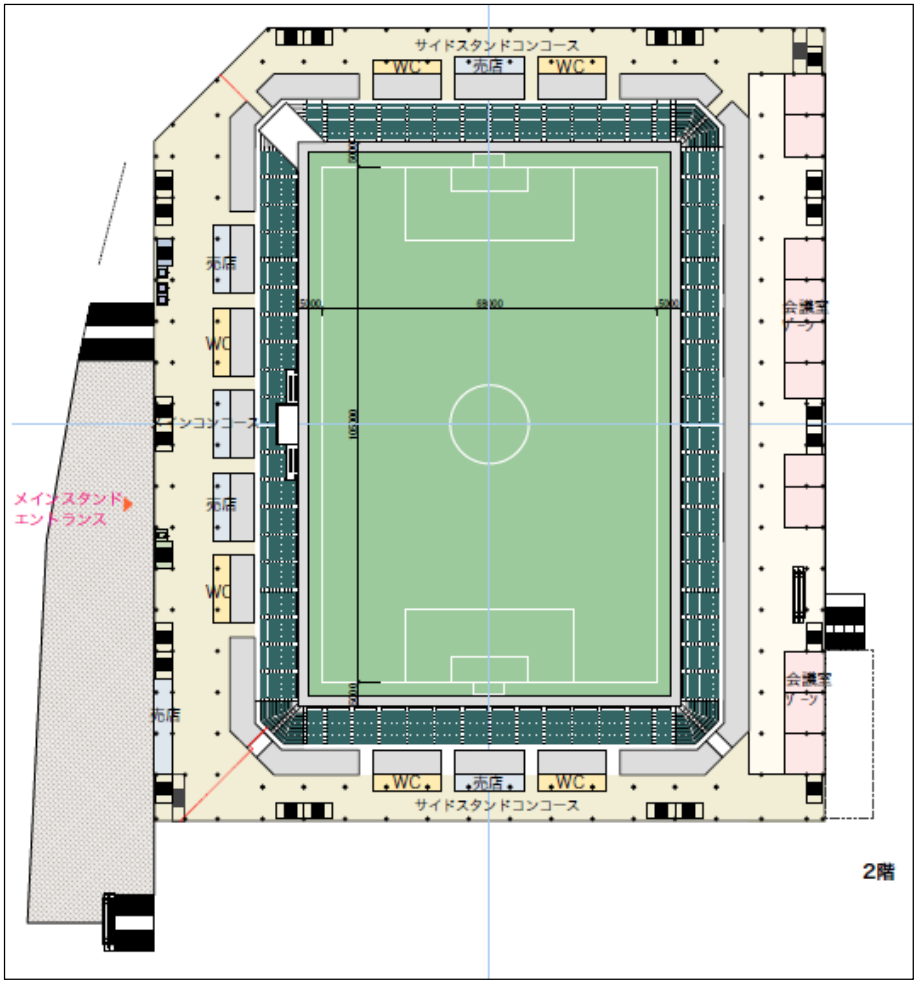

KATALLER TOYAMA

② 欧州型サッカー専用スタジアム

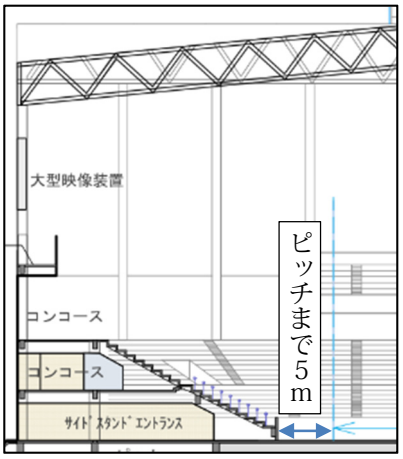
スタンドとピッチの距離を５ｍとし、ピッチに手が届きそうなくらい観客席との距離を近くすることで、**観客が見やすく、臨場感あふれる観戦環境を作り出す。**

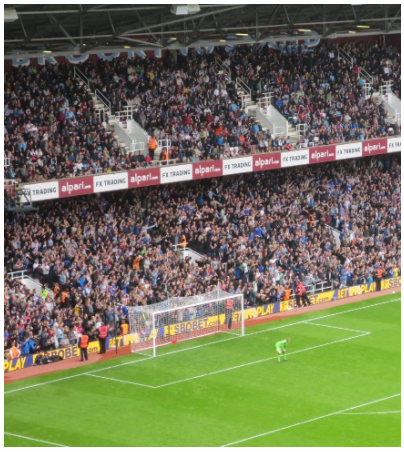
また、開閉式の屋根を設けることによって、雨天時や日差しの強い夏場においても良好な観戦環境を作り出すとともに、**屋根で歓声がこだまることでより一層臨場感が高まり、試合観戦が盛り上がる。**

南側の屋根をガラスとし、天然芝に充分な日光が当たるよう配慮する。



まちなかスタジアム　２階平面図

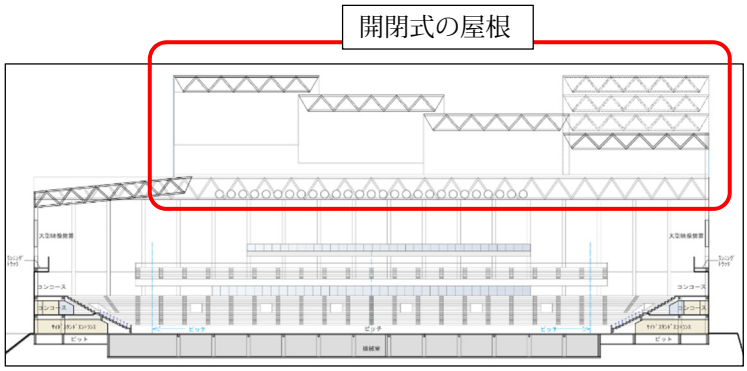




観客席とピッチが近く、
臨場感のあるスタジアム



屋根の開閉イメージ

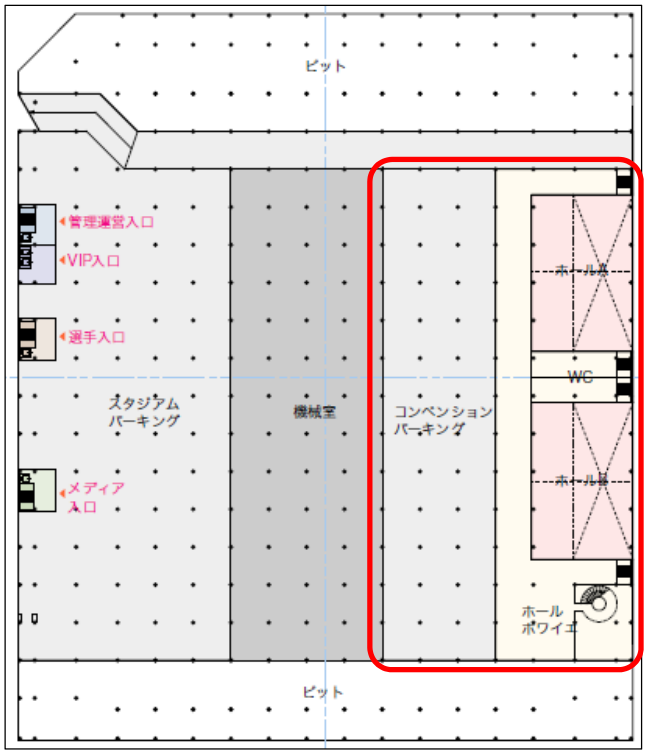


まちなかスタジアム　長手方向断面図

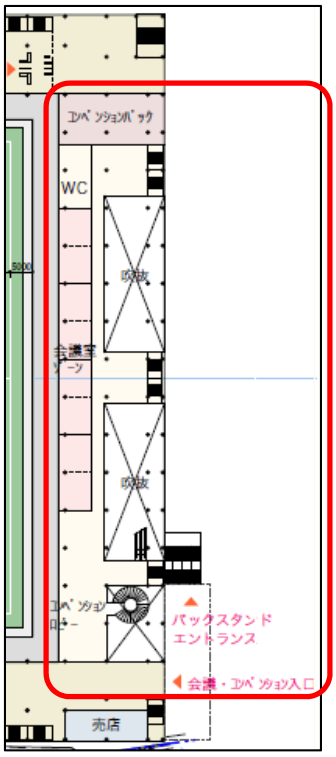
③ コンベンション機能と周辺施設の連携

富山城址公園周辺には富山国際会議場、富山県民会館などの施設が近接しているものの、コンベンション需要に対して不足気味の現状がある。

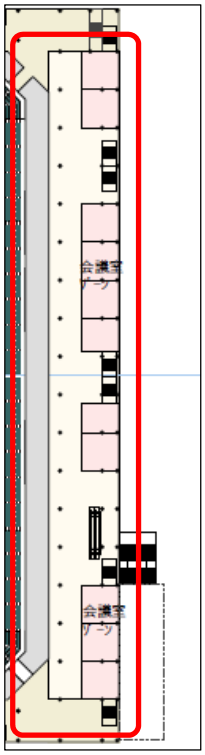
これらの施設との連携を図れるコンベンション施設を整備し、**この地域のコンベンション機能の拡充を図ることで**、現在より規模の大きいコンベンションの開催が可能となる。



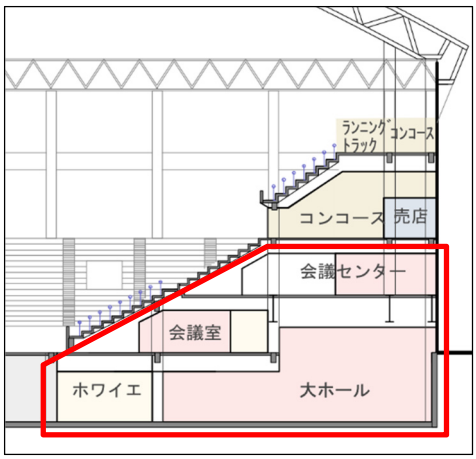
まちなかスタジアム　Ｂ１階平面図（ホール）



１階平面図（会議室）



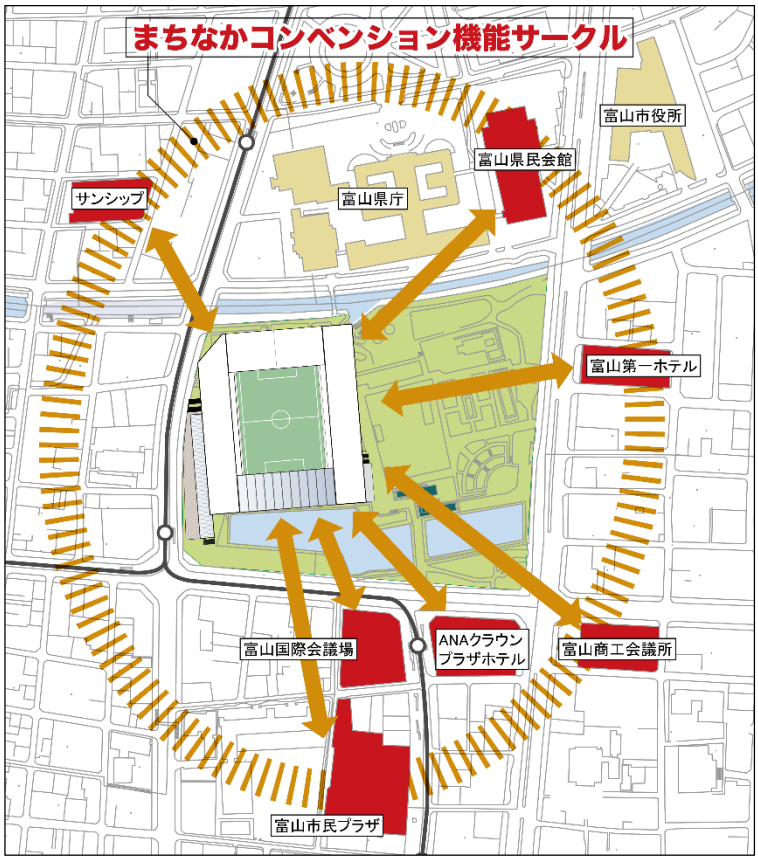
２階平面図（会議室）



コンベンション機能部　断面図

まちなかスタジアムの
コンベンション機能

・ホール：２室（約 800 ㎡/室）
・会議室：１９室
（複数室の組合せで大型化可能）
・ホワイエ、ロビー、バックヤード



城址公園を囲むまちなかコンベンション機能サークルの形成

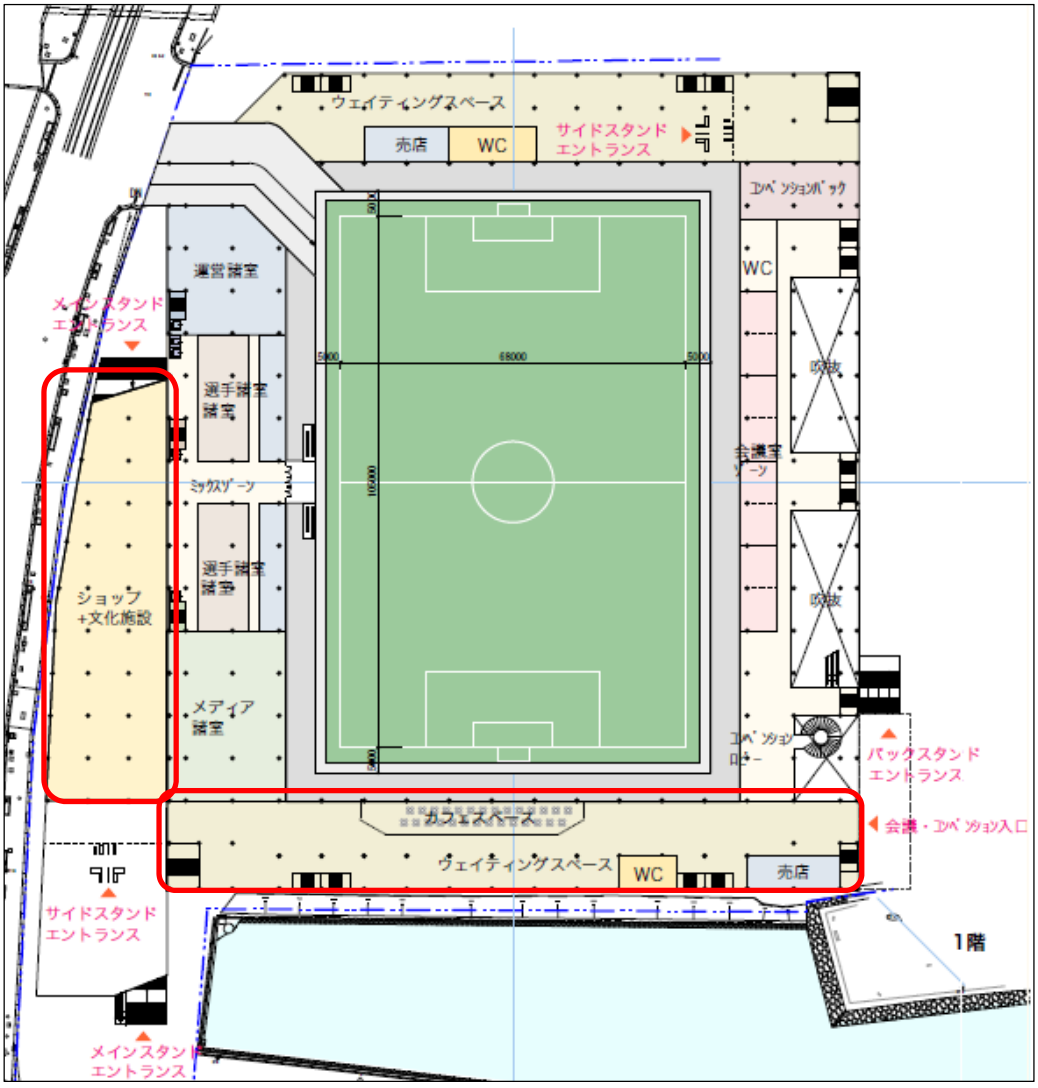
④ レストラン･カフェ･商業観光産業振興施設機能

サッカーの試合がない日でも、人を呼べるような施設としてスタジアム内にカフェや商業施設を併設することで、施設の稼働率を上げ、収益性の向上を図る。

業務エリアに隣接している立地環境であるため、周辺のワーカーらが仕事の合間や仕事帰りに立ち寄る空間として、**市内電車通り沿いの賑わいの創出**を図る。

スタジアム内でピッチを眺めながら飲食が可能なレストラン・カフェ空間は、これまでのまちなかには無いロケーションであり、まちなかの新たな魅力となる。

施設機能例　・「薬都富山」を来場者へアピールする薬業記念館
・観光客向けに地酒や加工品、工業生産品等を扱う地場産品セレクトショップ
・観光斡旋案内、公共交通案内施設
・カターレ富山オフィシャルショップ



まちなかスタジアム１階平面図



カターレ富山ステーション



地場産品ショップ

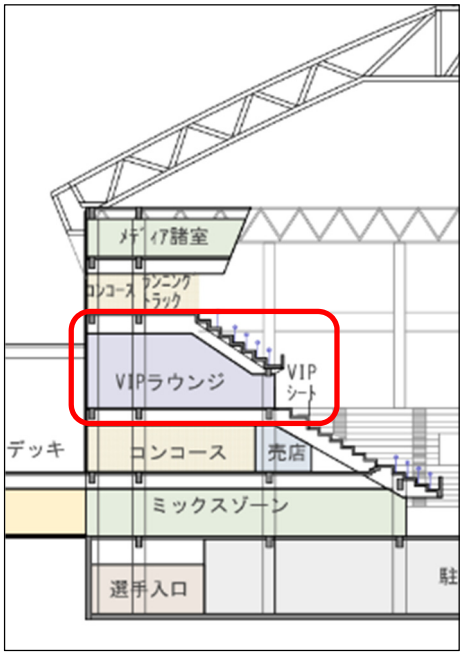


眺望の良いカフェ

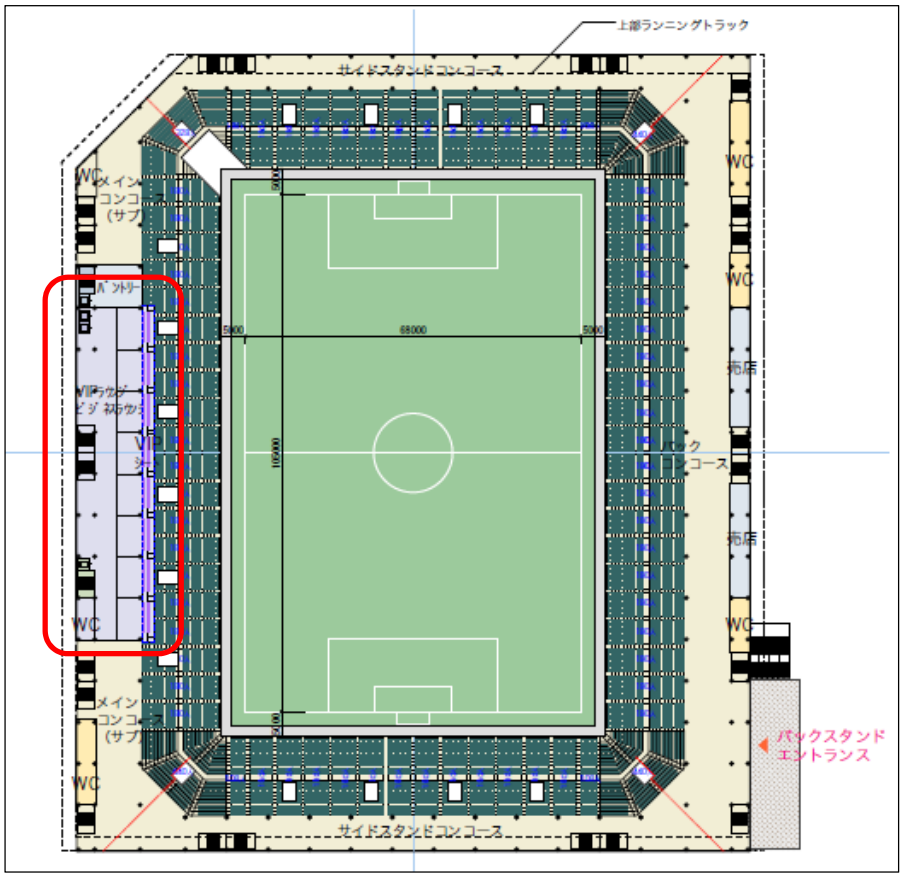
⑤ 県内企業向けエグゼクティブラウンジ

Ｊリーグのサッカーには様々な企業が関係している。ヨーロッパにも見られるように、それらの企業に対する**ビジネスラウンジ、エグゼクティブラウンジ及びビジネスルームを整備し、サッカーを介した企業間交流の活性化**を図る場所とする。

また商業･業務エリアにも近く、サッカー開催日以外の利活用も可能である。



断面拡大図（VIP ラウンジ位置）



まちなかスタジアム　３階平面図（VIP ラウンジ位置）



エグゼクティブラウンジイメージ



ラウンジでの交流イメージ（海外事例）

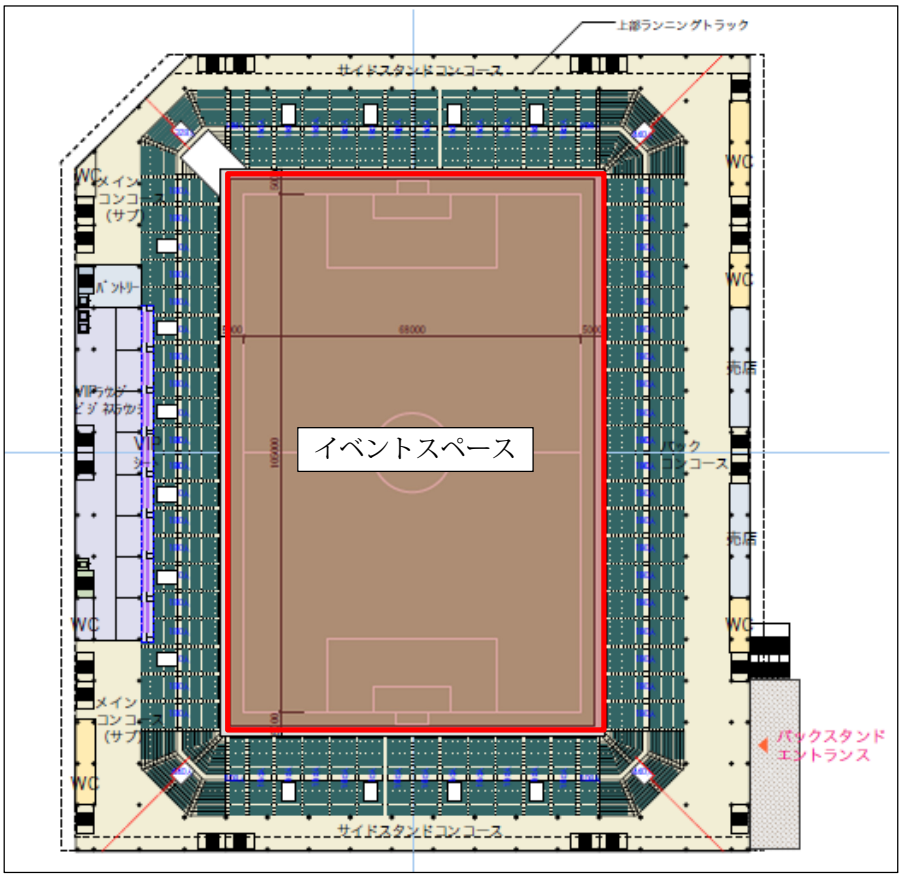
⑥ まちなか大規模イベント開催機能

サッカー開催日以外のまちの大規模集客装置として、ライブ、祭り等の大規模なイベントの開催スペースとしてスタジアムピッチを活用する。

スタジアムのピッチを養生して活用することで、近隣のまちなかにぎわい広場グランドプラザのおよそ６倍のスペースを生み出すことができ、スタンド席を含めた大規模なイベント動員が可能となる。全面を覆う屋根により、冬期でも確実なイベント開催が期待できる。

また、ホールや会議室はイベントに必要な控え室等の諸室としても機能する。

（※グランドプラザ面積：約 1350 ㎡　　スタジアムピッチ面積：約 7,800 ㎡）



大規模イベントスペースのイメージ



芝生養生製品の施工例

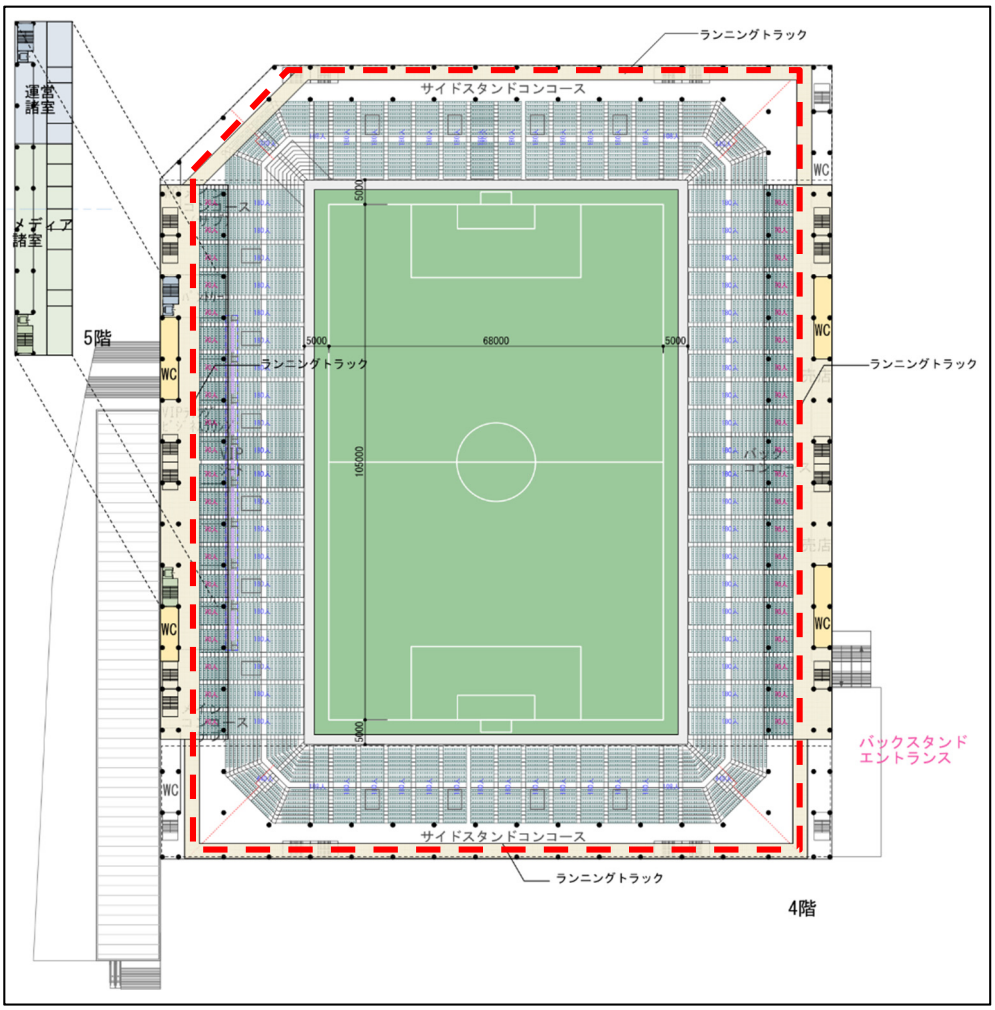


スタジアムコンサートのイメージ（海外事例）

⑦ 市内･周辺宿泊者向け全天候対応ランニングトラック

まちなかでのランニングや市民スポーツに寄与するランニングトラック等のスポーツ機能を整備し、富山県のスポーツ文化の醸成の拠点とする。

スタジアムの外周を活用した屋内ランニングトラックは、**雨の日が多い富山県の気候に左右されず、１年中いつでもランニング、運動ができる空間**となり、仕事帰りの立ち寄りや、近年増加傾向にある出張者のランニング利用などが可能となる。県民、市民の健康増進に貢献する身近な施設となる。



まちなかスタジアム　４階・５階平面図（ランニングトラック位置）

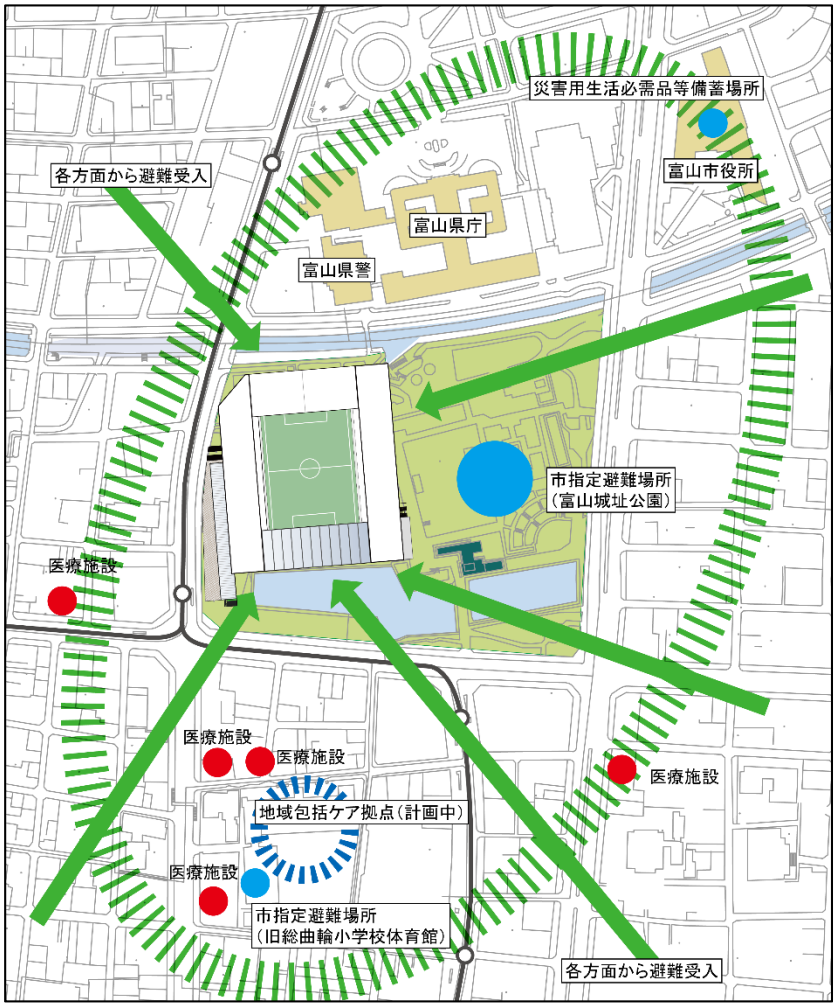


屋内ランニングトラックイメージ
（海外事例）

⑧ コンパクトシティ型まちなか多機能防災拠点

まちなかの安全･安心を創出するため、非常時においては広い敷地を生かした避難場所として機能する施設を整備する。

城址公園は富山市の広域避難場所として指定されており、富山市中心市街地の中でも重要な避難拠点となっているが、施設内で備蓄、避難できる屋内空間を確保することで、より一層安全な避難場所とすることが可能である。また、避難場所として小学校体育館等が指定されているが、学校の統廃合で避難場所確保の課題があり、その課題解消にも寄与できる。



周辺防災拠点を包括するまちなかスタジアム



備蓄倉庫イメージ
（大阪府北部広域防災拠点）

４．富山まちなかスタジアムによる地域活性化について

（１）まちなかスタジアム整備により地域活性化及び地方創生への貢献ができる

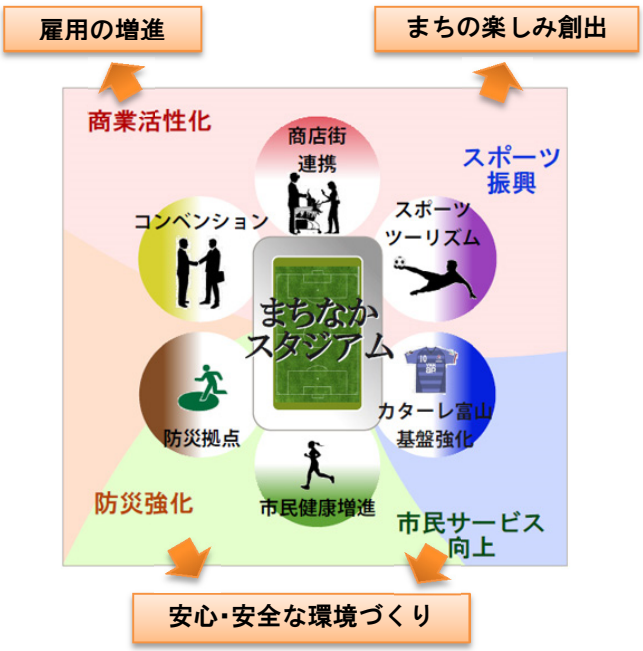
我が国の人口は、2008 年をピークとして、2050 年に 9700 万人、2100 年 5,000 万人を割り込む推計がなされており、人口減少局面に入っている。加えて地方と東京圏の経済格差拡大等が、若い世代らの地方からの流出と東京圏への一極集中を招いている。地方は人口減少を契機に「人口減少が地域経済の縮小を呼び、地域経済の縮小が人口減少を加速させる」負のスパイラルに陥る可能性があり、この状況を克服するため、地域の魅力創造や雇用創出により定住促進を図っていくことが、「地方創生」の考え方の骨子となっている。

富山において若い世代の定住を促進するためには、「雇用」と「まちの楽しみ」の創出が必要と考えられる。

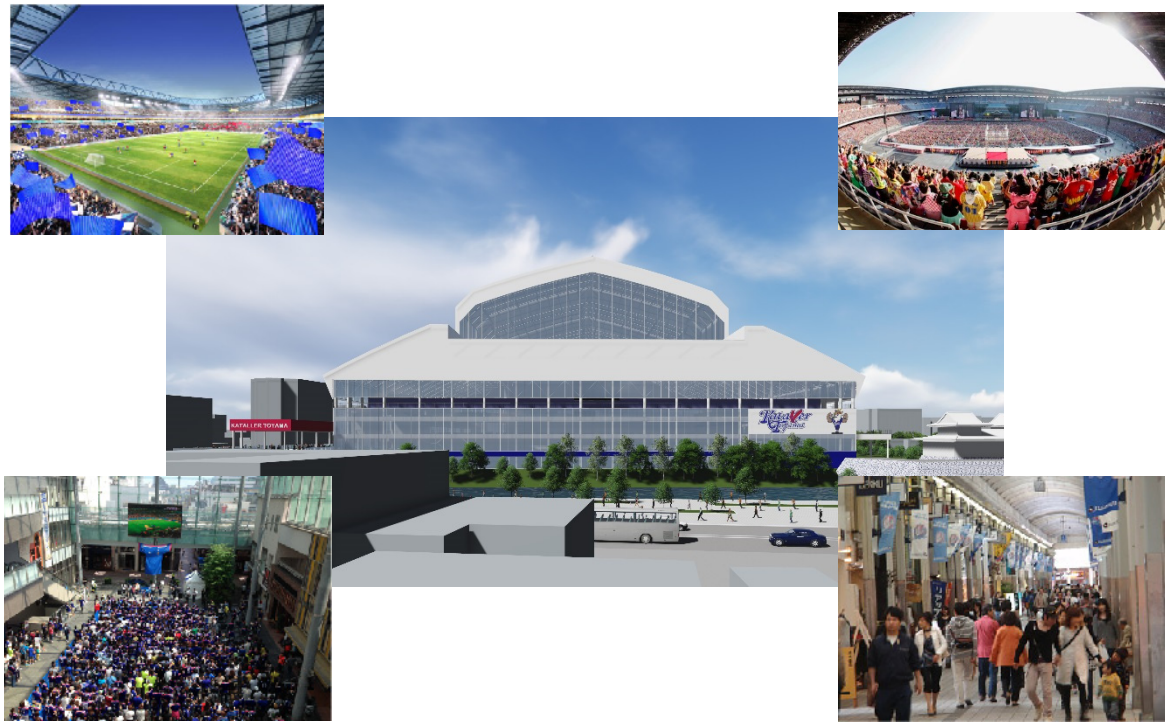
中心市街地内にまちなかスタジアムを整備することにより、**プロスポーツ観戦できる「楽しみ」を身近に提供**できることとなる。また、スタジアム内に整備する様々な施設は現在ある中心市街地の機能をさらに高めることとなり、**ショッピングや街散策など、市民に対して「うるおい」を提供**することができる。

さらに多くの人が訪れることによる商業活性化が雇用環境の向上を促進するとともに、コンベンションやスポーツ関連のビジネス機会増加に伴い、**新たな雇用やビジネス展開を創出し、ひいては若い世代の定住を促進**することにつながると考えられる。

以上のことから本スタジアム整備は地域活性化のみならず、**国が推進する地方創生に対し、重要な役割を担う**ものと考える。



まちなかスタジアムを核とした地域活性化の概念図

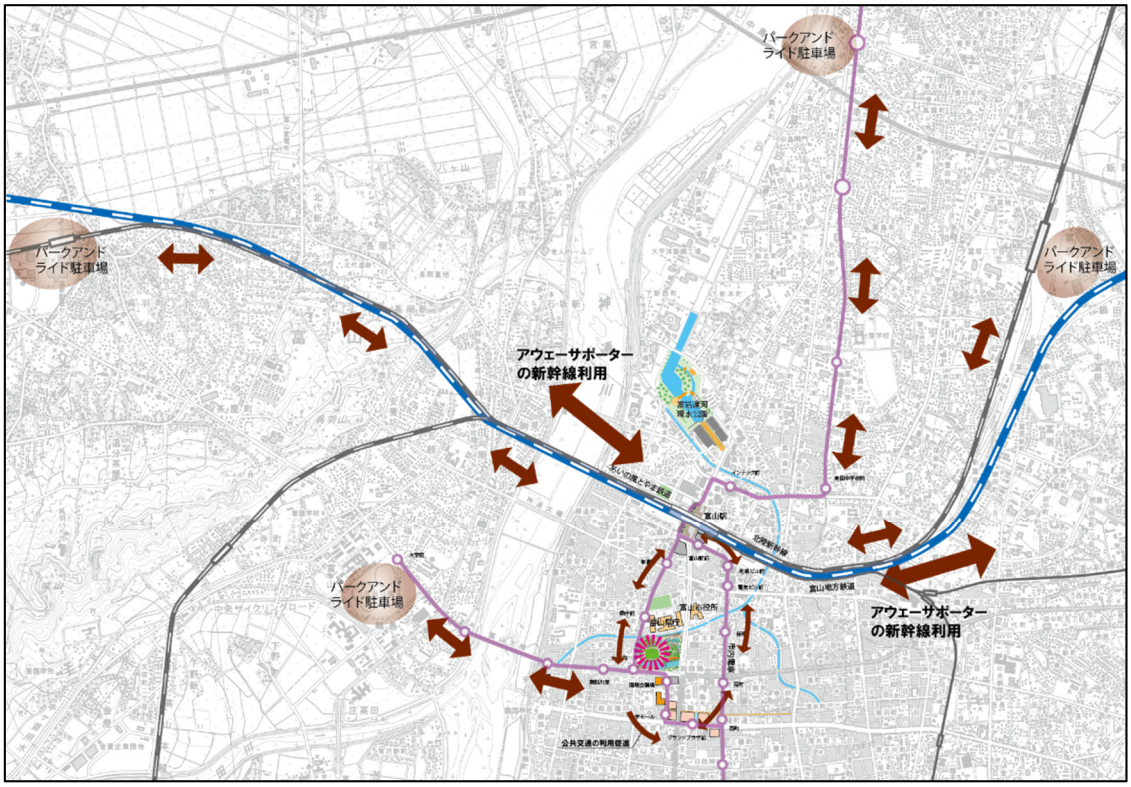


（２）公共交通の利用促進が図られる

まちなかスタジアムの中心市街地への整備により、試合実施日には数千人の流動が発生し、公共交通の利用が促進される。観戦者アンケート結果からも公共交通の利用促進効果が推測されており、観戦者の３７%が電車、バスを利用すると回答している。（現況は３%の利用）

富山城址公園に整備することにより、スタジアムが市内電車と隣接するため、**市内電車の利用促進につながるほか、パークアンドライドの推進により、市内電車とネットワークするあいの風とやま鉄道やライトレールにも利用促進効果が波及する**と考えられる。

公共交通利用者の増加は、公共交通の収益性の向上による持続的な運行に寄与することとなり、富山市が推進している**「公共交通を軸としたコンパクトなまちづくり」に貢献する**ものである。



まちなかスタジアムによる公共交通利用促進

一方まちなかスタジアム整備に伴う中心市街地の自動車交通処理に関して、駐車場確保については今後課題があるものの、基本的には公共交通利用の増加を考慮し、パークアンドライドの導入も含めて今後の検討課題とする。また右表に示すように一定程度スタジアム周辺に駐車場台数は存在している。このうちサッカー観戦に使用できるものは通常利用者等もあることから限られると考えられるが、サッカー観戦券とのコンビチケットや、買い物利用割引などとの連携により一定程度の観戦利用も可能と考えられる。

市内電車環状線沿線の主要な公共駐車場状況

	駐　車　場　名	台　数
1	富山市営桜町駐車場	305
2	富山県営富山駐車場	170
3	富山市営富山駅北駐車場	635
4	富山県営富山中央駐車場	232
5	富山市営城址公園駐車場	101
6	富山市民プラザ駐車場	152
7	富山市営総曲輪駐車場	408
8	富山国際会議場駐車場	125
合　　計		2,128

※このほか民間駐車場を含め、環状線沿線に約 4,800 台の駐車場がある
（資料：富山市ホームページ）

（３）スタジアムでの大規模イベントが開催できる

まちなかにおける大規模イベントが開催可能となることにより、楽しみの場を提供するとともに、地域の活性化への貢献が可能である。

現在の中心市街地での大規模イベント（富山まつりの野外ライブやビートラムのライブなど）では、観客席が充分に確保できない状況であり、イベントができる施設も不足気味である。**これらイベントをスタジアム内で実施することにより、より大きな集客が可能**となる。

大規模イベントを実施することにより、まちなかへの集客向上に寄与するとともに、公共交通の利用促進にも貢献可能である。



スタジアムライブイメージ

富山市内の主要なイベント・祭りの入込み数（単位：人）

イベント名称	H25 年入込数
富山まつり	265,000
山王まつり	250,000
おわら風の盆	230,000
とやまスノーピアード	205,200
全日本チンドンコンクール	160,000

（資料：富山県観光客入込数（推計））

城址公園でのイベント例

イベント名称
BEATRAM MUSIC FESTIVAL
よさこいとやま
北日本新聞カウントダウン花火
全国ラーメン祭り

（４）集客を生かした周辺商業の活性化が図られる

まちなかスタジアムによって集客する観戦者は、１試合平均数千人から１万人以上であり、中心市街地が集客する人数と同等またはそれ以上の人数を集客することが可能であり、城址公園のスタジアムから徒歩圏内にある中心商店街への回遊は充分見込めるものである。

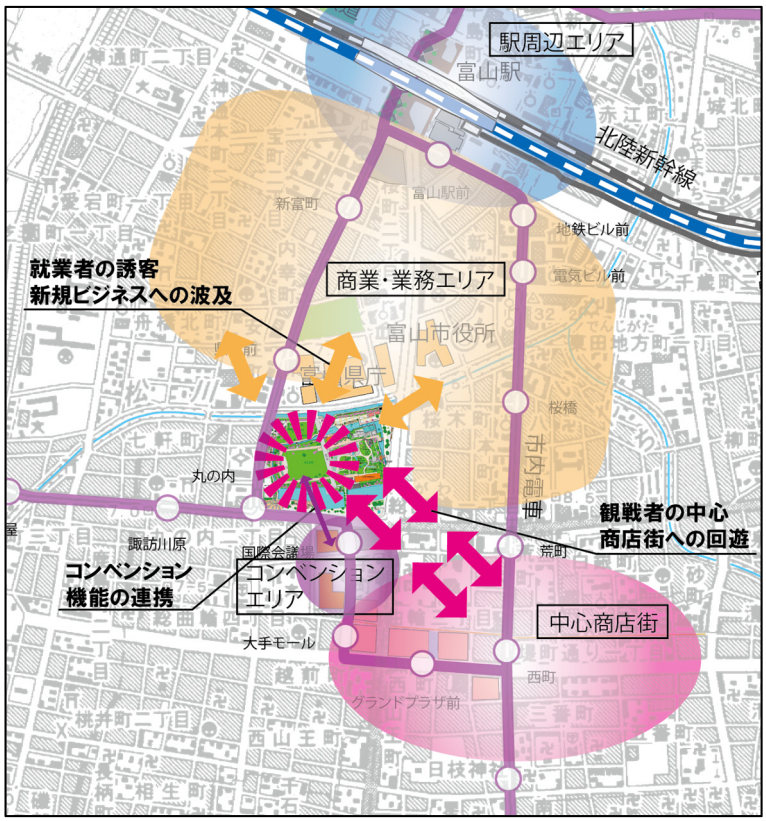
観戦者アンケートの結果から、６～７割が観戦前後において飲食、買物等をする意向が見られ、周辺部への経済波及効果もあるものと考えられる。**観戦者割引やサッカーの試合とのタイアップ企画等の実施**によって、観戦者を周辺商業施設へ誘導し、まちなか商業の活性化に貢献することが充分に可能である。

また、中心商店街の活性化に伴い雇用環境が向上することにより、若者の定着促進にも繋がると考える。

まちなかの集客と観戦者数比較

平成 25 年度 総曲輪通り歩行者 通行量平均	7,753 人
平成 26 年カターレ 富山ホームゲーム 平均観客動員	4,266 人

（データ再掲）



まちなかスタジアムの周辺活性化への寄与イメージ

（５）中心市街地の機能が高まる

コンベンション施設を整備し、隣接する国際会議場や市民プラザ等と連携することで、従来以上に大規模なコンベンションが可能となるなど、交流拠点の強化が図られる。

また、まちなかにおける防災機能を提供することで、安全な市街地形成に寄与する。

多機能複合施設は、中心市街地への都市機能の集積に寄与し、コンパクトシティの形成を促進するものである。



中心市街地の機能付加イメージ

（６）交流人口が増加する

アウェーサポーターの来県により、交流人口の増大が図られる。

Ｊリーグのホームタウンは全国各地に分布しており、多方面からの誘客が実現する。

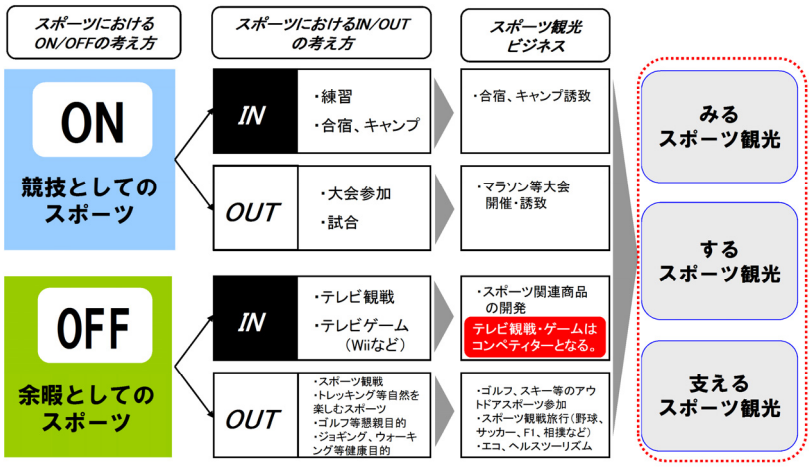
さらに併設のコンベンション施設や文化交流施設の整備により、更なるコンベンションの開催企画が可能となり、交流人口増加への貢献ができる。



観戦サポーターが富山観光へ

（７）スポーツツーリズムの振興が図られる

富山に来るアウェーサポーターをターゲットとしたスポーツツーリズムの企画などが考えられ、観光業の振興に繋がり、交流人口の増加に寄与できる。



スポーツツーリズムにおけるビジネスの可能性

（８）カターレ富山の経営改善が図られる

県民、市民に身近なまちなかスタジアムとなることでサポーター及び観客数の増加が図られ、**カターレ富山の強化や経営改善に寄与**する。

またカターレのチーム力が向上し、媒体への露出増大、サポーターや観客数の増加による接触機会の増加などが実現すれば、広告力も向上し、スポンサー企業への波及効果が生じる。



カターレ富山サポーター



カターレ富山の駅前ステーション



サッカーのパブリックビューイングイベント

（９）健康増進の取り組みに寄与できる

まちなかスタジアムのピッチを活用して、試合がない日にサッカー教室などを開催することで、県民が日常的にスポーツに触れる機会を創出し、健康増進に寄与することができる。県民の健康増進により、医療費の軽減にも寄与できる。



サッカー教室による健康増進
（ゴールドウィン HP より）



屋内ジョギングによる健康増進
(出典：http://musanapi.blog.so-net.ne.jp/)

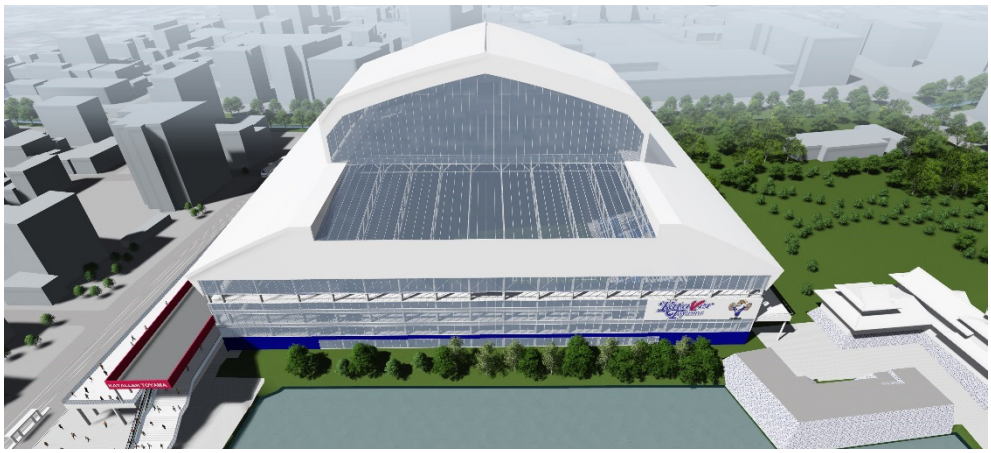


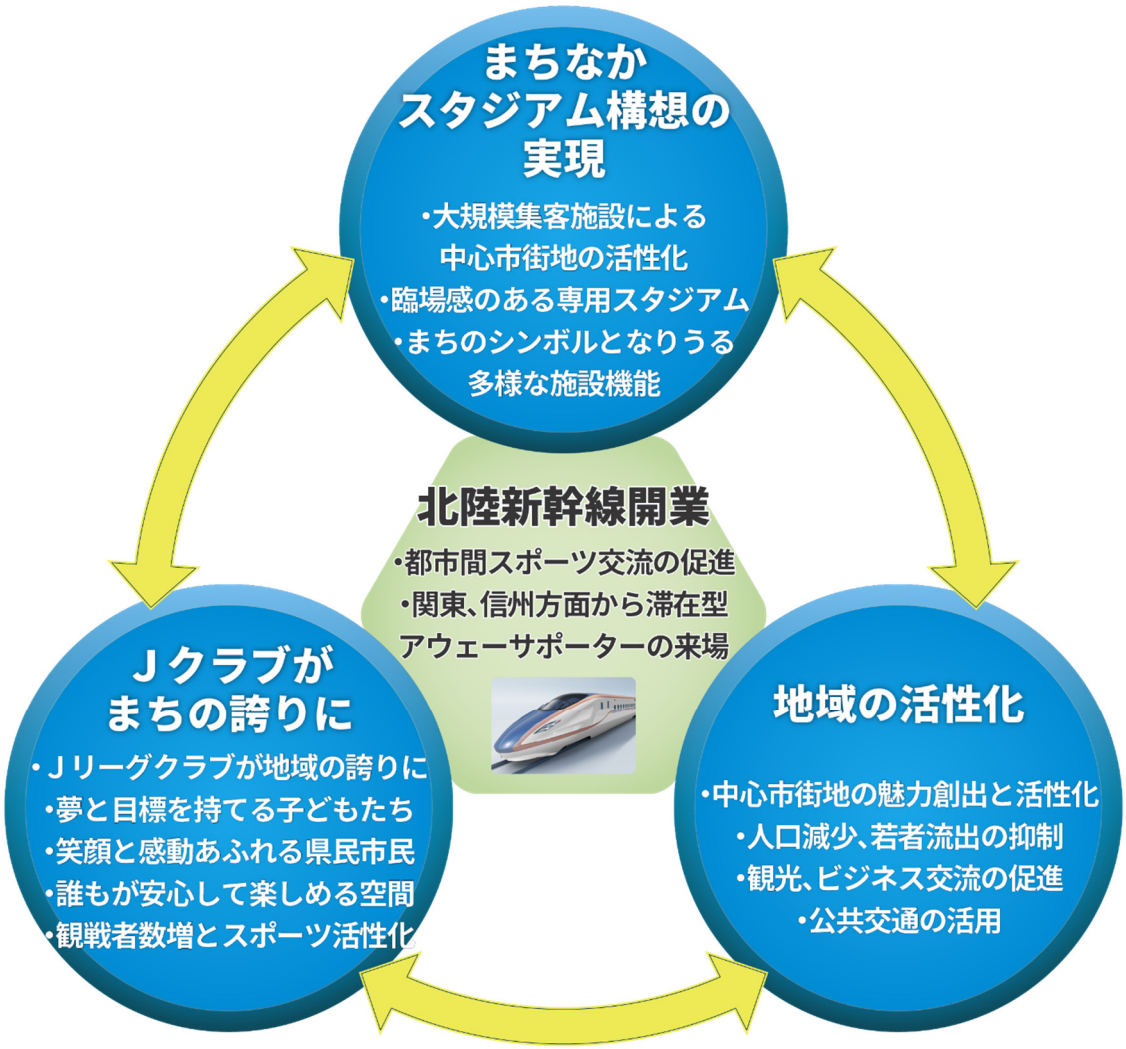
サッカー教室による健康増進
（カターレ富山ＨＰより）

（10）地域のアイデンティティ、地域コミュニティが創出できる

ファン同士が交流することにより、地域の誇り、アイデンティティを醸成するとともに、ファンコミュニティが創出でき、ソーシャルキャピタルが醸成される。

観戦後にスタジアム周辺の飲食店等で試合内容について語り合う場ができることで、サポーターや試合運営補助のボランティア同士のコミュニティの創出が図られる。併設のコンベンション施設でも日常的な交流が生まれ、コミュニティの形成に寄与する。





まちなかスタジアムの実現効果

５．整備による経済波及効果の試算

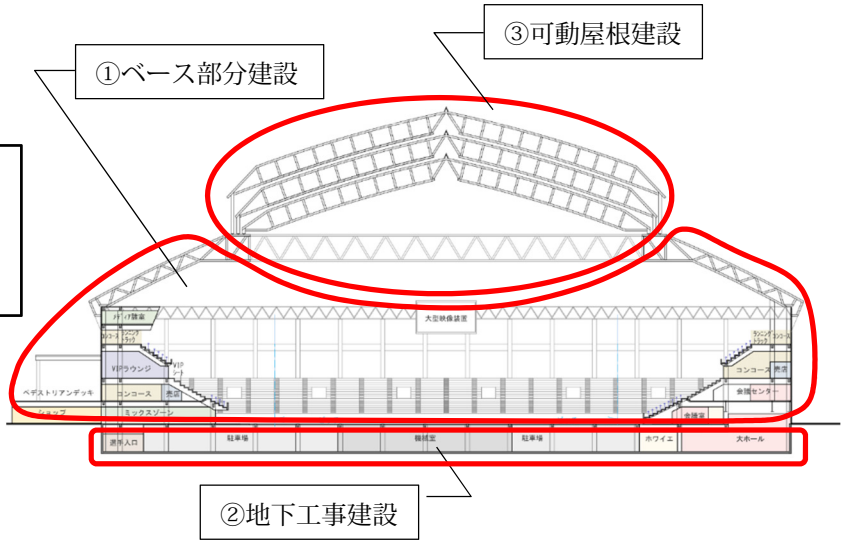
（１）まちなかスタジアムの建設費用と建設による経済波及効果

①スタジアム整備費用試算

以下に、スタジアム建設費用について試算を行った。

スタジアム建設費用の試算においてはスタジアムのベース部分（地上の屋根を除いた施設部分）、地下工事部分、可動屋根建設工事部分の３つに分けて算出を行った。

スタジアム建設費用＝
スタジアムベース建設費用
＋地下工事建設費用
＋可動屋根建設費用



建設費用試算算定部分

試算①：スタジアムベース部分の建設費用

スタジアムベース部分の建設費用は、国内のサッカー専用スタジアムの建設費用実績値を参考に試算を行った。

可動屋根等の特殊設備のない既存スタジアムの建設費用は以下の通りであり、収容人数あたり、建築面積あたり、延床面積あたりの建設単価について示す。

＜参考事例＞　可動屋根等の特殊設備のない既存スタジアム

	整備費用実績					工事費単価		
	収容人数 人	建築面積 ㎡	延床面積 ㎡	工事費 億円	竣工年 年	収容人数 万円/人	建築面積 万円/㎡	延床面積 万円/㎡
仙台	19,694	16,907	28,193	130	1,997	66	77	46
鹿島	40,728	30,449	85,019	233	1,993	57	77	27
鳥栖	24,490	10,037	21,167	67	1,996	27	67	32
千葉	18,500	16,037	34,889	81	2,005	44	51	23
北九州	15,000	10,860	19,784	85	2,017	57	78	43

上記より、収容人数あたりの建設単価を 40 万円/人、50 万円/人、60 万円/人の 3 つのパターンで設定した。

富山まちなかスタジアムのベース部分（屋根、地下部を除く）算定の基礎数量を以下に示す。

○収容人数：15,000 人
○建築面積：12,840 ㎡（屋根をかけない場合のスタジアムベース部分の建築面積※）
○延床面積：34,750 ㎡（地下部分の延床面積を除外した面積）
○階数　　：地上 5 階

※ 屋根が付いた場合、建築面積が屋根に覆われた部分すべてが建築部分となるため、今回の建築面積は屋根がない状態での算定を行っているとともに、1 階商業施設、ペデストリアンデッキ部分は他事例と比較して過大な建築面積となるため、建築面積から除いている。

富山まちなかスタジアムのベース部分の基礎数量を既存スタジアムの建設単価（収容人数あたり単価）に当てはめると以下のようになった。

＜ベースコスト＞収容人数あたり単価で算出

グレード	総額	算出単価	単価（参考）	
		収容人数あたり	建築面積あたり	延床面積あたり
低	60 億円	40 万円/人	47 万円/㎡	17 万円/㎡
中	75 億円	50 万円/人	58 万円/㎡	22 万円/㎡
高	90 億円	60 万円/人	70 万円/㎡	26 万円/㎡

※ 建築面積あたり、延床面積あたりの数値は算出した建設費用から割り出した単価（参考値）

試算②：地下工事部分の建設費用

地下工事部分の建設費用については、おおむねの延床面積あたりの建設単価を設定し、以下の数量規模にあてはめて算出した

○想定工事単価　　：　15 万円/㎡

○地下 1 階延床面積：16,250 ㎡

⇒地下工事額　：　15 万円/㎡×16,250 ㎡＝24 億円

試算③：可動屋根部分の建設費用

屋根建設費用については、同様の可動屋根の建設費用に積雪対応等を加味し、以下のような建設費用で設定した。

○屋根建設費用　：　40 億円

試算合計（試算①＋試算②＋試算③）

グレード	建設費用総額	ベース部分	地下工事	屋根建設
低	124 億円	60 億円	24 億円	40 億円
中	139 億円	75 億円		
高	154 億円	90 億円		

富山まちなかスタジアムの建設費用は以下の通り試算された。

可動屋根付きの場合　約 125～155 億円

屋根なしの場合　約 85～115 億円

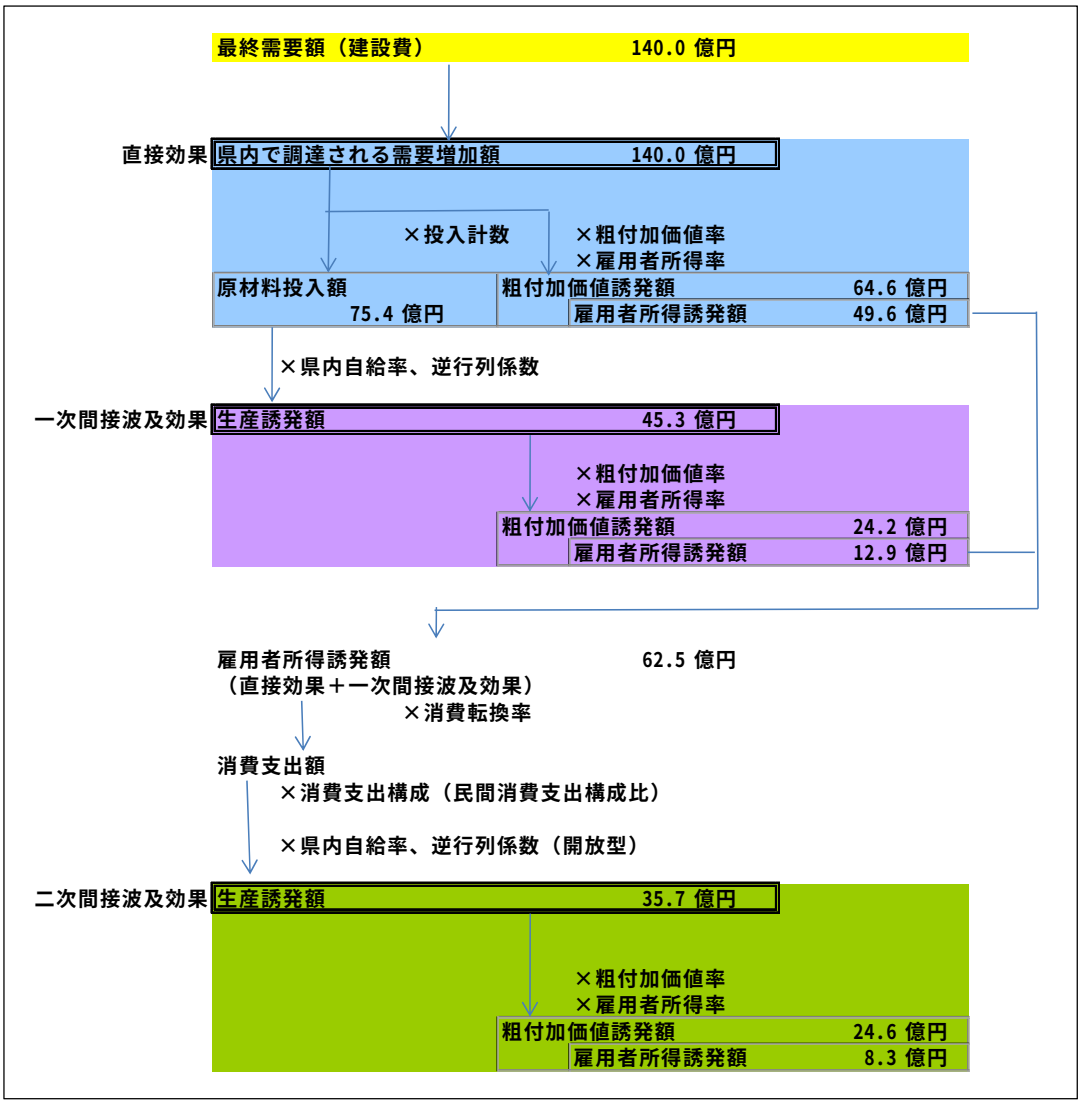
②まちなかスタジアムの建設による経済波及効果

ここで、建設工事による経済波及効果について、富山県統計調査課が公開している経済波及効果分析ツールを用い、平成 17 年富山県産業連関表を元に試算する。

試算にあたっては、前出の建設費（140 億円と設定）を基準として、建設に伴う直接効果、直接効果での生産増加に伴い誘発された各産業の生産増加の総額である一次間接波及効果、直接効果と一次間接波及効果で発生した雇用者報酬の増加から生み出される生産増加の総額である二次間接波及効果を算出する。

・試算結果（工事費 140 億円の場合）

工事費140億円の場合	直接効果	一次間接波及効果	二次間接波及効果	合計
生産誘発額	140.0	45.3	35.7	221.0
粗付加価値誘発額	64.6	24.2	24.6	113.4
雇用者所得誘発額	49.6	12.9	8.3	70.8



・波及効果倍率：生産誘発額計（221 億円）／建設費（140 億円）＝1.58 倍

以上より、富山まちなかスタジアムの建設による
経済波及効果は 221 億円 と試算された。

（２）まちなかスタジアムの活用による経済波及効果

チーム運営支出や観客収入などサッカーによる直接効果、スタジアムにおけるサッカー以外の大規模イベント開催による直接効果の２種を対象とし、直接効果に伴う間接波及効果と合わせ、まちなかスタジアムの活用に伴う経済波及効果を試算する。

なお、コンベンション施設や文化交流施設等の複合機能の日常的な利用による経済波及効果も期待されるが、本試算では含まない。

① サッカーによる直接効果の算定

以下のとおり条件を設定し、サッカーによる直接効果を算定する。

条件１：サッカー公式戦開催時の平均観客数の設定　⇒　8,000 人／１試合

まちなかスタジアムにおけるサッカー公式戦開催時の平均観客数は、現在のカターレ富山の観客動員数と推移、ホームゲームにおける最多動員の実績等を踏まえた推計と、まちなかへの立地になることによる集客効果を加味し、一試合あたり 8,000 人と設定する。

カターレ富山ホームゲーム年間平均観客数の推移と各年の最多動員数

	平均観客数	最多動員	（対戦カード）
2014 年	4,323 人	8,018 人	（vs.ジュビロ磐田）
2013 年	4,474 人	13,639 人	（vs.G 大阪）
2012 年	3,324 人	6,549 人	（vs.松本）
2011 年	3,275 人	8,663 人	（vs.FC 東京）
2010 年	4,463 人	10,726 人	（vs.大分）
2009 年	3,740 人	5,520 人	（vs.仙台）

条件２：年間主催試合数の設定　⇒　21 試合／年

2014 年の J2 リーグの年間主催開催試合数の 21 試合と設定した。

条件３：年間チーム運営経費の設定　⇒　59 百万円／年

カターレの決算資料（J リーグ資料）より、選手の年棒を除いたチームの運営経費を 59 百万円／年と設定した。

条件４：観客の交通費単価の設定　⇒　936 円／人

１人あたりの交通費は、富山～高岡間の乗車料金（640 円 現行･往復）とセントラムの運賃（400 円 現行･往復）を合算した 1,040 円と設定した。なお、あいの風とやま鉄道開業により富山～高岡間の料金は増額されるが､定期券利用等による減額も勘案し､現行料金を採用した｡他の交通手段についても、駐車場代やガソリン代等で、同程度の単価が見込まれる。

Ｊリーグアンケート調査結果を踏まえ、県内からの観客を全体の約 90％と仮定した。

⇒ 1,040 円×90％＝936 円/人

条件５：入場料単価の設定　⇒　1,000 円／人

2013 年度のカターレ決算（J リーグ資料）を基に、1,000 円/人と設定した。

⇒ 2013 年度入場料収入：84 百万円
　 2013 年度入場者数　：93,960 人
　 １人あたり単価実績　：894 円/人　≒　1,000 円/人

条件６：飲食代単価の設定　⇒　スタジアム内：800 円／人　　スタジアム外：1,420 円／人

既存資料（全国県内日帰り観光消費単価（国交省、2012 年）＝3,982 円/人 及び 新生銀行お小遣い調査（飲み代、2014 年）＝3,483 円/人）を踏まえ、1 人 1 回あたりの飲食消費単価を 3,000 円/人と設定し、うちスタジアム内での飲食を 1,000 円、スタジアム外での飲食を 2,000 円と設定した。

スタジアム内での飲食消費は、先行事例より全観客の 80％が行うものと仮定した。

スタジアム外での飲食消費は、Ｊリーグアンケート調査結果を踏まえ、全観客の 71％が行うものと仮定した。

⇒ スタジアム内飲食代：1,000 円×80％＝800 円／人
　スタジアム外飲食代：2,000 円×71％＝1,420 円／人

条件７：物販代単価の設定　⇒　186 円／人

スタジアム内での物販代単価は、類似調査等を参考に 500 円/人と設定した。

観客の購入比率は 2012 年Ｊリーグ調査結果より 37.1％と仮定した。

⇒ 物販代単価　500 円×37.1％＝186 円／人

条件８：宿泊代単価の設定　⇒　対戦相手選手（30 人）　8,000 円／人、観客　800 円／人

宿泊代単価は近隣施設の料金実態を踏まえ、8,000 円/人（観客・選手ともに一律）と設定した。

・ANA ホテル　　：9,215 円/泊
・コンセプトホテル和休：7,000 円/泊　　（調査時・休前日の最低価格）

宿泊は対戦相手の選手等が試合毎に 30 人、観客はＪリーグアンケート調査結果を踏まえ、10％が宿泊すると仮定した。

⇒ 一般の観客宿泊単価　8,000 円×10％＝800 円／人

【サッカーによる直接効果算定】

試算の前提条件整理

項　目	設定値	単位
条件１：平均観客数	8,000	人/試合
条件２：年間主催試合数	21	試合
条件３：年間運営経費	59	百万円/年
条件４：交通費単価	936	円/人
条件５：入場料単価	1,000	円/人
条件６：飲食消費単価		
スタジアム内	800	円/人
スタジアム外	1,420	円/人
条件７：物販代単価	186	円/人
条件８：宿泊代単価（円/人）		
対戦相手選手（30 人）	8,000	円/人
観客 1 人あたり	800	円/人

以上の条件より、サッカーによる直接効果は 9.3 億円 と試算された。

試算項目		単位	備考
年間観客数	168,000	人	平均8000人、21試合
直接効果（a）	927	百万円	
チーム運営支出	59	百万円	選手の年俸等は含まず
相手チーム支出	5	百万円	宿泊費のみ見込む
交通費	157	百万円	単価1040円、観客数の90%が県内移動
観客関連支出（スタジアム内）			
入場料	168	百万円	単価1000円
飲食	134	百万円	単価1000円、観客数の80%が消費
物販	31	百万円	単価500円、観客数の37%が消費
観客関連支出（スタジアム外）			
飲食	238	百万円	単価2000円、観客数の71%が消費
宿泊費	134	百万円	観客数の10%が宿泊
その他	－	百万円	サッカー以外のイベントによる効果は見込まず

② 前提条件の整理２【サッカー以外のイベント開催による直接効果算定】

条件９：イベントの集客数　⇒　5,000 人／１回

まちなかスタジアムにおける大規模イベント開催時の平均集客数は、W 杯パブリックビューイングイベントが約 2,400 人の集客だったことや類似施設の実績、まちなかへの立地になることによる集客効果を加味し、一回あたり 5,000 人と設定する。

条件 10：イベントの開催数　⇒　20 回／年

J2 アビスパ福岡の本拠地であるレベルファイブスタジアムの開催実績（20 回／年）から、1 年あたり 20 回と設定する。

条件 11：スタジアム運営支出　⇒　200 万円／日

関係者等へのヒアリングを基に、スタジアム運営に関する支出を 200 万円/日と設定する。

また、天然芝の養生等でイベント開催日前後二日間ずつのスタジアム管理も必要となるため、イベント 1 回あたり 5 日分の運営支出を想定する。

条件 12：観客の交通費単価の設定　⇒　936 円／人

条件 4 と同様の設定とした。

条件 13：飲食代単価の設定　⇒　スタジアム内：800 円／人　　スタジアム外：1,420 円／人

条件 6 と同様の設定とした。

条件 14：物販代単価の設定　⇒　186 円／人

条件 7 と同様の設定とした。

条件 15：宿泊代単価の設定　⇒　来場者　800 円／人

条件 8 と同様の設定とした。

【イベント開催による直接効果算定】

試算の前提条件整理

項　目	設定値	単位
条件 9　：平均集客数	5,000	人/回
条件 10：年間イベント開催数	20	回
条件 11：スタジアム運営支出	2	百万円/日
条件 12：交通費単価	936	円/人
条件 13：飲食消費単価		
スタジアム内	800	円/人
スタジアム外	1,420	円/人
条件 14：物販代単価	186	円/人
条件 15：宿泊代単価（円/人）	800	円/人

以上の条件より、イベントによる直接効果は 6.1 億円 と試算された。

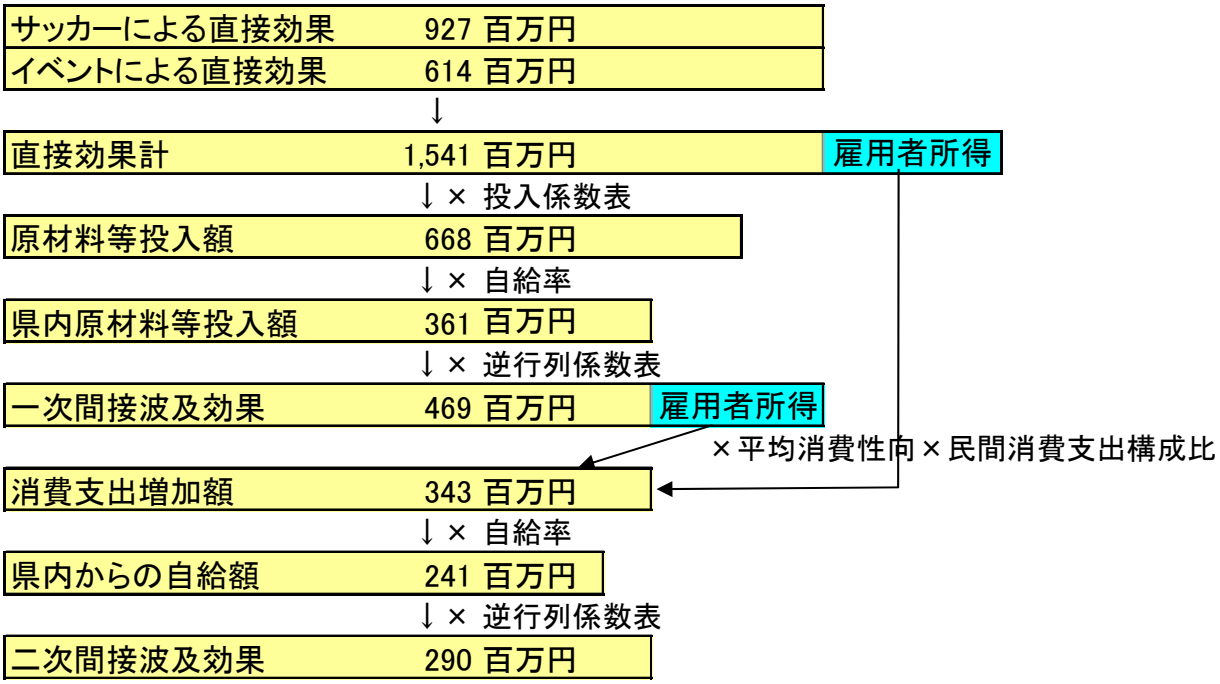
試算項目			単位	備考
年間観客数		100,000	人	イベント数　20件（20日間）
イベントによる直接効果（b）		614		来客数　5,000人／日
スタジアム運営支出		200		2百万円/日　×　20件　×　5日間
交通費		94	百万円	単価1040円、来客数の90%が県内移動
観客関連支出（スタジアム内）				
	飲食	80	百万円	単価1000円、来客数の80%が消費
	物販	19	百万円	単価500円、来客数の37%が消費
観客関連支出（スタジアム外）				
	飲食	142		単価2000円、来客数の71%が消費
	宿泊費	80		来客数の10%が宿泊

③ 間接波及効果の算定

直接効果の算出効果における運営支出・観客の消費額より、関連産業における経済波及効果を一次間接波及効果として算出を行う。

二次間接波及効果については、一次間接波及効果による雇用者所得の増加を踏まえ、所得増加に伴う支出増加額等を基に波及効果を算出する。

図　波及効果算出プロセス



④ 経済波及効果の算出

以上より、まちなかスタジアム整備によるサッカー関連からの直接効果が約 9.3 億円、イベント開催からの直接効果が約６.1 億円、（二次間接波及効果までの）間接効果を含めた経済波及効果は年間約 23 億円に上るものと試算された。

直接効果において、**スタジアム外での交通費、飲食、宿泊費の波及効果が約 7.5 億円、間接波及効果を含めると年間 15 億円がスタジアム周辺地域への波及効果**であると算出される。

表　算出結果の一覧表

項目	数値	単位	（前提条件等）
年間来客数	268,000	人	
サッカー観客数	168,000	人	平均8000人、21試合
イベント来客数	100,000	人	平均5000人、20件（日間）
サッカーによる直接効果（a）	927	百万円	
チーム運営支出	59	百万円	選手の年俸等は含まず
相手チーム支出	5	百万円	宿泊費のみ見込む
交通費	157	百万円	単価1040円、観客数の90%が県内移動
観客関連支出（スタジアム内）			
入場料	168	百万円	単価1000円
飲食	134	百万円	単価1000円、観客数の80%が消費
物販	31	百万円	単価500円、観客数の37%が消費
観客関連支出（スタジアム外）			
飲食	238	百万円	単価2000円、観客数の71%が消費
宿泊費	134	百万円	観客数の10%が宿泊
イベントによる直接効果（b）	614	百万円	
スタジアム運営費	200	百万円	2百万円/日　×　20件　×　5日間
交通費	94	百万円	単価1040円、来客数の90%が県内移動
来客関連支出（スタジアム内）			
飲食	80	百万円	単価1000円、来客数の80%が消費
物販	19	百万円	単価500円、来客数の37%が消費
来客関連支出（スタジアム外）			
飲食	142	百万円	単価2000円、来客数の71%が消費
宿泊費	80	百万円	来客数の10%が宿泊
一次間接波及効果（c）	469	百万円	
二次間接波及効果（d）	290	百万円	
経済波及効果	2,300	百万円	＝（a）＋（b）＋（c）＋（d）

６．実現可能な事業スキームの検討

（１）資金調達について

まちなかスタジアムの建設において、民間・公的機関の資金調達メニューとしては以下のようなものが想定される。

なお、近年のスタジアム建設においては、toto スポーツ振興助成が主流となっており、この助成金の場合、公共機関からの補助金との併用は出来ないこととなっている。

表　資金調達メニュー

名称		助成項目	対象事業	制度概要
totoスポーツ振興助成（日本スポーツ振興センター）		大規模スポーツ施設整備への助成	・Jリーグホームスタジアム等の整備	・助成対象は地方公共団体 ・対象経費 →工事費、付帯設備費、設計管理費 ・助成額 →対象経費×3/4（上限30億円） ・国費（補助金含む）を支給されている事業は対象外
社会資本整備総合交付金（国土交通省）	都市再生整備計画事業 ※旧まちづくり交付金	自治体の都市再生整備計画に対する交付金	・地域防災施設の整備 ・賑わい施設、イベントの整備	・自治体が作成する都市整備計画全体に対して一括交付金 →具体的な使途は自治体の判断による ・国費負担割合 →事業費に対して40～45%
	都市公園事業費補助 ※旧都市公園事業費補助	都市公園の整備を推進する事業	・都市基幹公園の整備 →　総合公園 →　運動公園 他	・地方公共団体等が行う都市公園の整備に対する補助 →用地補助率　1/3 →施設補助率　1/2

資料：日本スポーツ振興センター、国土交通省　公表資料

（２）官民連携の事業手法について

スタジアムの整備における官民連携による事業実施手法として、以下のような手法が考えられる。

近年のスタジアム建設事例では、コンセッション型のＰＦＩ事業や寄付金での整備が行われている。

表　官民連携の事業手法

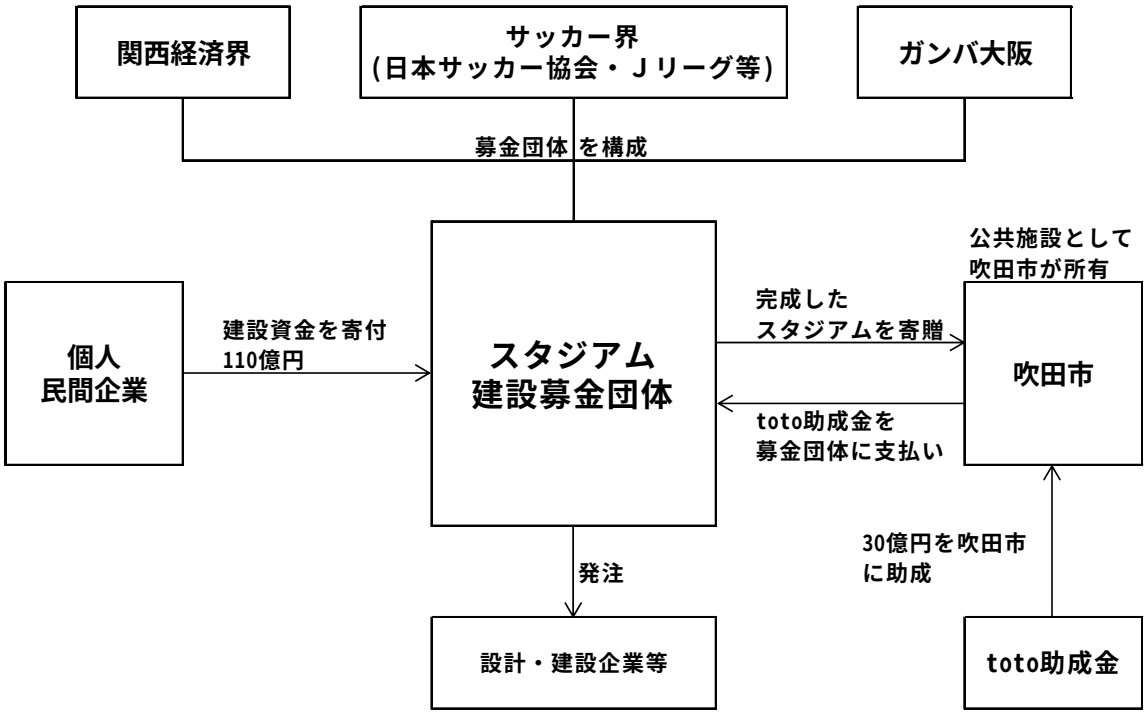
手法		資金調達	設計・建設	施設所有（運営時）	運営	財政負担	事例のタイプ
公設公営(一部業務委託)		公	公	公	公中心	あり (全面的)	
公設民営	指定管理者等	公	公	公	民中心	あり	
民設公営	DBO(注1)	公	民	公	民中心 (施設次第)	あり	
	定期借地権活用型PPP (床賃借等)	民	民	民	公中心	あり	
PFI (民設民営)	延べ払い型・サービス購入型	民	民	【BTOのケース】(注2) 公	公中心	あり (全面的)	
	混合型・独立採算型	民	民	【BOTのケース】(注3) 民(→終了後 公へ)	民中心	混合型は あり	
	コンセッション (混合型・独立採算型)	民	民	公 民は公営施設等の 運営権を取得	民による経営	混合型は あり	北九州市
民設民営	地方自治体法第96条の 「負担付きの寄付」	民	民	公 民は興行権を取得	民による経営	なし	吹田市

注1.DBO(Design Build Operate)は、公共が起債や交付金等により資金調達を行い、施設の設計・建設・運営を民間に包括的に委託する方式。
注2.BTO(Build Transfer and Operate)は、民間が施設を設計・建設し、施設完成直後に公共に所有権を移転し、民間が維持管理・運営を行う方式。
注3.BOT(Build Operate and Transfer)は、民間が施設を設計・建設し、維持管理・運営を行い、事業終了後に公共に施設所有権を移転する方式。

出典：スマート・ベニュー研究会、株式会社日本政策投資銀行
スポーツ施設を核とした街づくりを担う「スマート・ベニュー」
～地域の交流空間としての多機能複合型施設～　　（一部加筆）

（３）市民･県民等による寄付金での整備（吹田市）

吹田市でのスタジアム整備では、市民、企業からの寄付金をベースに建設費を負担するスタジアム建設が進んでいる。以下に事業手法の概要を整理する。



事業手法	募金団体設立型（地方自治法第96条の「負担付寄付」）
建設費	140億円 寄付金　110億円 toto助成金　30億円
施設所有	吹田市（建設後）
土地所有	独立行政法人 日本万国博覧会記念機構 同機構より吹田市が賃借 賃借料は指定管理者（ガンバ大阪）が負担（16500万円程度）
維持管理費	指定管理者負担（ガンバ大阪）
修繕費	指定管理者負担（ガンバ大阪） *大規模修繕費も含む 指定管理者（ガンバ大阪）が年額5千万円を積立て 大規模修繕費を30年で15億円を目安としている

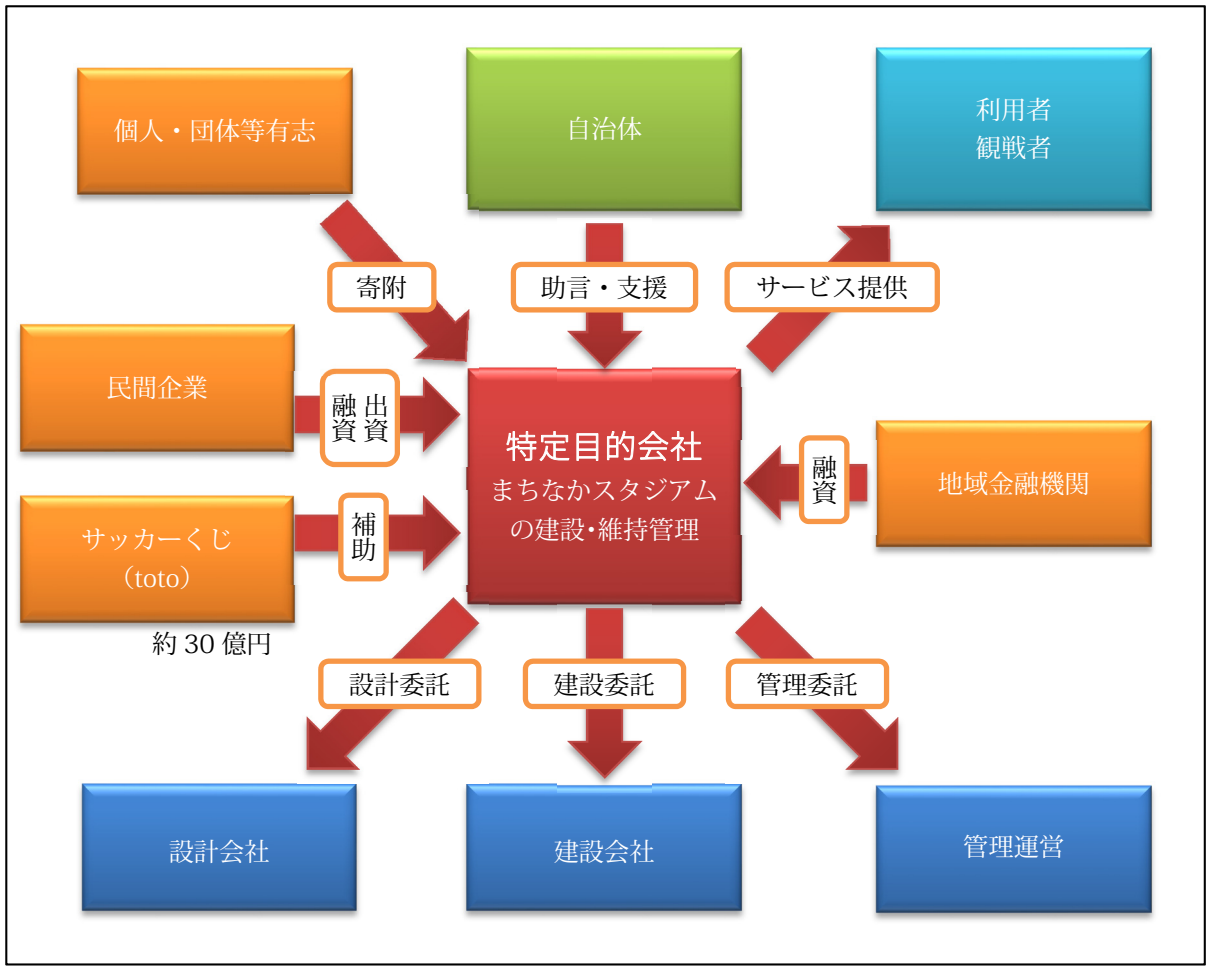
（４）整備･運営体制について

まちなかスタジアム整備の事業スキームの一例を以下に示す。

富山まちなかスタジアムはＰＦＩ事業会社（特定目的会社）を設立し、プロジェクト（施設利用料金収入、広告料収入、維持管理費支払等）から得られる収益を担保としたプロジェクト･ファイナンスによる資金調達を行い、スタジアム建設から施設の管理運営までを担う。

建設費や維持管理費については、民間 toto スポーツ振興助成やその他資金により拠出し、地方自治体や県民・市民が支援できるスキームを形成する。

スタジアムの管理運営は民間企業等への委託を想定し、地元密着の魅力的なサッカー場運営を実施していく。



ＰＦＩにて整備･管理を行う場合の事業スキーム（案）

７．今後の課題

まちなかスタジアムの建設において、今後の検討課題として考えられる事柄について、以下に示す。

（１）富山城址風致地区の景観配慮

本提言で整備候補地として仮定した富山城址公園は、より快適な都市環境をつくり出すため、自然の環境を維持し保護することから、富山城址風致地区に指定されている。

このことを踏まえ、まちなかスタジアム建設においては周辺と調和し、かつシンボル性を高める景観づくり（建築物の形や外壁の色彩における配慮、緑地面積の確保など）に充分配慮していくことが必要である。

（２）富山県総合運動公園陸上競技場との両立

現在カターレ富山の本拠地となっている富山県総合運動公園陸上競技場については、まちなかスタジアムの建設に伴い、稼働率の低下が懸念され、利用促進について検討していくことが課題となる。

Ｊリーグの試合を行わないことにより、本来の陸上競技場（第１種公認）としての機能が最大限発揮できることとなり、陸上競技を中心とした富山県のスポーツ振興拠点としての活用方策を検討していくことが有効であると考える。

富山県総合運動公園陸上競技場施設の概要

施設	概要
トラックフィールド面積	23,019 ㎡
走路	全天候型舗装 400mトラック９レーン 3000m障害物レーン付き
走り幅跳び、三段跳び	４レーン
棒高跳び	６ヶ所
やり投げ	２ヶ所
円盤投げ	２ヶ所（兼用）
砲丸投げ	４ヶ所
インフィールド芝生舗装	106m×70m

（資料：富山県総合運動公園ホームページ）



富山県総合運動公園陸上競技場全景
（出典：富山県総合運動公園ホームページ）

８．まちなかスタジアム構想の提言

我々地域活性化委員会では、２年間の活動を経て、本提言書において、「まちなかスタジアム構想」が地域の活性化、一体感の醸成に与えるインパクトや、そのスペック（立地、規模、建設費等）について具体的に検証・検討いたしました。

そのうえで我々は、ここまで論じてきた「まちなかスタジアム構想」の実現が、地方都市の抱える諸問題（少子高齢化に伴う人口減少や市街地空洞化による地域の活力低下等）を解決し、新たな地域アイデンティティを創出するうえで大きな役割を果たしうるとあらためて確信し、世に向けて提言いたします。

そうした想いを込めて本提言には次のようなタイトルを付します。

富山経済同友会まちなか活性化プロジェクト
まちなかスタジアム構想

コンパクトシティ施策に資する
多機能複合型大規模集客施設の整備による
持続可能なまちづくりの提言

本構想の実現には、地元自治体や経済界の協力はもとより、何より地域住民の皆さま一人一人の応援、後押しが不可欠であると考えています。本提言をきっかけとして、少しでも多くの方に地元の誇りとしてのスタジアム構想に興味を持っていただき、それが大きなムーブメントに繋がっていくことを期待し、提言の結びに代えさせていただきます。

「創造」する経済人、「行動」する同友会。

今後とも、富山経済同友会をよろしくお願い申し上げます。

Ｊリーグのように隔週単位で恒常的に数千人から数万人が訪れるイベントは地方都市にはそう多くあるものではない。

もし、ホームスタジアムが町の中心にあり、ショッピングモールやホテル、映画館などと併設されていれば、どれだけ地域に賑わいを取り戻せるだろうか。さらにいえば、駅に近ければ高齢者にも子供連れにも便利で優しい。スタジアムが屋根で覆われていれば雨の心配もなくデートにも最適だし、サポーターの声も大きく届く。（中略）

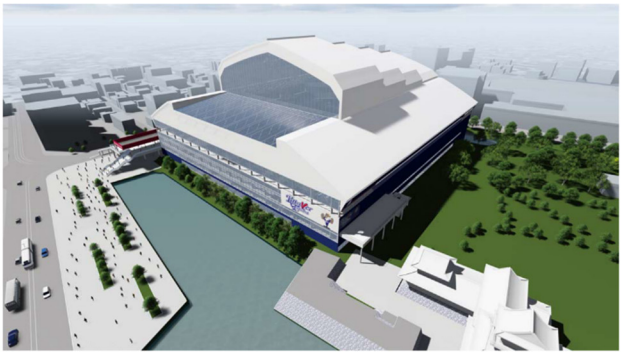
何より、サッカースタジアムであればピッチとスタンドの距離が近くプレーの臨場感は最高のものとなる。地域密着を理念とするＪリーグにとって、豊かなスポーツ文化を地域に根付かせる鍵となるスタジアムは重要なテーマなのだ。

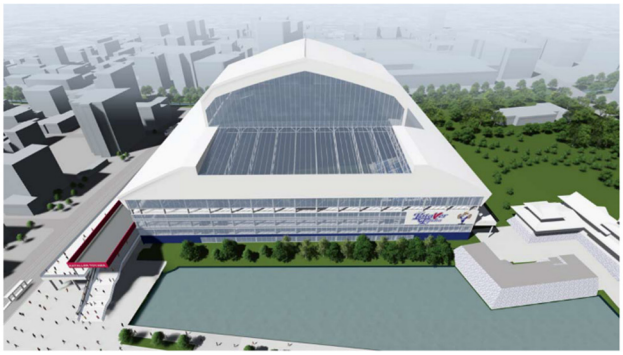
（Ｊリーグチェアマンコラムより引用）

巻末資料１：まちなかスタジアム検討案



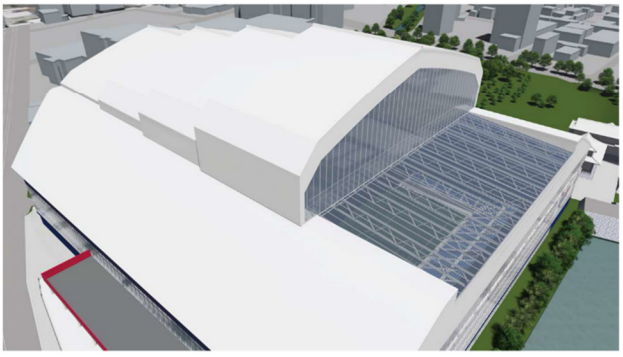


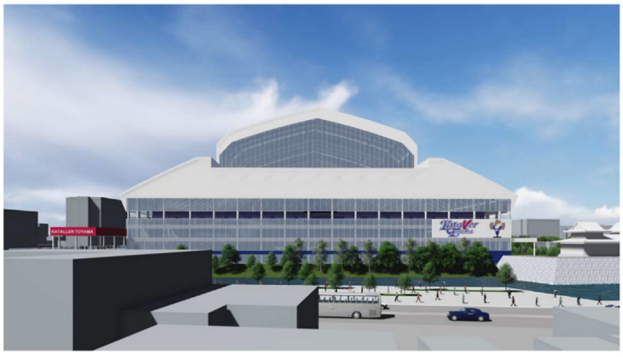




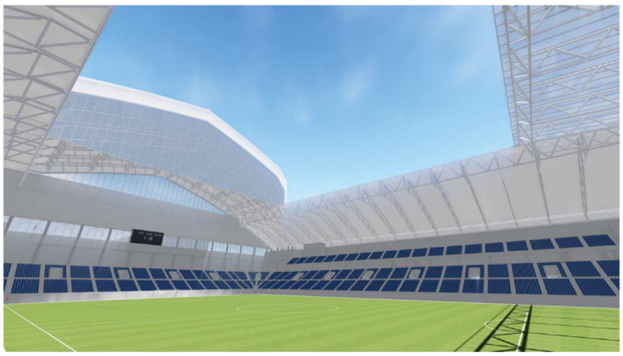




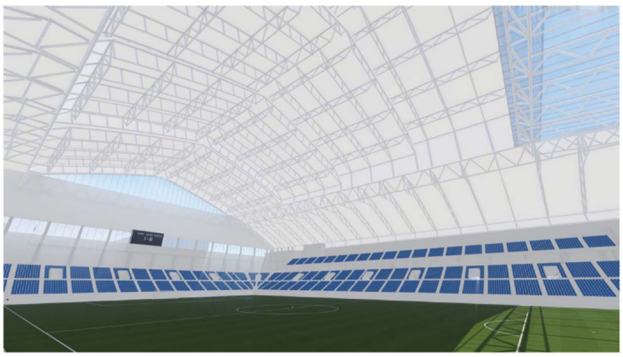




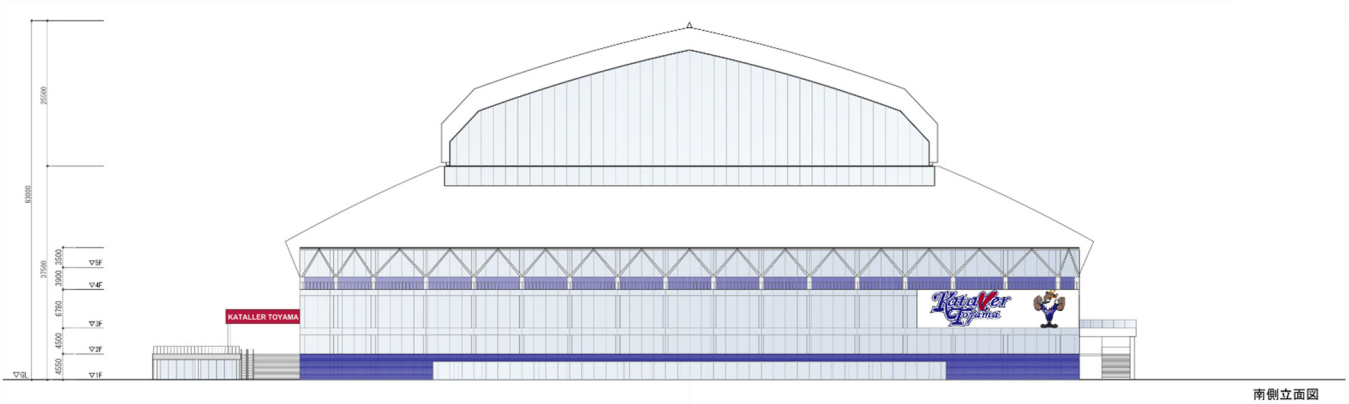




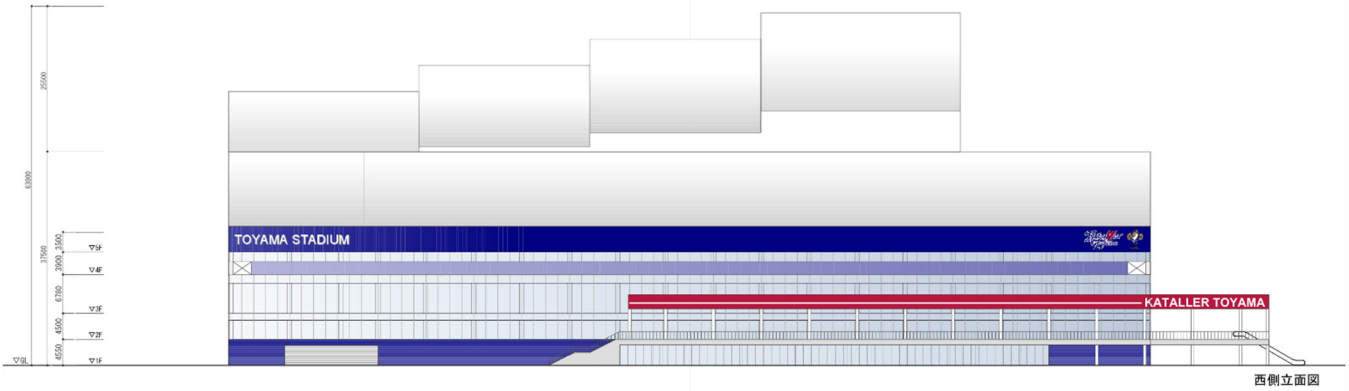




立面図



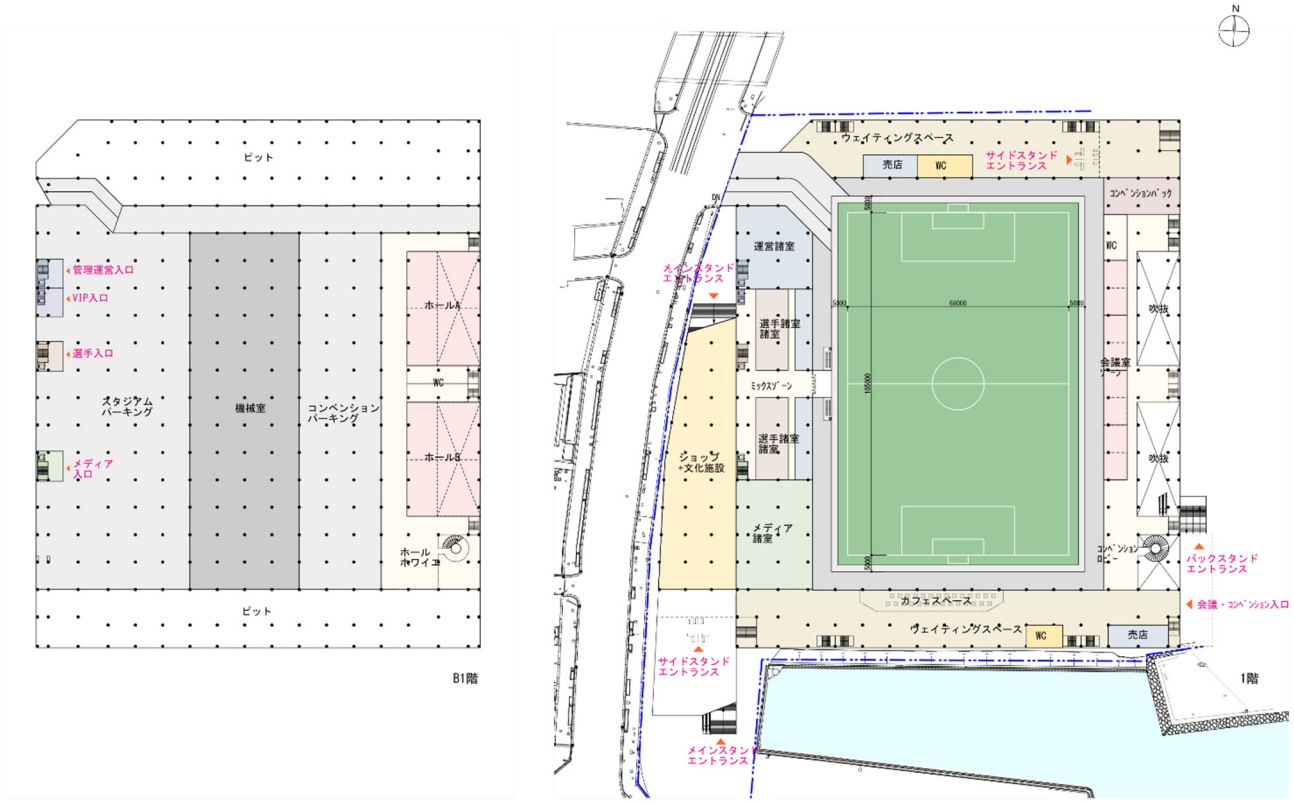
南側立面図



西側立面図

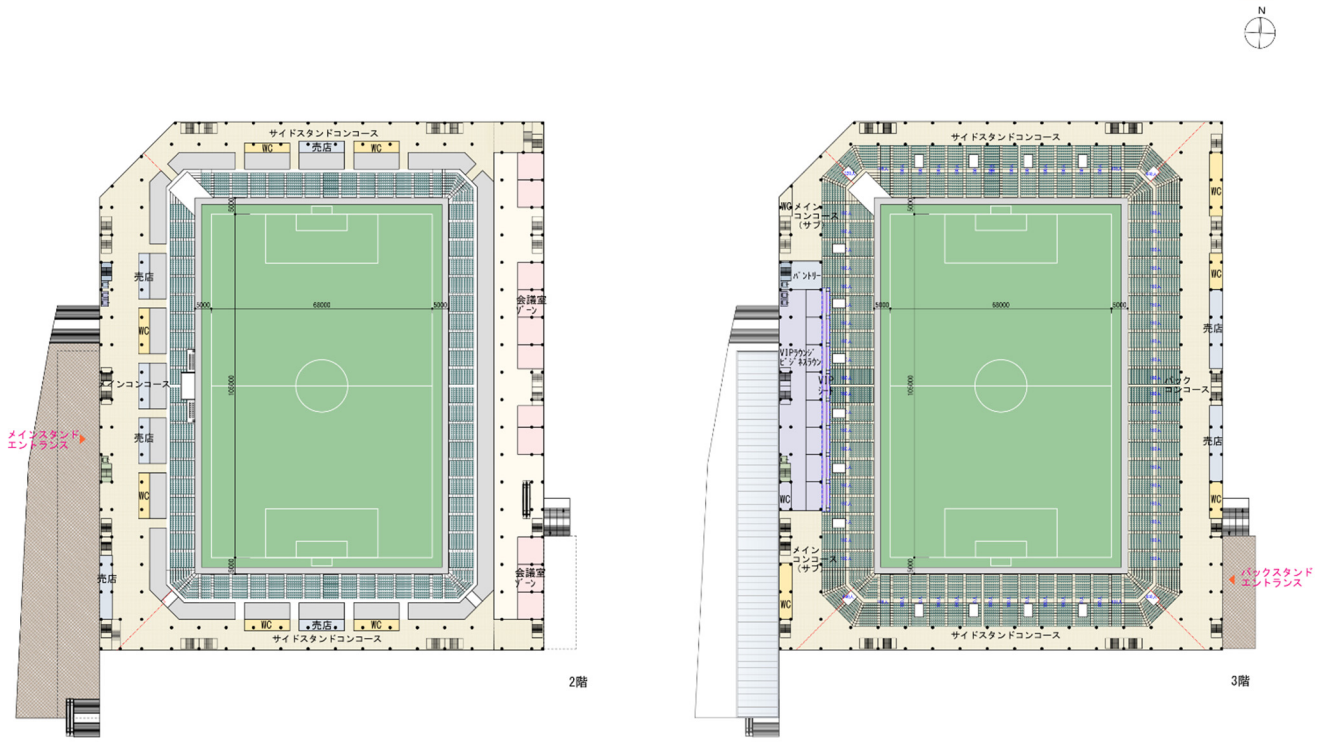
富山スタジアム　検討案

B1階／1階平面図



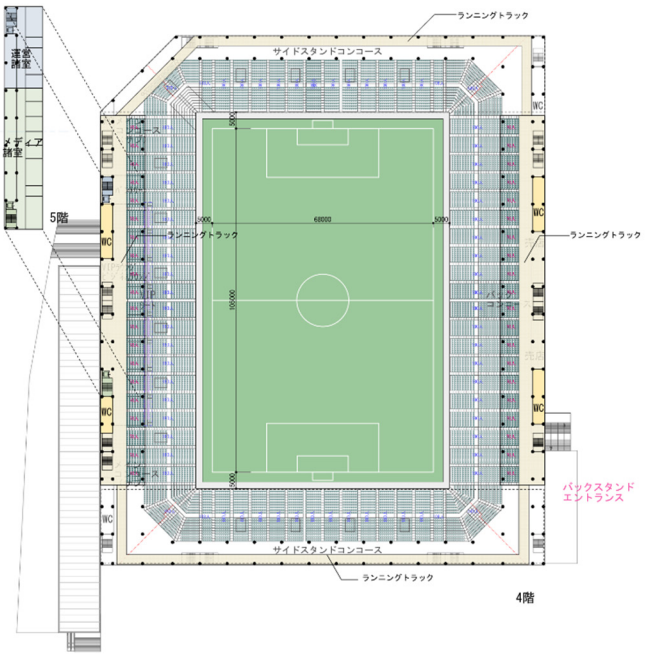
富山スタジアム　検討案

2階／3階平面図

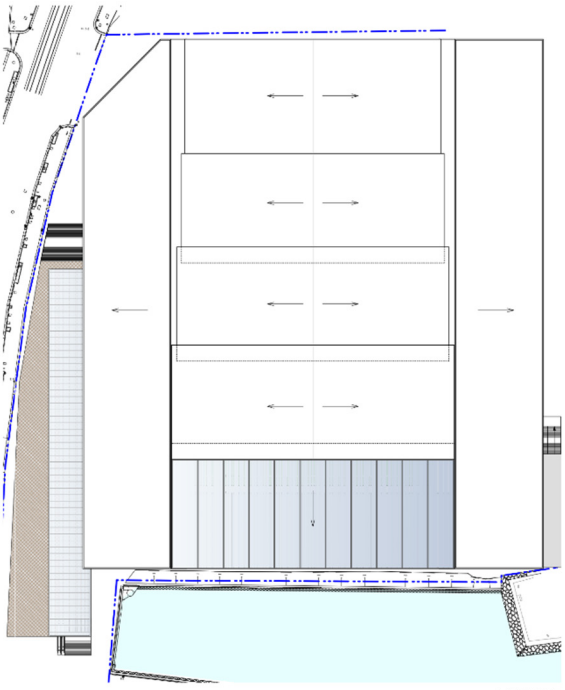


富山スタジアム　検討案

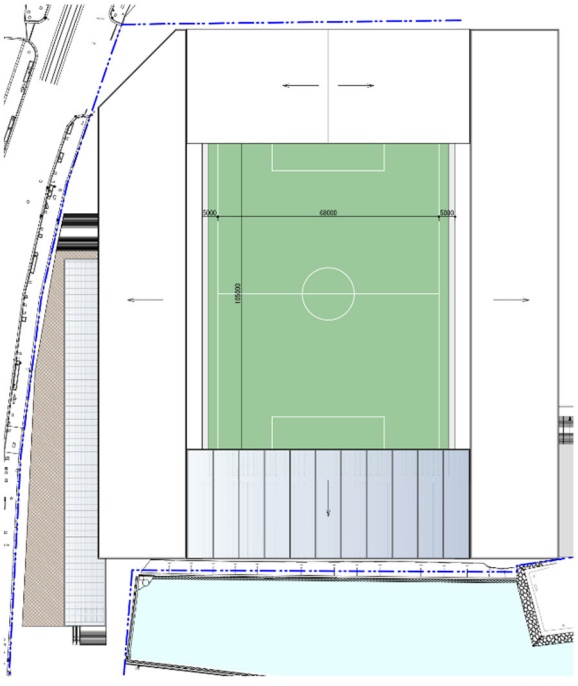
4階／5階平面図



屋根伏平面図



屋根閉鎖時



屋根開放時

巻末資料２：地域活性化委員会　委員名簿（平成 27 年 3 月 31 日現在）

	氏　名	会　社　名	役　職
委員長	市森　友明	㈱新日本コンサルタント	取締役社長
副委員長	石倉　央	㈱ＦＰ不動産センター	代表取締役
副委員長	鵜殿　裕	㈱日本政策投資銀行	富山事務所長
副委員長	白倉　三喜	富山日産自動車㈱	顧問
副委員長	髙林　俊也	三菱商事㈱	北陸支店長
副委員長	羽根　由	㈱生活ネット研究所	取締役所長
副委員長	山野　昌道	㈱チューリップテレビ	常務取締役
専門委員	牛丸　久史	大成建設㈱	富山営業所長
専門委員	古邸　幸裕	㈱ＪＴＢ中部富山支店	支店長
	浅野　雅史	㈱北陸バロン美装	代表取締役
	池澤　猛	㈱東芝	北陸支社総合営業部 部長
	池田　安隆	㈱池田屋安兵衛商店	代表取締役
	稲田　祐治	富山地方鉄道㈱	専務取締役
	稲積　欣治	㈱岡部	取締役社長
	稲葉　実	㈱三四五建築研究所	主宰
	今井　壽子	㈲ゼフィール	代表取締役
	今堀　喜一	㈱スカイインテック	取締役社長
	遠藤　忠正	富山交易㈱	取締役社長
	大澤　晃男	㈱宝来	専務取締役
	大澤　一雄	伊藤忠商事㈱	富山支店長
	大島　悦男	第一ファインケミカル㈱	取締役社長
	大野　賢治	菱機工業㈱	富山支店長
	大橋　聡司	大高建設㈱	取締役社長
	岡田　和久	富山ターミナルビル㈱	取締役社長
	岡本　志郎	㈱大和富山店	店長
	岡本　肇	㈲岡本砺工業	代表取締役
	荻原　隆夫	高岡商工会議所	専務理事
	奥野　康史	電源開発㈱	北陸支社長
	小田　哲也	新日鐵住金㈱	北陸支店長
	尾山　謙二郎	マンパワーセキュリティ㈱	代表取締役
	尾山　幸祐	プルデンシャル生命保険㈱	部長
	川合　紀子	㈲ステップアップ	代表取締役
	國清　敏之	㈱東芝	北陸支社長
	酒井　正秋	㈱ホクタテ	取締役社長
	坂本　吉隆	㈱富山環境整備	相談役
	櫻田　喜春	藤堂工業㈱	相談役
	佐藤　幸博	㈱柿里	取締役社長
	三條　紀明	損害保険ジャパン日本興亜㈱	富山支店長
	杉谷　裕次	鈴木工業㈱	取締役社長

	氏　名	会　社　名	役　職
	瀬戸　徹	㈱瀬戸	代表取締役
	千田　由美子	㈱アイザック・ユー	取締役社長
	高田　順一	阪神化成工業㈱	取締役社長
	髙田　千明	髙田食糧㈱	取締役社長
	鷹西　賢一	北陸電機製造㈱	取締役社長
	舘　直人	たち建設㈱	代表取締役
	橘　義継	㈲真栄工芸	代表取締役
	塚本　昭一	日電産業㈱	取締役社長
	寺島　雅峰	㈱寺島コンサルタント	取締役社長
	長坂　真樹夫	富士通㈱	富山支店長
	中島　奈々	㈱フォー・ユー	取締役社長
	中勝　篤司	㈱司構造計画	代表取締役
	成田　隆志	㈱スズキアリーナ富山東	代表取締役
	西尾　敏	全日本空輸㈱	富山支店長
	西岡　秀次	富山商工会議所	専務理事
	新田　八朗	日本海ガス㈱	取締役社長
	能登　良也	㈱レジェンド・アプリケーションズ	北陸事業所長
	萩原　正剛	㈱スリー・ティ	取締役会長
	平井　聡治	大和ハウス工業㈱	富山支店長
	平田　一彌	平田印刷㈱	取締役社長
	平野　泰康	ハイテック㈱	取締役会長
	古川　邦男	㈱ラックス	代表取締役
	堀井　文夫	初音工業㈱	取締役社長
	桝田　隆一郎	㈱桝田酒造店	取締役社長
	宮本　佐智夫	富山新聞社	代表
	村上　陽一	ＪＦＥスチール㈱	北陸支社長
	村田　幸平	（一財）北陸電気保安協会	理事長
	森田　忠雄	㈱富山県義肢製作所	取締役会長
	矢野　茂	北陸電力㈱	常務取締役
	山下　清胤	三協立山㈱	取締役社長
	山野　雅彦	住友生命保険（相）	富山支社長
	若林　忠嗣	日本海電業㈱	代表取締役
	渡辺　高志	富士電機㈱	北陸支社長

担当役員	塩井　保彦	㈱広貫堂	代表取締役

（以上、73 名）

富山経済同友会
〒930-0856　富山市牛島新町５－５
ＴＥＬ（０７６）４４４－０６６０
ＦＡＸ（０７６）４４４－０６６１
E-mail　doyukai@po.hitwave.or.jp
ホームページ　http://www.doyukai.org/